

絵 図 史 料

佐伯城跡関連絵図史料一覧（1）

| 番号 | 史料名 | 作成時期 和暦・西暦 | |
|-----|--|---------------------|------------------------|
| | | 法量 (cm) タテ×ヨコ | 所 蔵 |
| 絵図1 | [佐伯城修復願図] | 宝永6年 79×76.5 | 1709年 個人 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 願出者は毛利周防守。 佐伯城を描いた絵図では、現時点で最も古いもの。正式な絵図名称は不明 天守はすでに無く、現況と同様の天守台のみ。三の丸には「只今之居所」とあり、居住場所が移っている。 宝永4年（1707）の地震で崩れた西出丸・登城道の石垣の修復を願い出るもの。 山頂の建築物も実際には大きく損われており、享保13年（1728）までに、これらの修復も行った。 | | |
| 絵図2 | 二之御丸惣地引之図 | 享保年間 135.5×204 | 1716～1735年 佐伯市歴史資料館 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 宝永6年（1709）～享保13年（1728）の修理で作成されたもので、享保12年（1727）頃の作成か。 全体にヘラ等による罫線が写りかかっているが、居宅部分は角度が異なり、一旦切り取って貼り直している。 二の丸の建築物の配置を描き、柱位置を■で示す。 二重櫓と大型の平櫓は、壁の一部が石垣天端から外側に出ており、懸造りであったと考えられる。 | | |
| 絵図3 | [佐伯城絵図] | 享保17年 52.5×77 | 1732年 個人 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 願出者は毛利周防守。 小野英治氏画像提供。正式な絵図名称は不明。 本丸外曲輪の東と北の斜面が崩れたことを報告するもの。 斜面が崩れたことを「つゑぬけ」（瀬戸内・中国地方の方言）と表記する。 北斜面は、石垣で修復しなければ大破に及ぶ可能性が示される。 北出丸二重櫓が懸造りとして描かれる。 | | |
| 絵図4 | 御城石垣塀破損絵図 | 享保19年 52.5×79 | 1734年 個人 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 風雨により本丸外曲輪北の石垣・塀・その下の斜面が崩れ、その修復を願い出るもの。 絵図3に描かれる被災か所と重なるか。斜面部の被害は、長さ、幅を逆に誤記か。 修復の経過や関わった技術者は、文献史料に記載あり。 修復の結果、雛段状の石垣（No.229～238）が築かれる。 | | |
| 絵図5 | 豊後国佐伯城石垣下共二破損之絵図 | 享保20年 55×82 | 1735年 個人 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 願出者は毛利周防守。 小野英治1973「佐伯城絵図解説二」『佐伯史談』87号より転載。 絵図4と同内容。 | | |
| 絵図6 | 御城并御城下絵図 | 元文3年 281.8×243.6 | 1738年 佐伯市歴史資料館 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 佐伯城と城下町の全域を詳細に描く。曲輪内部の建築物の外観を描く唯一の図。 捨曲輪を描き、それぞれに長さ・幅を記入する。雄池・雌池や、北出丸と池をつなぐ城道も描く。 三の丸御殿の裏手には庭園があり、池と園路が描かれる。櫓門の前面と御殿との間は石畳となる。 登城道は、三の丸と西出丸・本丸外曲輪をつなぐものと、南東の武家地と本丸外曲輪をつなぐものの2本。 | | |
| 絵図7 | 豊後国佐伯城破損之覚 | 延享2年 82.5×81.9 | 1745年 佐伯市歴史資料館 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 願出者は毛利寅太郎。 前年の風雨洪水により本丸外曲輪の石垣・塀に被害が出たため、修理を願い出たもの。 実際にはその他の建築物にもかなりの被害が生じていたことが、文献史料からわかる。 | | |

佐伯城跡関連絵図史料一覧（2）

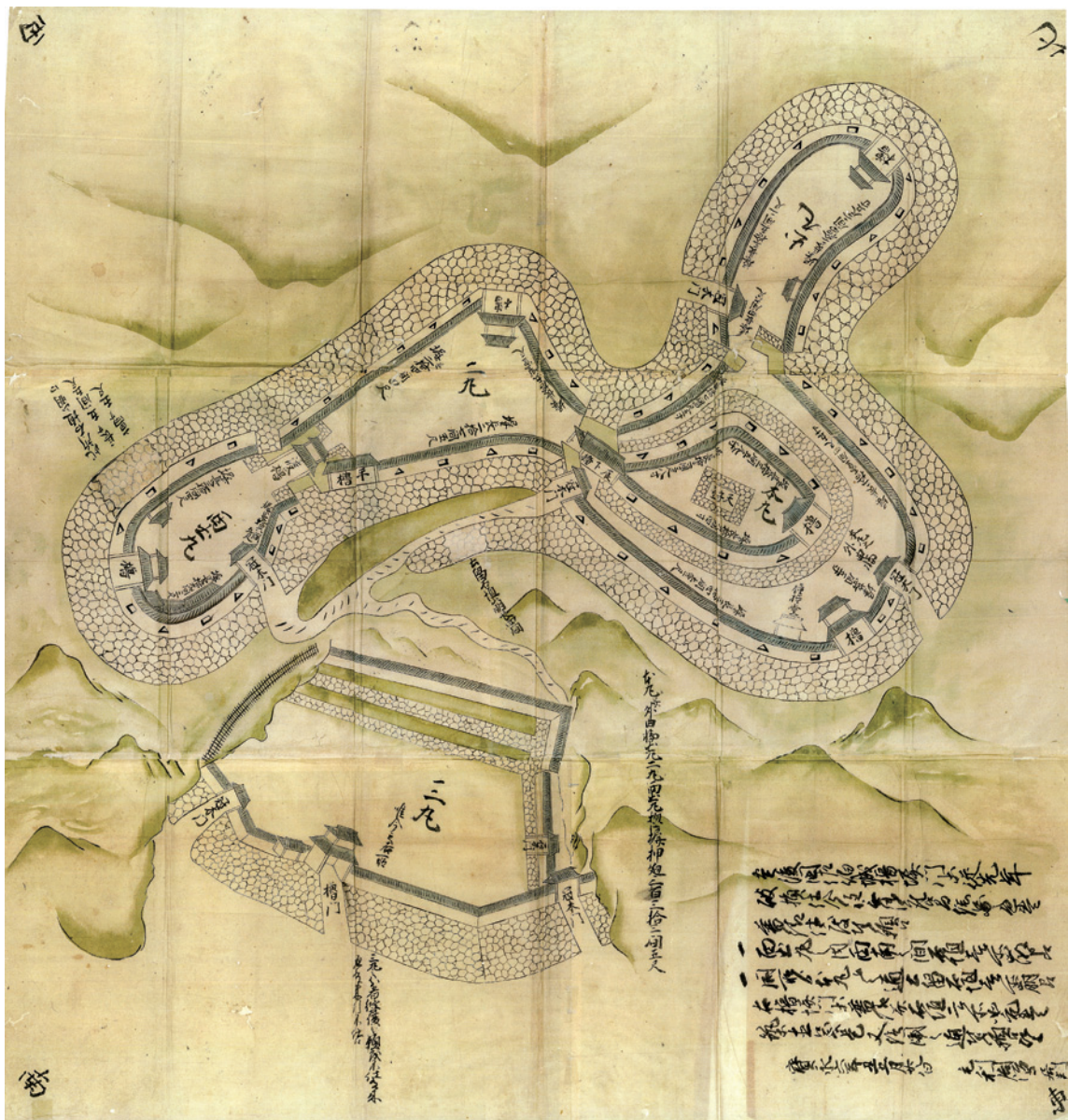
| 番号 | 史料名 | 作成時期 和暦・西暦 | |
|--|---------------|---------------|--------|
| | | 法量 (cm) タテ×ヨコ | 所 蔵 |
| 備 考 | | | |
| 絵図8 | 豊後国佐伯城破損之覚 | 明和7年 | 1770年 |
| | | 82×82 | 個人 |
| <ul style="list-style-type: none"> 願出者は毛利彦三郎。 『毛利家資料』（佐伯市歴史資料館寄託） 前年の地震により本丸・本丸外曲輪・西出丸・三の丸の石垣に被害が生じたため、修理を願い出たもの。 | | | |
| 絵図9 | 御城内御絵図惣間取之図 | 天保5年 | 1834年 |
| | | 58×108 | 個人 |
| <ul style="list-style-type: none"> 小野英治氏画像提供。 三の丸御殿の奥向きの台所を普請した際のもの。 各部屋の名称・畳数が記入される。 | | | |
| 絵図10 | 三御丸絵図面 | 天保5年か | 1834年か |
| | | 55.2×82.6 | 個人 |
| <ul style="list-style-type: none"> 『毛利家資料』（佐伯市歴史資料館寄託） 原史料に年号の記載はないが、描かれている間取が絵図9と一致する。 | | | |
| 絵図11 | 尾野上御茶屋之尾崎平地絵図 | 嘉永2年 | 1849年 |
| | | 27.6×41.9 | 個人 |
| <ul style="list-style-type: none"> 『毛利家資料』（佐伯市歴史資料館寄託） 享保12年（1727）に三の丸南西の尾根に設けられた尾ノ上茶屋の敷地平面図か。 全体の坪数と、要所の幅を記載する。 | | | |
| 絵図12 | 豊後国佐伯城破損之覚 | 安政2年 | 1855年 |
| | | 82.2×86.5 | 個人 |
| <ul style="list-style-type: none"> 願出者は毛利安房守。 『毛利家資料』（佐伯市歴史資料館寄託） 前年の地震により本丸・二の丸・西出丸・北出丸・三の丸で石垣や建築物にかなりの被害が生じ、その修理を願い出るもの。 | | | |
| 絵図13 | 御奥御建継 | 文久3年 | 1863年 |
| | | 58×37 | 個人 |
| <ul style="list-style-type: none"> 小野英治氏画像提供。 三の丸御殿の西側（奥部分）のみ描き、間取りは絵図14と一致する。 絵図14に記載される、文久2年から3年の御奥の建て継ぎ時のもの。 | | | |
| 絵図14 | 三御丸五歩壺間之図 | 明治初期 | |
| | | 91×108.5 | 個人 |
| <ul style="list-style-type: none"> 『毛利家資料』（佐伯市歴史資料館寄託） 萬延元年（1860）に三の丸御殿の御広間など表向きを建て替え、文久2年（1862）から翌年にかけて奥向きの建て継ぎを行った後のもの。 作図者（高浦善太郎）が大分県とあることから、明治以降に複写したものの可能性が高い。 三の丸櫓門から御殿の玄関までは、石畳が描かれる。 | | | |

佐伯城跡関連絵図史料一覧（3）

| 番号 | 史料名 | 作成時期 和暦・西暦 | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| | | 法量 (cm) タテ×ヨコ | 所蔵 |
| 備考 | | | |
| 絵図15 | 佐伯城下地図（部分） | 明治初期か | 個人 |
| | | 96.5×78（全体） | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・小野英治1973「佐伯城絵図解説五」『佐伯史談』90号より転載。 ・原史料は城下まで含む絵図で、「明治維新前文久ヨリ慶応年間」の記入あり。 ・本丸外曲輪と北出丸を一体に描き、二の丸を狭く、西出丸を実態よりも広く描く。 ・雄池と雌池をそれぞれ「ワン淵（ブチ）」「メン淵（ブチ）」と描く。 | | | |
| 絵図16 | 県庁五歩耆間之図 | 明治4年 | 1871年 |
| | | 57×83 | 個人 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・小野英治氏画像提供。 ・三の丸御殿が佐伯県庁舎に転用された時のもの。 ・御稽古場や奥向きの一部は描かれておらず、解体されていたと考えられる。 | | | |
| 絵図17 | 豊後国佐伯城図 | 明治初期 | しろはく古地図と城の博物館富原文庫 |
| | | 81×237 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・陸軍による全国の城郭調査の一環で作成されたと考えられる『陸軍省城絵図』の一部。 ・山頂部の曲輪形状はかなり正確で、各曲輪の名称と幅や坪数、堀や石垣の長さを細かく記す。 ・堀・櫓は全て漆喰による塗籠で描かれる。 | | | |
| 絵図18 | 御山城之図 | 明治初期か | 個人 |
| | | 77.6×163.2 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・『毛利家資料』（佐伯市歴史資料館寄託） ・作図者（高浦善太郎）に絵図13同様に大分県とあるため、明治以降に作図されたもの。 ・曲輪の形状などは絵図17と同一。絵図17を下図としたものか。 ・櫓・堀は下見板張で描かれる。曲輪名や施設名の記入はない。 | | | |
| 絵図19 | 鶴谷城之図 | 明治初期か | 佐伯市歴史資料館 |
| | | 76×153.5 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・史料裏に「正保」の文字あり。 ・曲輪の形状や建築物は、絵図18とほぼ同様。 ・曲輪名や施設の名称が朱字と付箋で示される。 | | | |
| 絵図20 | 佐伯藩時代屋敷図 | 大正4年 | 1915年 |
| | | 55.5×55.8 | 佐伯市歴史資料館 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・佐伯市教育委員会1998『天祐館遺跡』付図より転載。 ・大正4年に、聞き取りなどを実施して明治4年（1871）頃の城下町の各屋敷などの様子を復元したもの。 ・山頂の曲輪は輪郭のみが描かれ、三の丸から西出丸へ至る登城道がある。 ・三の丸は御殿と御納戸倉・御書物倉・御書物奉行所の輪郭と、御殿裏の池、稲荷社が描かれる。 | | | |
| 絵図21 | 毛利神社風地図 | 昭和2年 | 1927年 |
| | | 27.6×35.5 | 佐伯市教育委員会 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・佐伯市に保管されていた『毛利神社創立願一件』の付図。原史料は青焼き。 ・神社は昭和4年（1929）に落成。 ・毛利神社の拝殿と神殿の配置を鳥瞰図で描く。 ・本丸外曲輪から本丸へと登る階段は、この時点では設けられていない。 | | | |

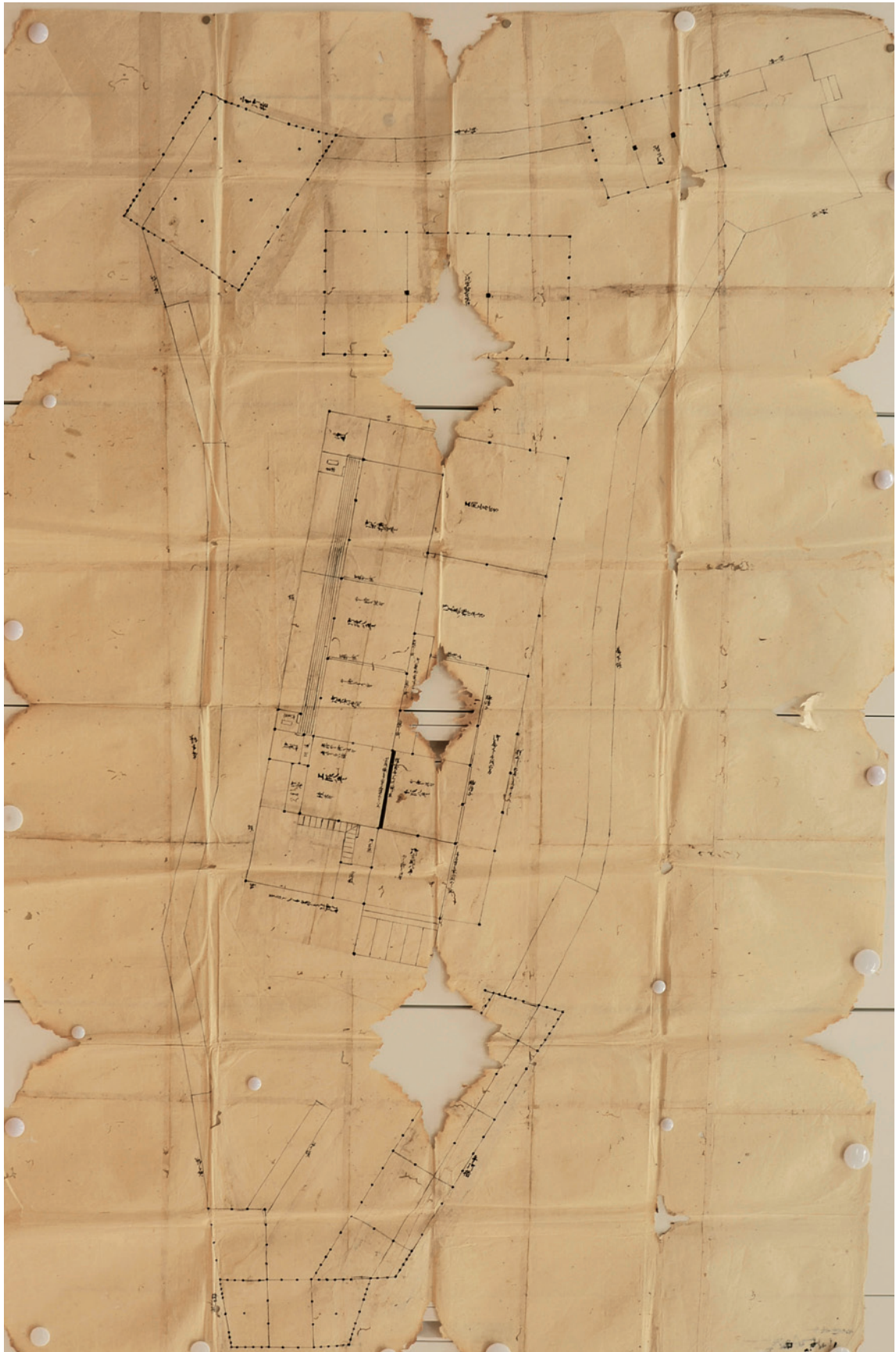
佐伯城跡関連絵図史料一覧（4）

| 番号 | 史料名 | 作成時期 和暦・西暦 | |
|---|---------------|---------------|----------|
| | | 法量 (cm) タテ×ヨコ | 所 蔵 |
| 備 考 | | | |
| 絵図22 | 毛利神社風致図 | 昭和8年 | 1933年 |
| | | 22.4×36 | 佐伯市教育委員会 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・佐伯市に保管されていた『毛利神社創立願一件』の付図。 ・昭和8年、佐伯町から寄付された山頂の土地を、神社の財産として登録する文書に添付されたもの。 ・本丸の毛利神社拝殿・神殿のほか、本丸外曲輪の東虎口に鳥居、二の丸に鳥居と社務所が描かれる。 ・本丸外曲輪から本丸へと登る階段は、まだ描かれていない。これ以降に設けられたものか。 | | | |
| 絵図23 | 御本丸二重御櫓三十歩一之図 | 不明 | |
| | | 不明 | 個人 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本丸外曲輪の北側面を描き、櫓の左側は外観、右側は内部の柱を描く。 ・外観は下見板張りで、内転びとなる。石垣の上に土台木を寝かせ、その上に柱を建てる。 | | | |
| 絵図24 | 西御丸梁行三拾分一図 | 不明 | |
| | | 不明 | 個人 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・西出丸二重櫓の西側面を描き、櫓の左側は外観、右側は内部の柱を描く。 ・外観は下見板張りで、内転びとなる。石垣の上に土台木を寝かせ、その上に柱を建てる。 | | | |
| 絵図25 | 御櫓拾歩一図 | 不明 | |
| | | 不明 | 個人 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・小野英治氏トレース図提供。 ・二重櫓の内部を描くが、場所は不明。 ・内転びで、石垣の上に土台木を寝かせ、その上に柱を建てる構造は絵図23・24と同様。 | | | |

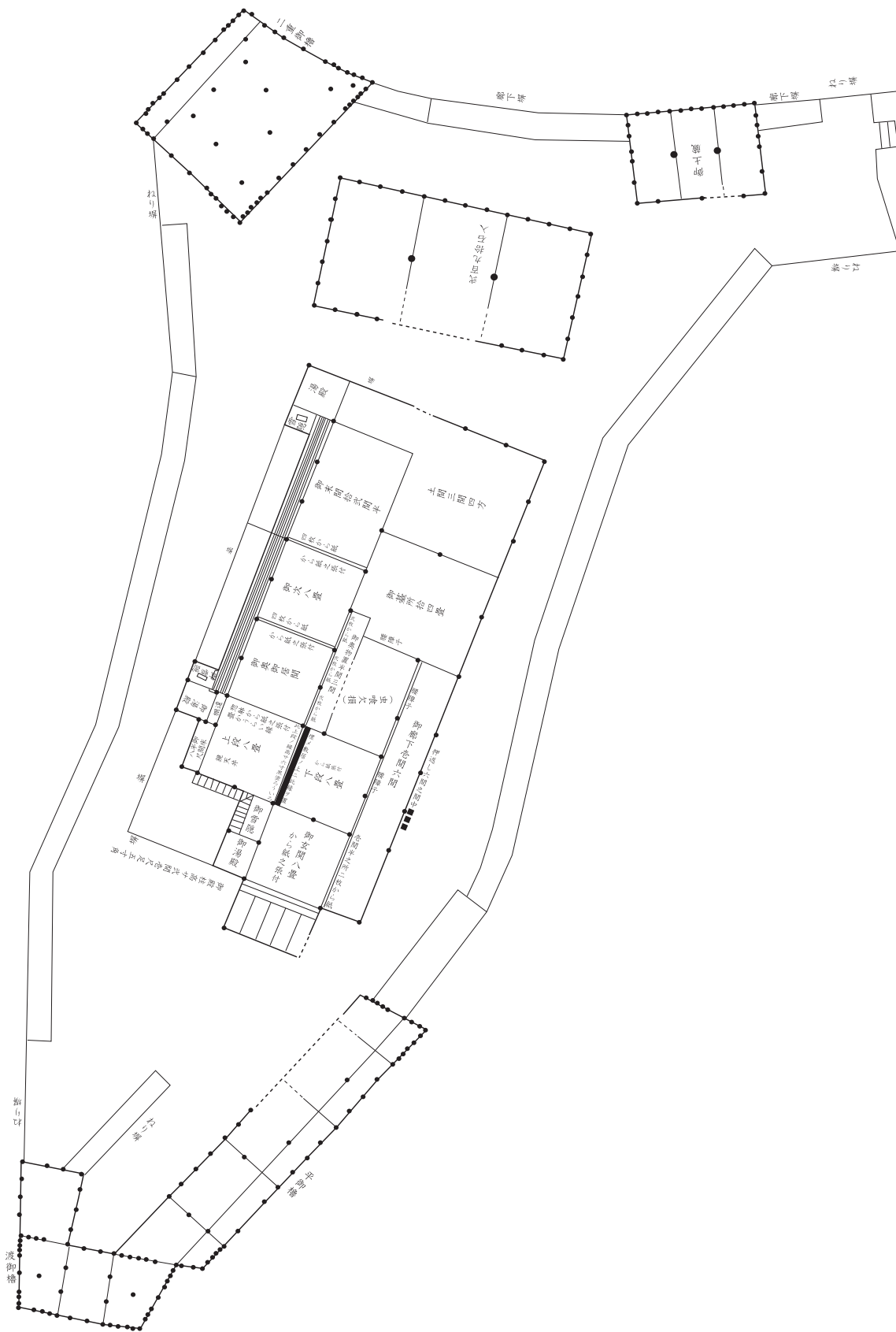


寶永六年五月十五日
 佐伯藩 藩主 松平 大膳
 修理 願書
 此の城は、前代藩主松平大膳公の御遺業に、今も残りて居るが、老朽にして、修理の必要あり。故に、修理の御願書に、御下付の御由、御承知の上、御下付の御旨、御奉答の御願書。

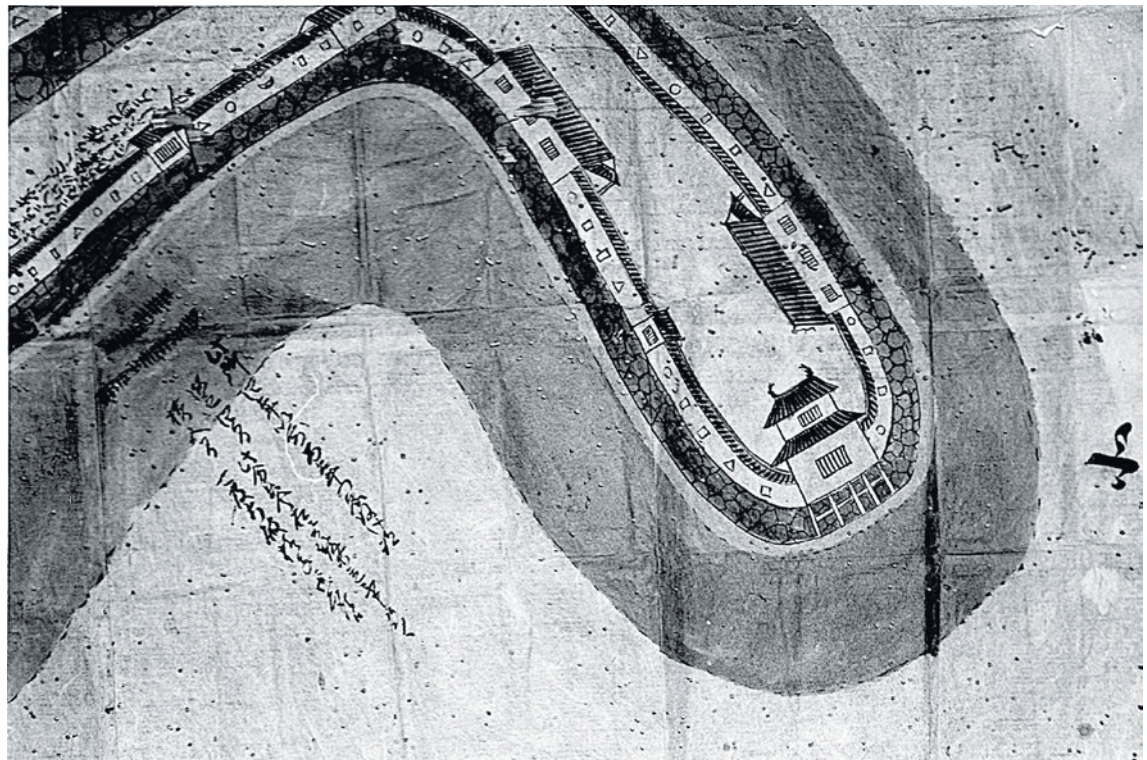
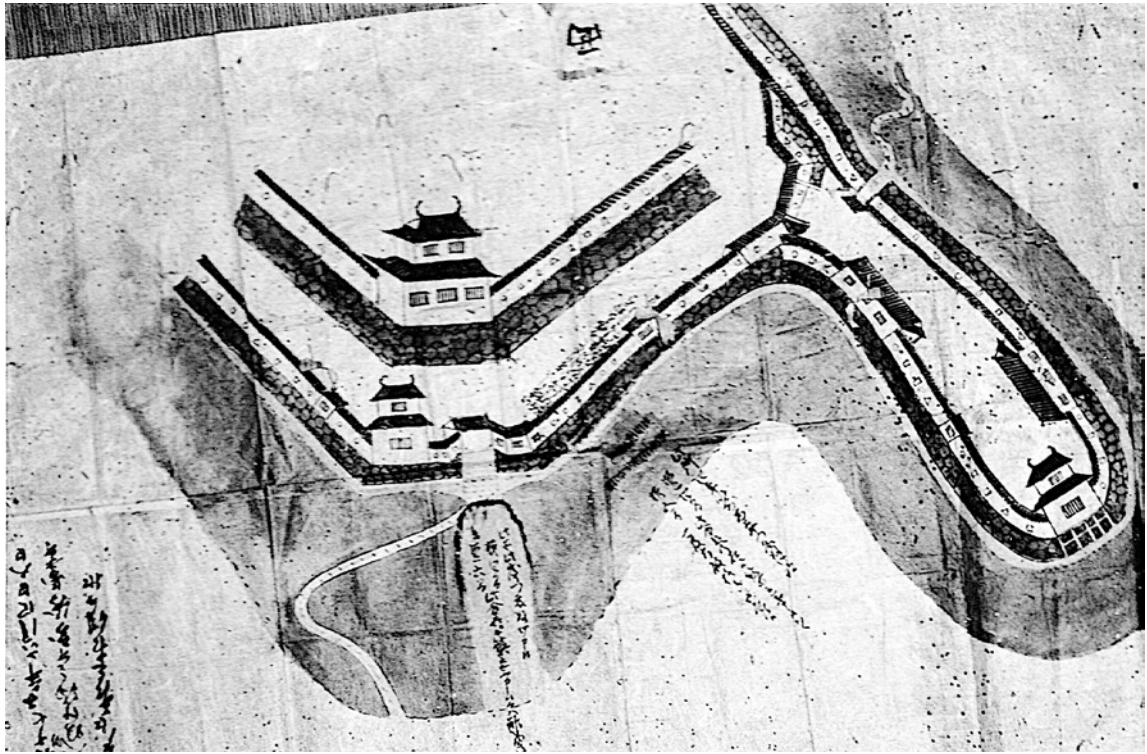
繪図 1 宝永6年（1709）佐伯城修復願図（個人蔵）



絵図2 享保年間 二之御丸惣地引之図 (佐伯市歴史資料館蔵)



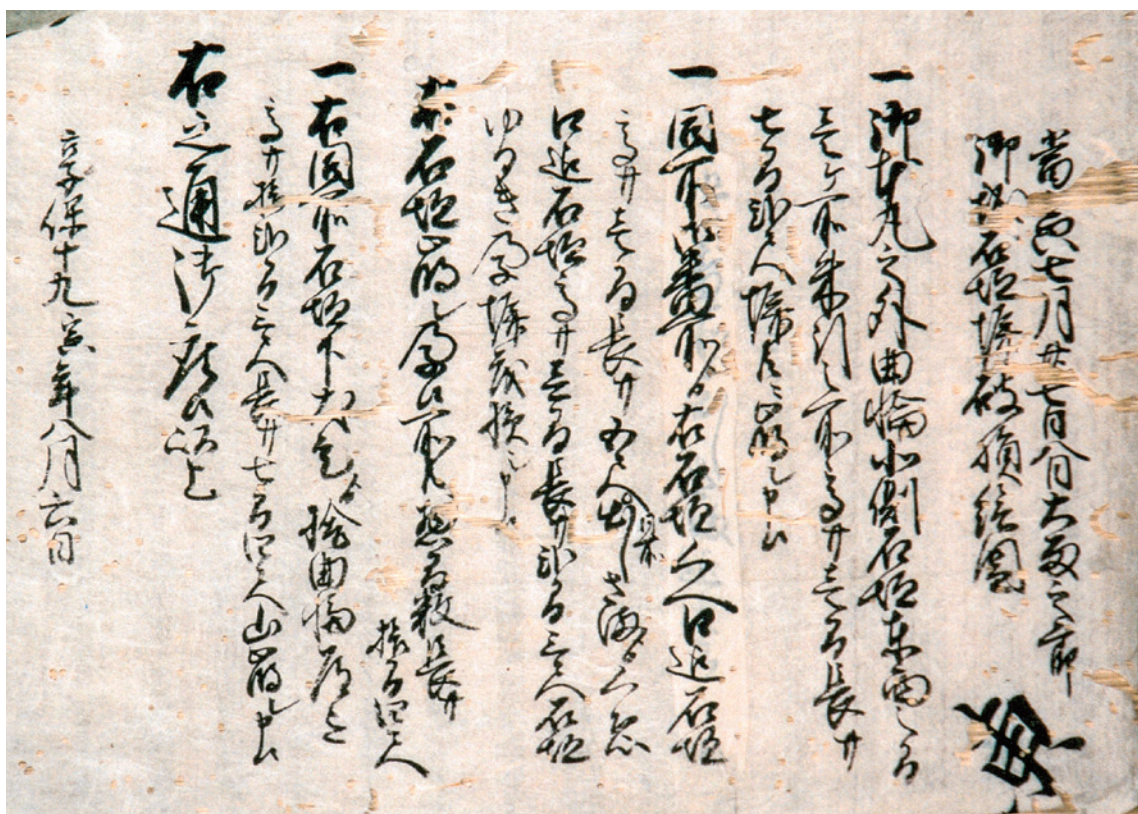
絵図2 享保年間 二之御丸惣地引之図のトレース図



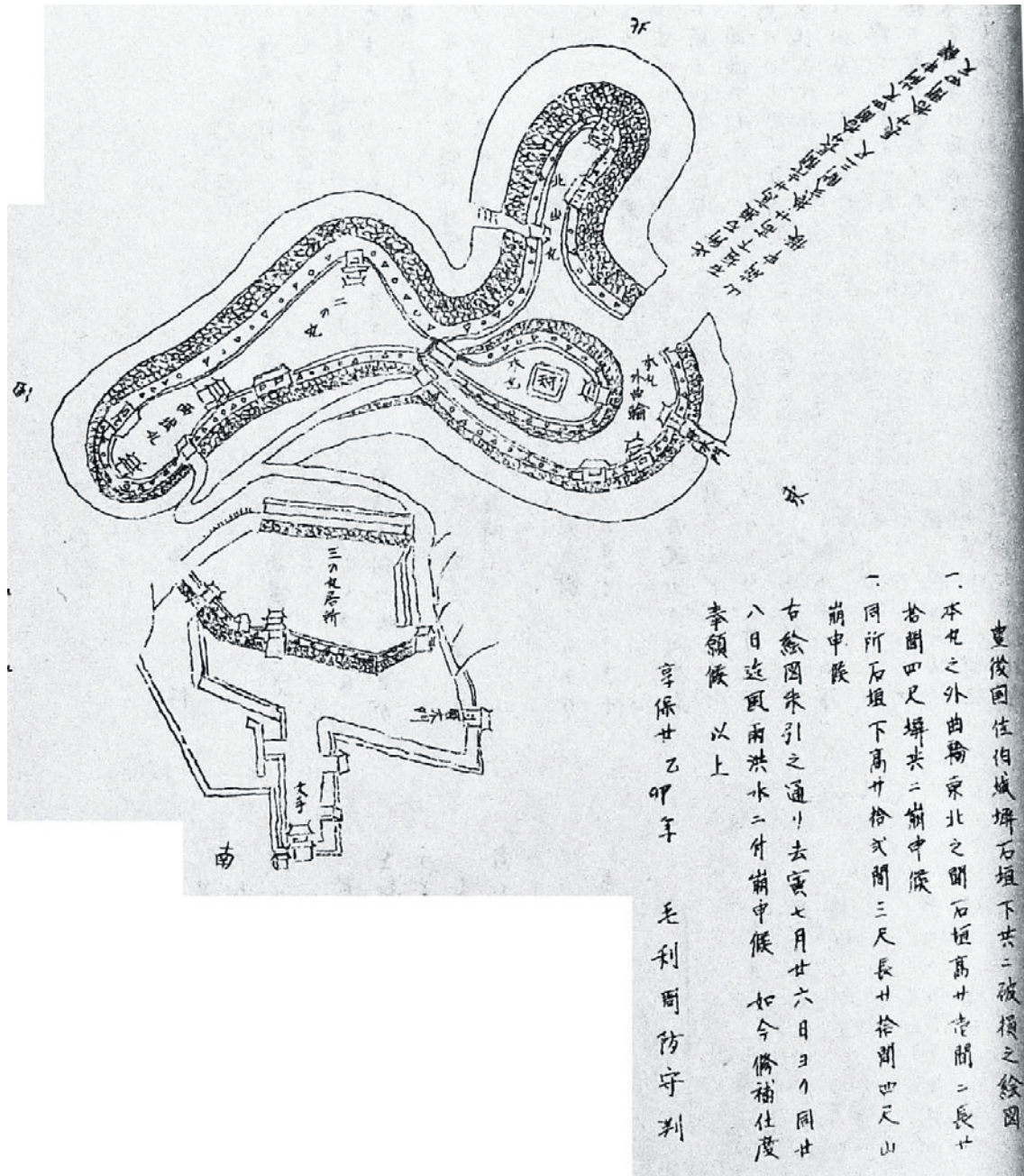
繪図3 享保17年(1732) 佐伯城繪図 (個人蔵) 小野英治氏画像提供



繪図4 享保19年(1734) 御城石垣塀破損繪図 (個人蔵) (1)



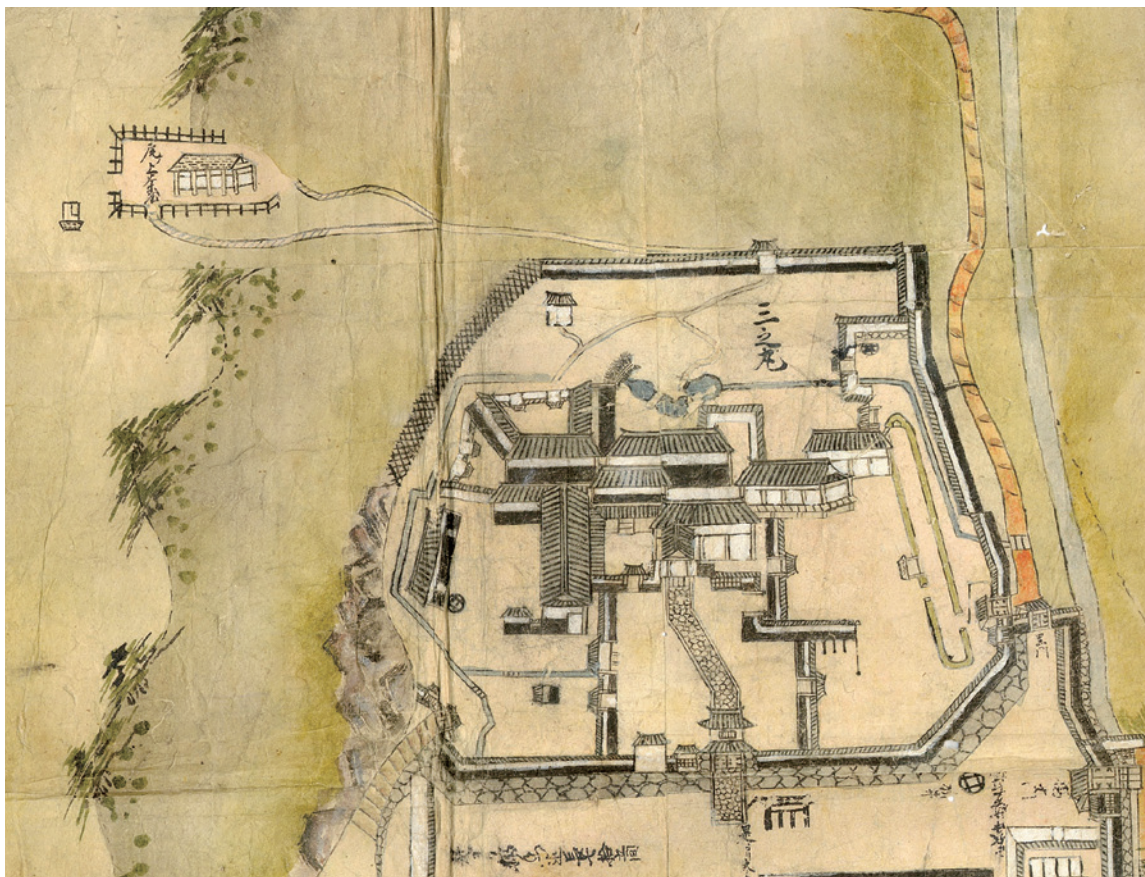
絵図4 享保19年（1734）御城石垣塀破損絵図（個人蔵）（2）



絵図5 享保20年（1735）豊後国佐伯城塀石垣下共二破損之絵図（個人蔵）
 小野英治1973「佐伯城絵図解説二」『佐伯史談』87号より転載



絵図6 元文3年(1738)御城并御城下絵図(部分)(佐伯市歴史資料館蔵)(1)



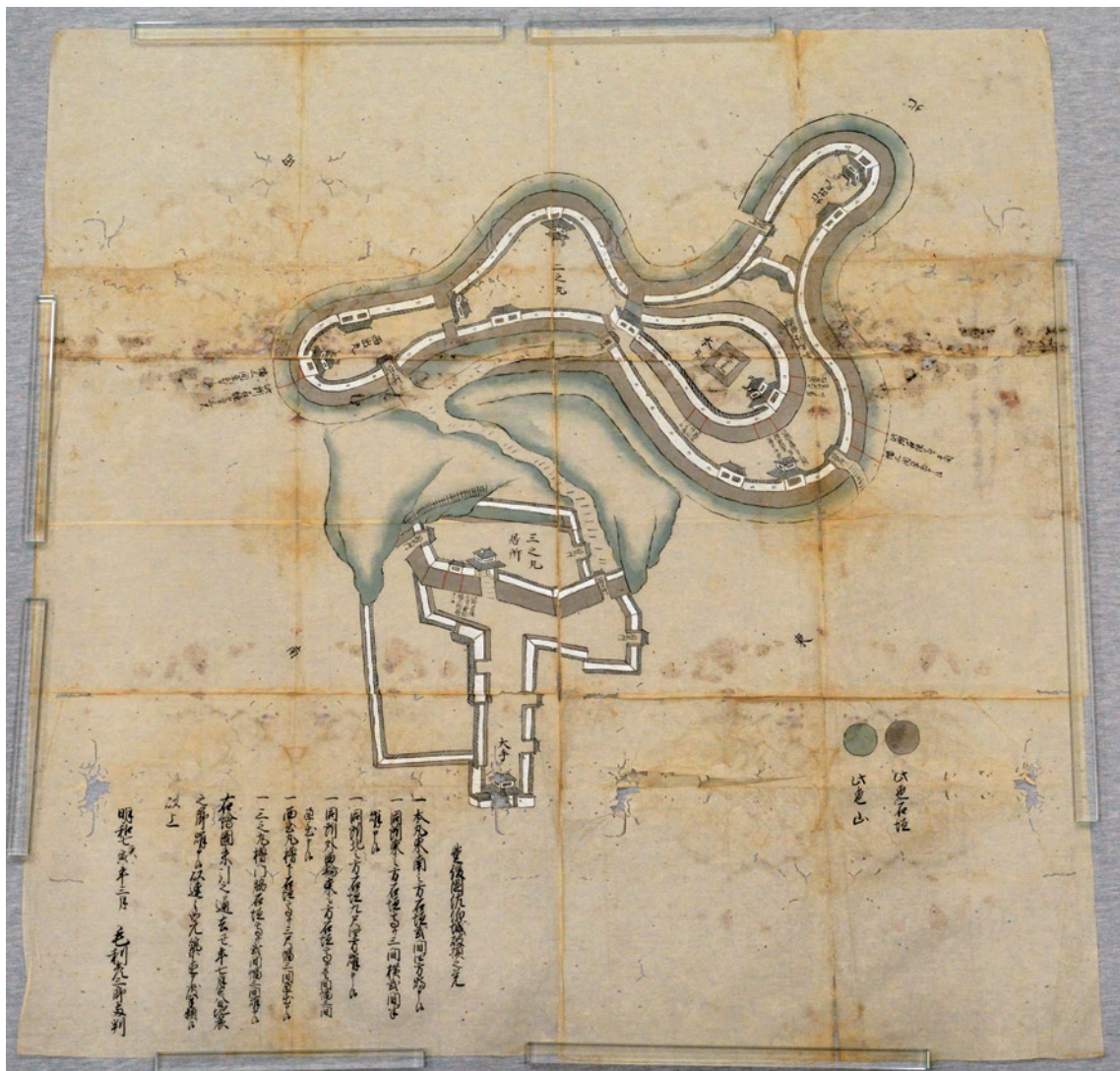
絵図6 元文3年（1738）御城并御城下絵図（部分）（佐伯市歴史資料館蔵）（2）



豊後国佐伯城破損之覚

一本丸外曲輪東南之間堀は同堀中
 一 同堀堀下在垣高十丈檢六間中
 右繪圖東門之通玄子八月十日風雨
 洪水舟楫中同中元築中屋奉願中
 延享二年七月 毛利重久 書判

繪圖 7 延享2年(1745) 豊後国佐伯城破損之覚 (佐伯市歴史資料館蔵)

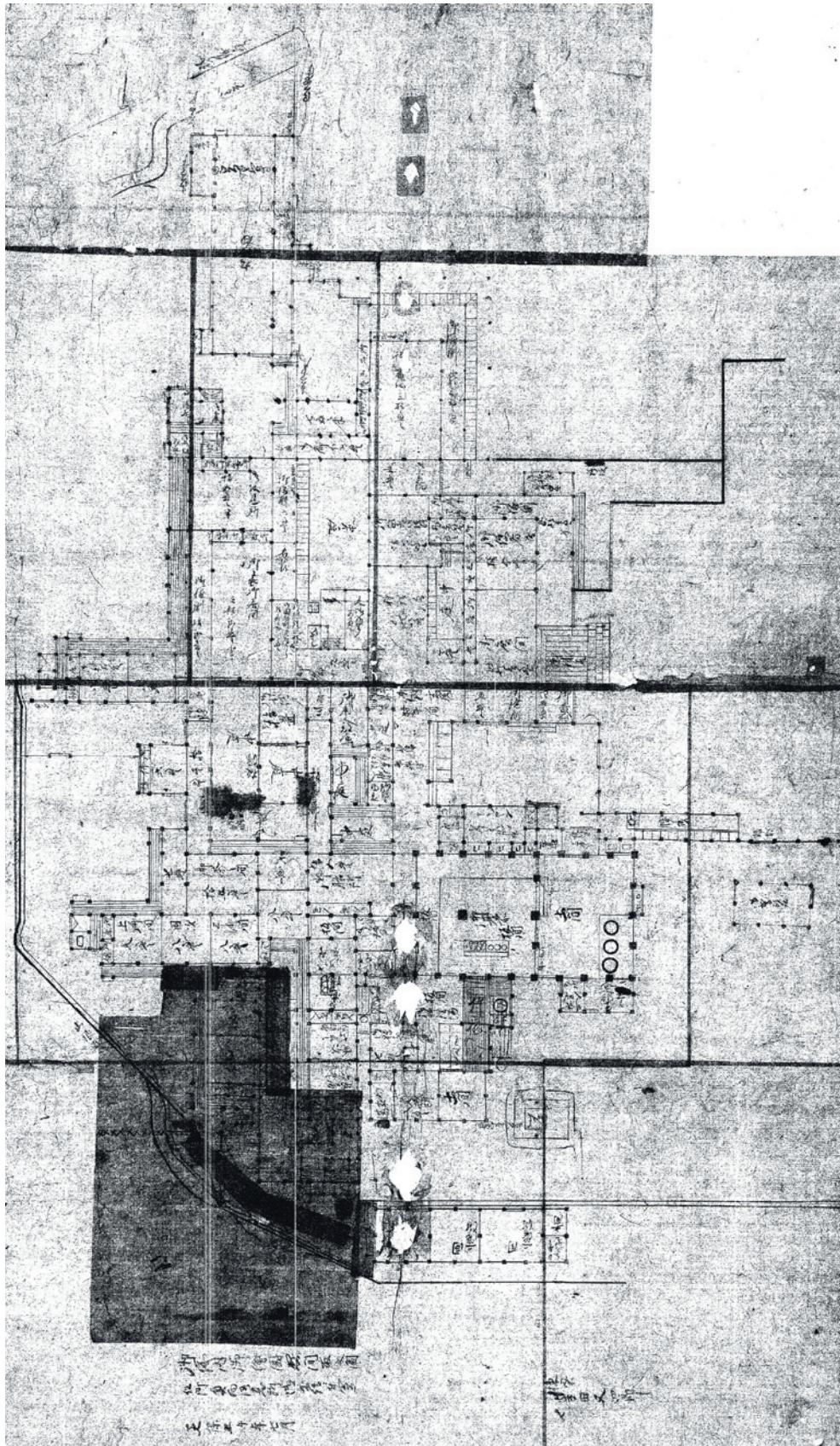


豊後国佐伯城破損之覚

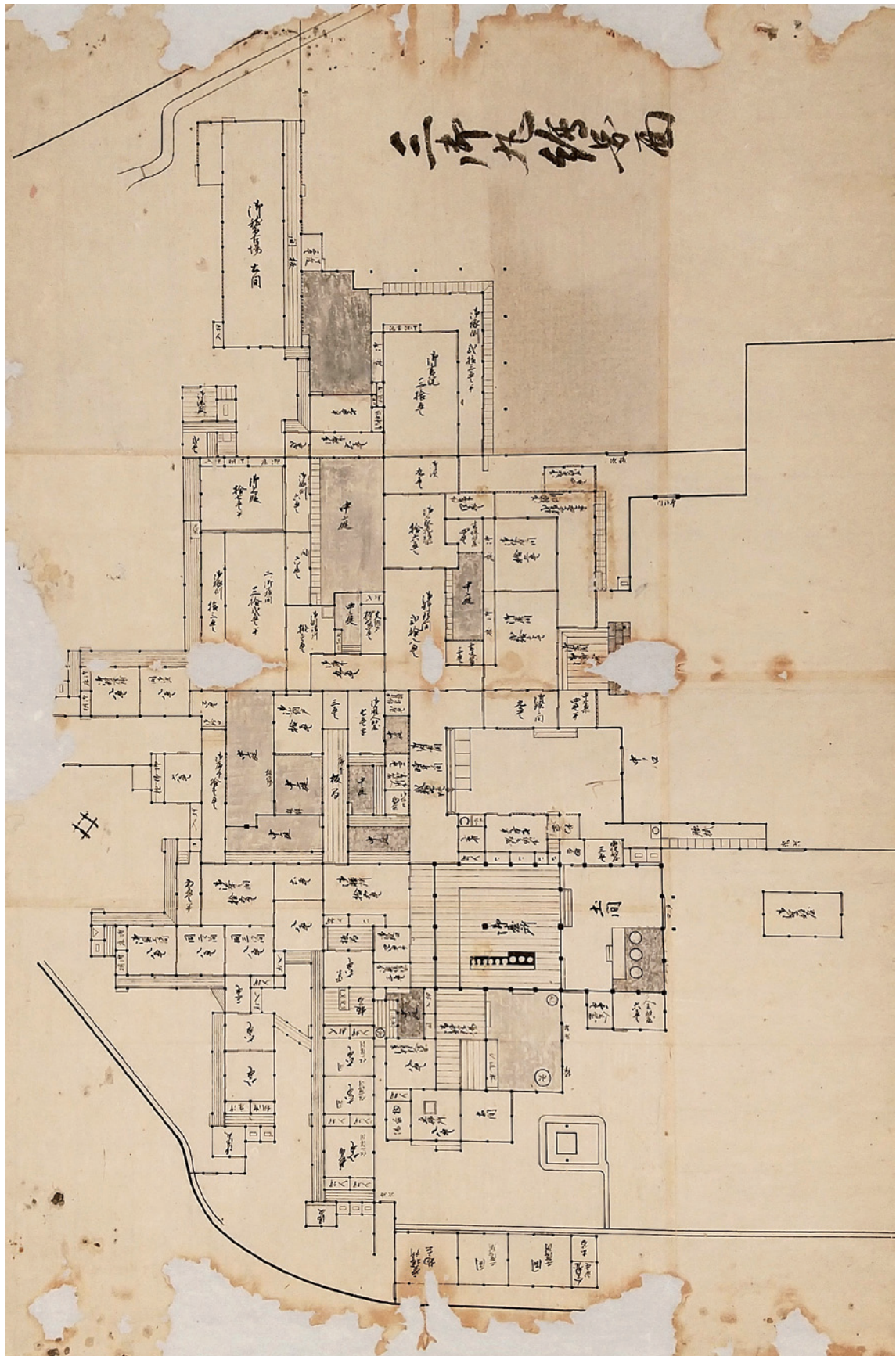
一 本丸東南之方在垣或間口方為
 一 同前東之方在垣或間口
 一 同前北之方在垣或間口
 一 同前外曲輪東之方在垣或間口
 一 西出丸櫓下在垣或間口
 一 二之九櫓門脇石垣或間口
 右繪圖未引之通去也 本年七月大地震
 之崩壊也 以是山 以是山

以上
 明和七年三月 毛利虎三郎五判

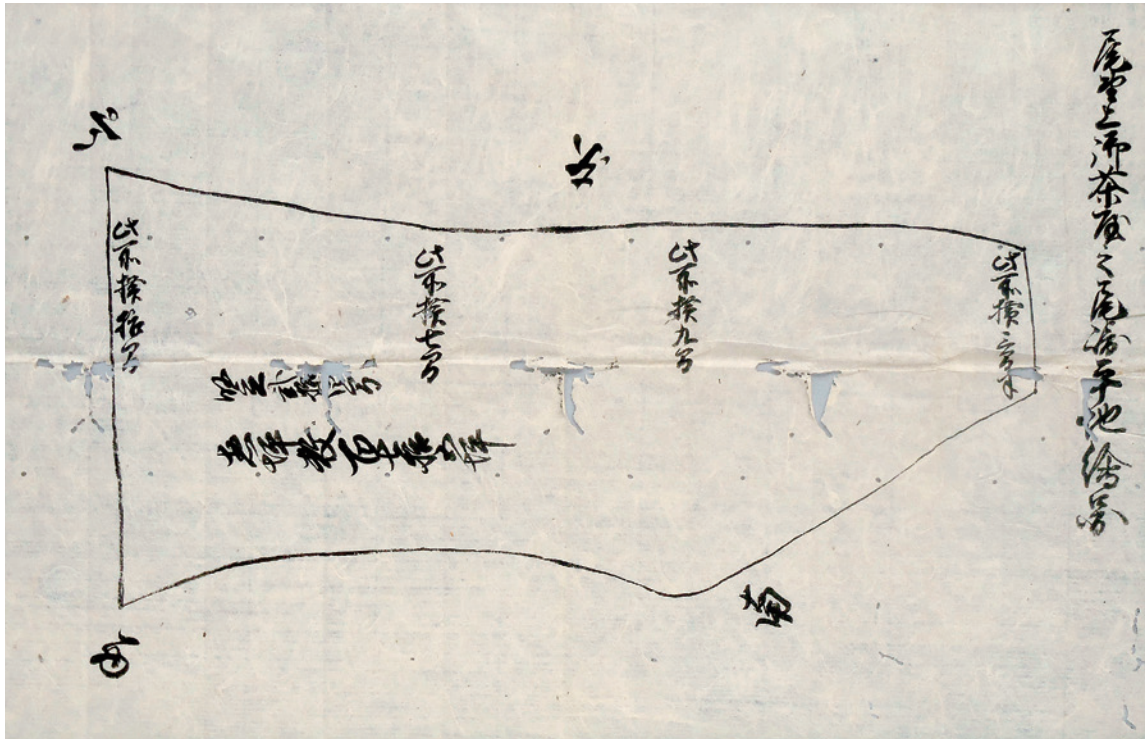
繪図8 明和7年(1770) 豊後国佐伯城破損之覚 (個人蔵)



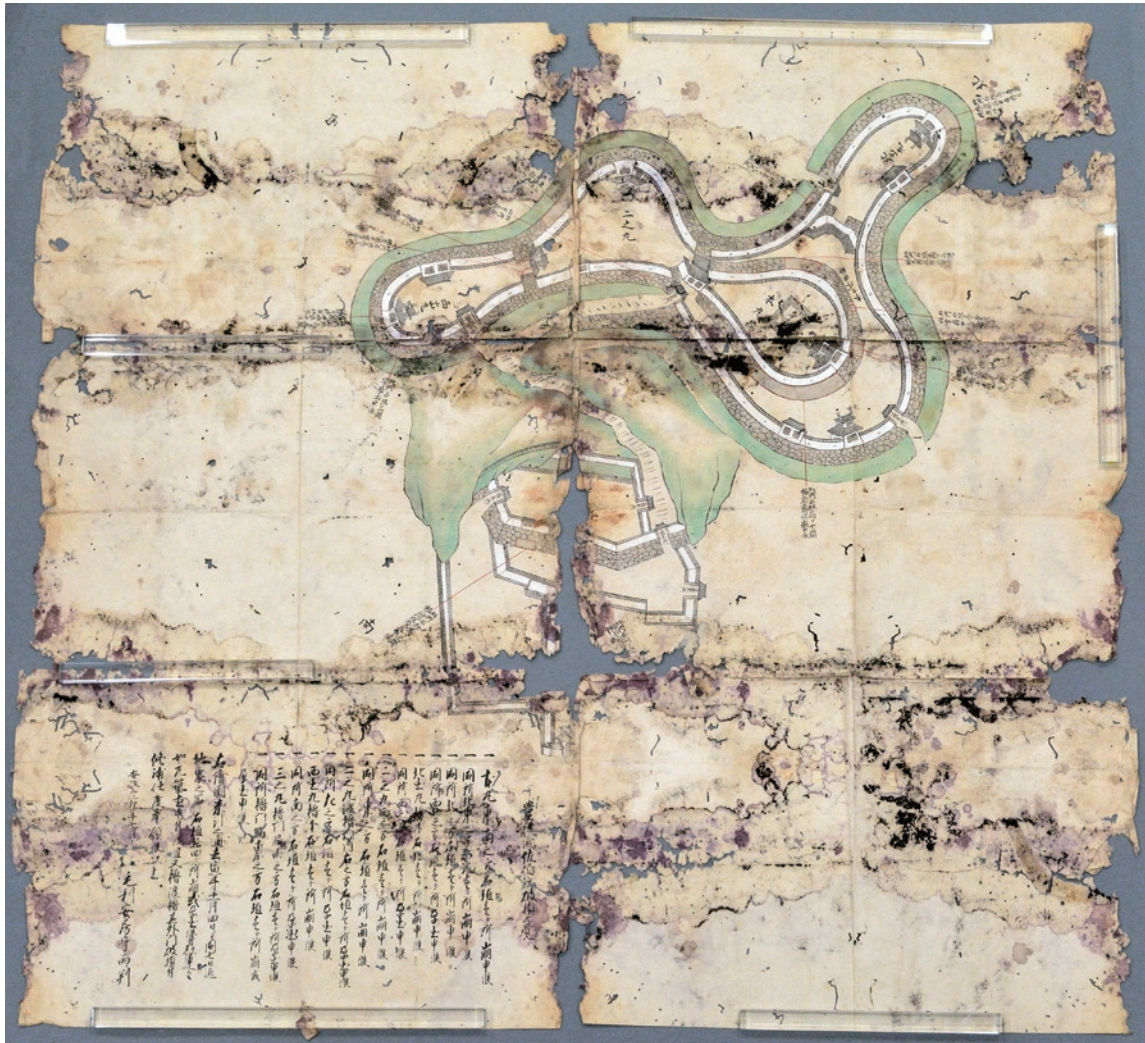
繪図9 天保5年(1834) 御城内御絵図惣間取之図 (個人蔵)
小野英治氏画像提供



絵図10 天保5年(1834)か 三御丸絵図面 (個人蔵)

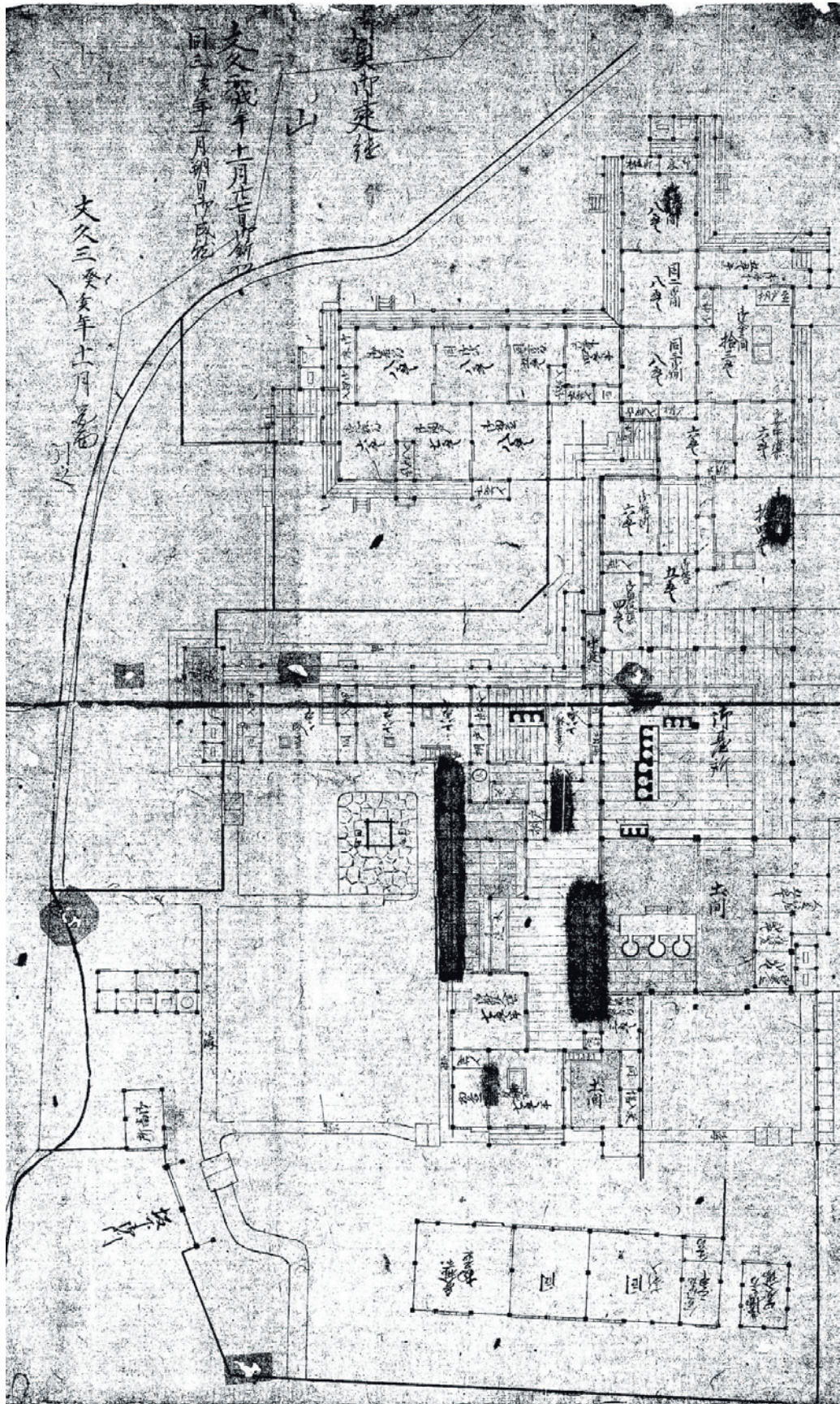


繪図11 嘉永2年（1849）尾野上御茶屋之尾崎平地繪図（個人蔵）

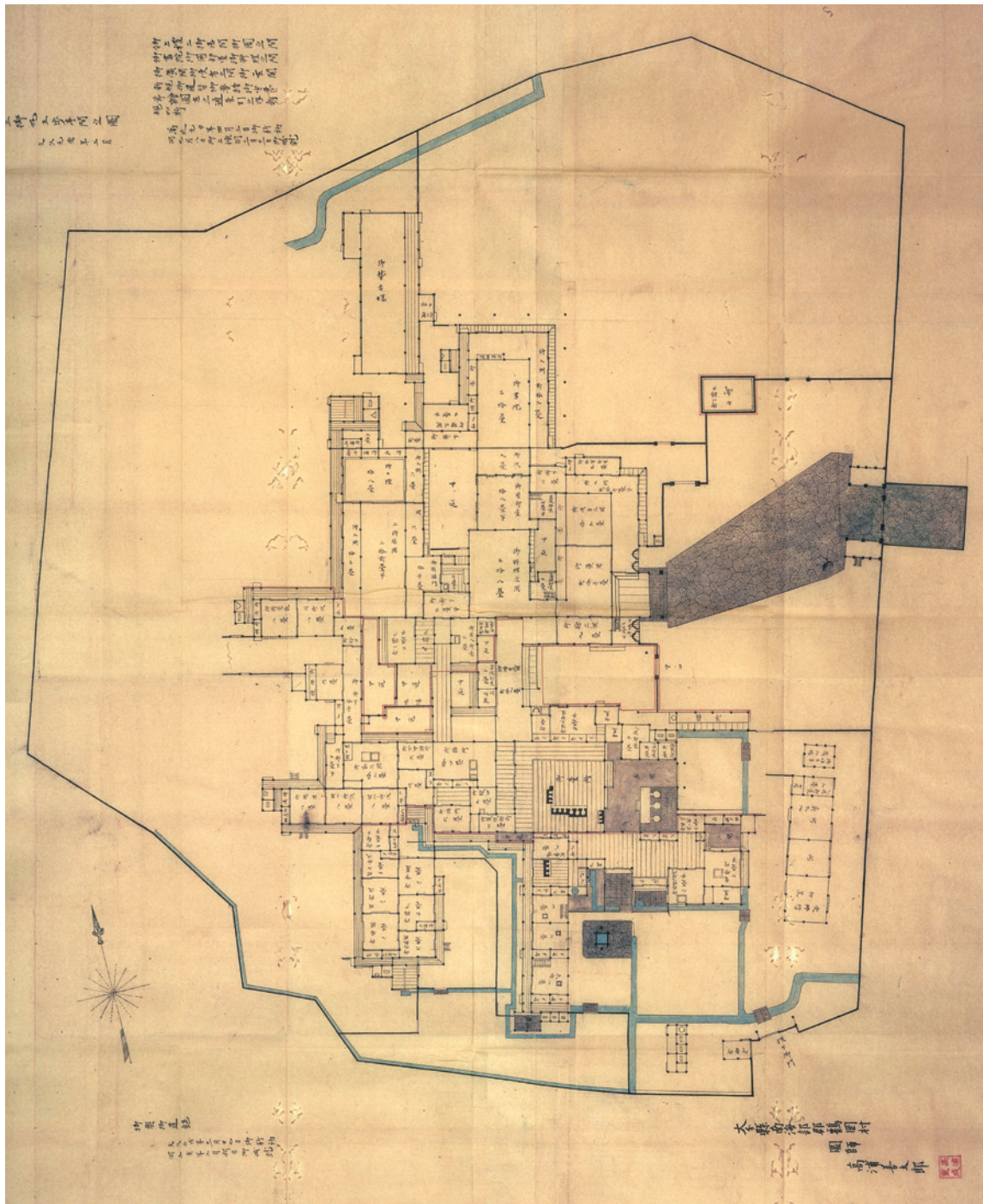


豊後国佐伯城破損之覺
 古丸東南之方石垣是所崩申候
 同所北東之方石垣是所崩申候
 同所北之方石垣是所崩申候
 同所西北之方石垣是所崩申候
 北土九櫓下石垣是所崩申候
 同所西之方石垣是所崩申候
 一之九渡櫓内右之方石垣是所崩申候
 同所北之方石垣是所崩申候
 西土九櫓下石垣是所崩申候
 同所南之方石垣是所崩申候
 一三之九櫓内南之方石垣是所崩申候
 同所南之方石垣是所崩申候
 同所南之方石垣是所崩申候
 右繪圖赤川之通去箇年十月四日同七月間近
 地震之如石垣拾四所崩或石垣崩壞
 如丸氣由外度且又櫓渡櫓其外門破損等
 修補仕度奉願候以上
 安政元年七月 毛利安房守西判

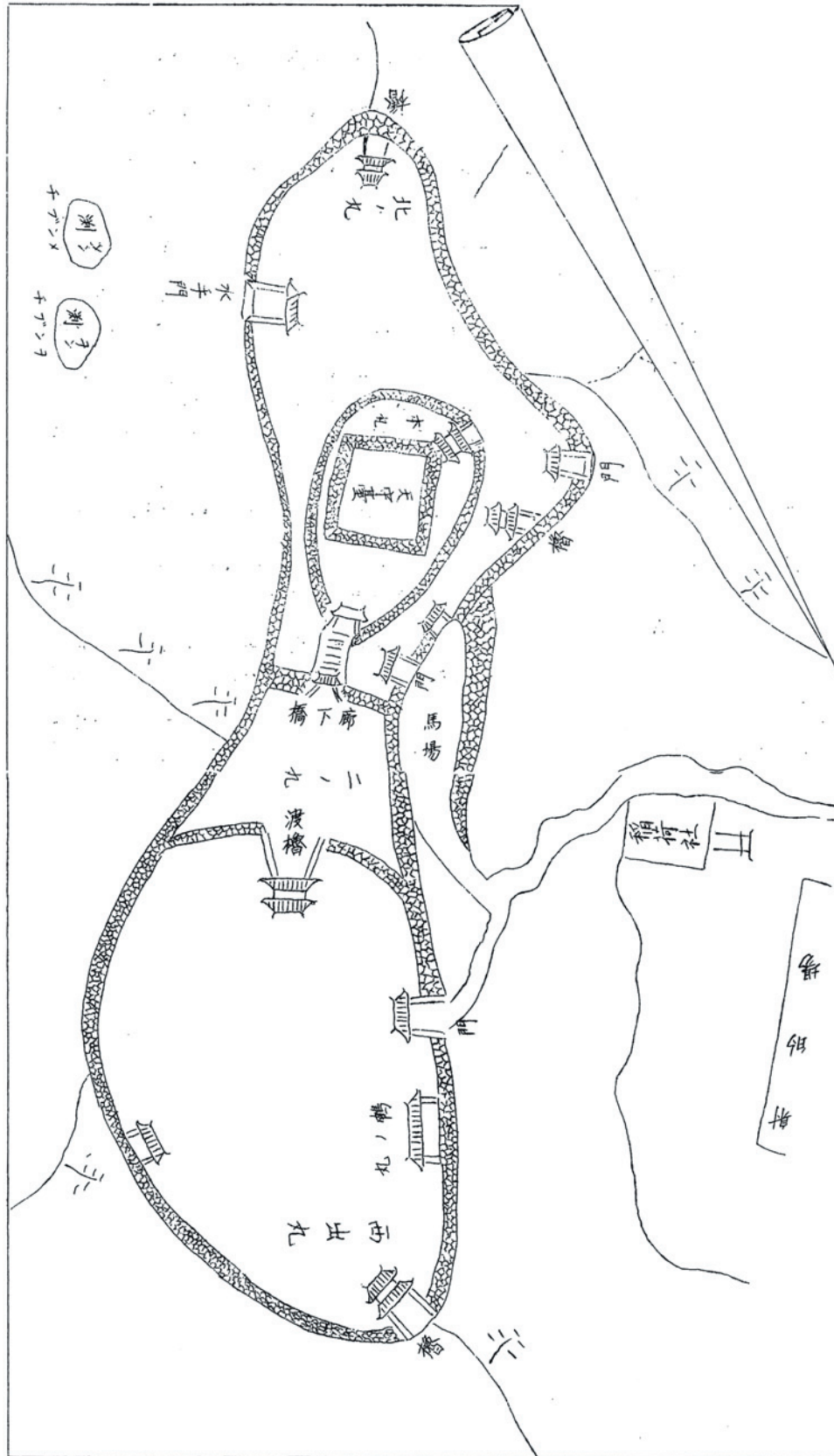
繪図12 安政2年(1855) 豊後国佐伯城破損之覺 (個人蔵)



絵図13 文久3年（1863）御奥御建継（個人蔵）小野英治氏画像提供



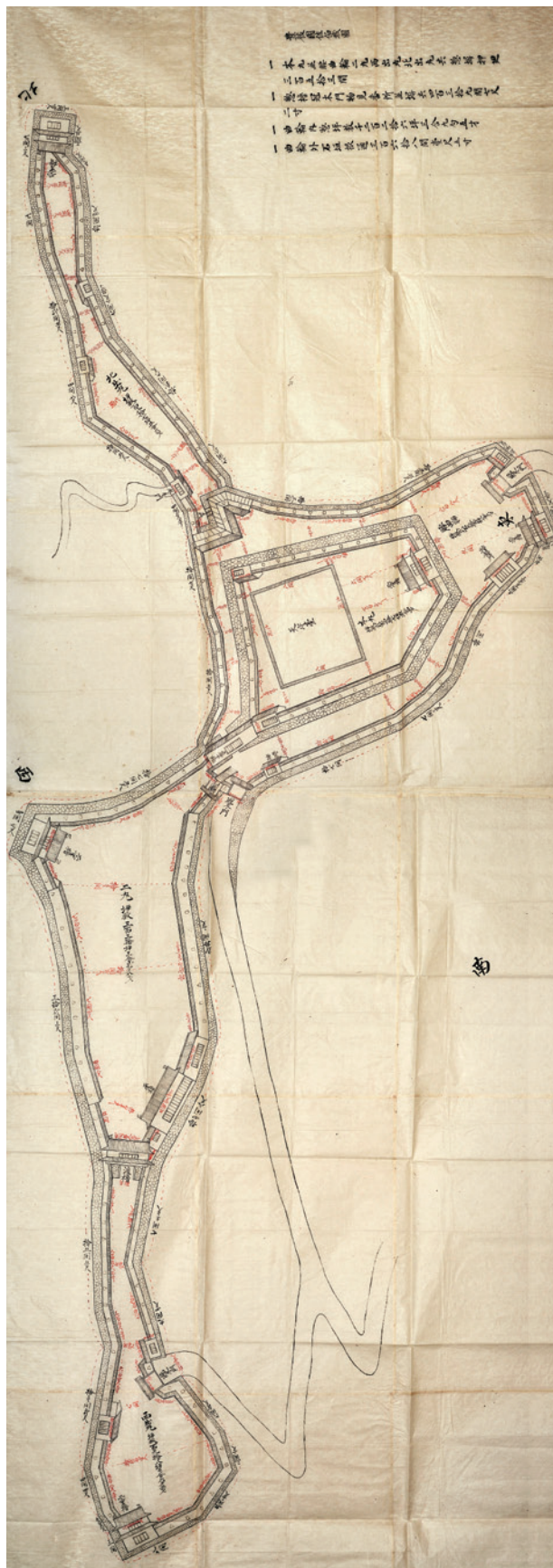
繪圖14 明治初期 三御丸五歩壹間之図 (個人蔵)



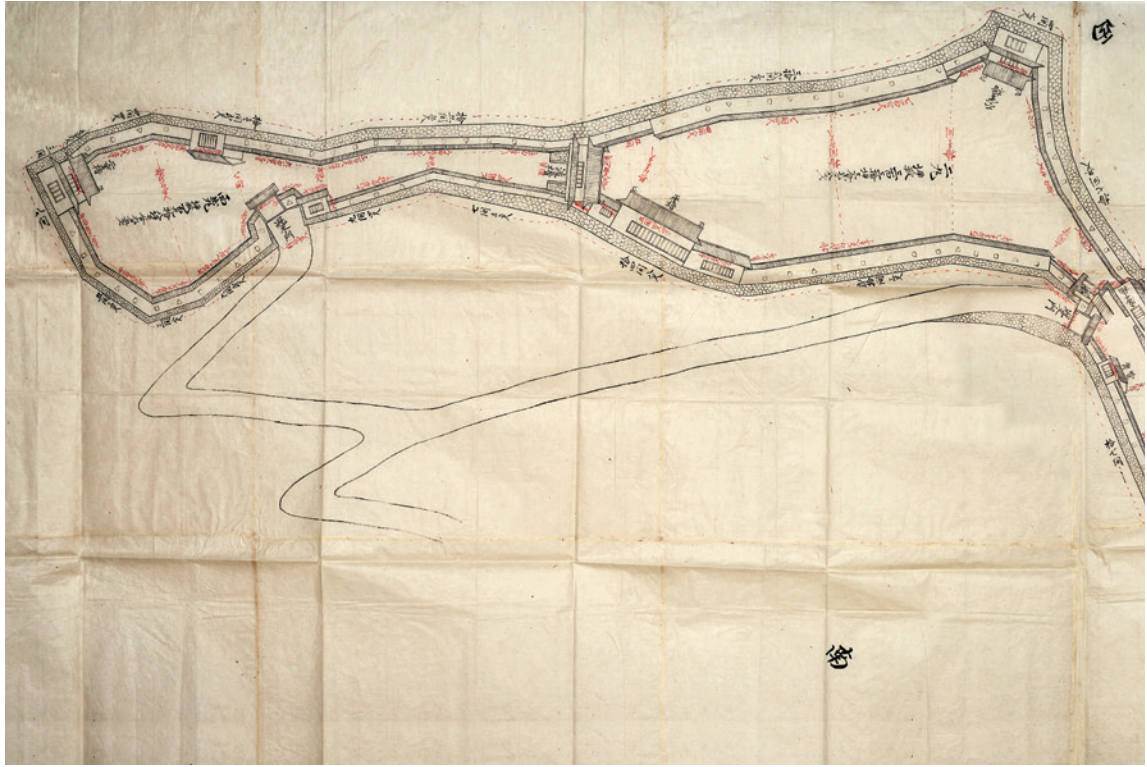
絵図15 明治初期か 佐伯城下地図（部分）（個人蔵）
 小野英治1973「佐伯城絵図解説五」『佐伯史談』90号より転載



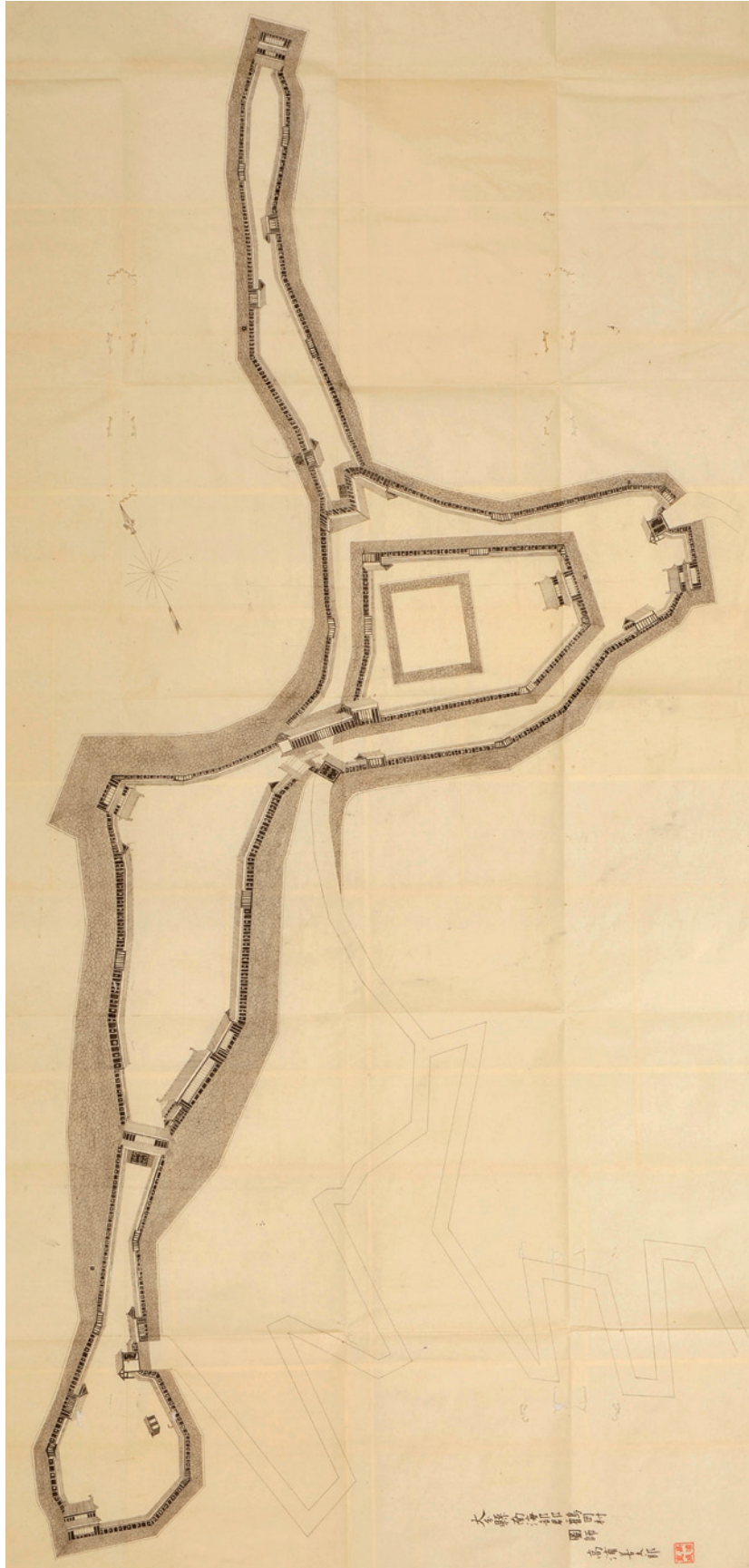
繪圖16 明治4年(1871) 県庁五歩壺間之図 (個人蔵) 小野英治氏画像提供



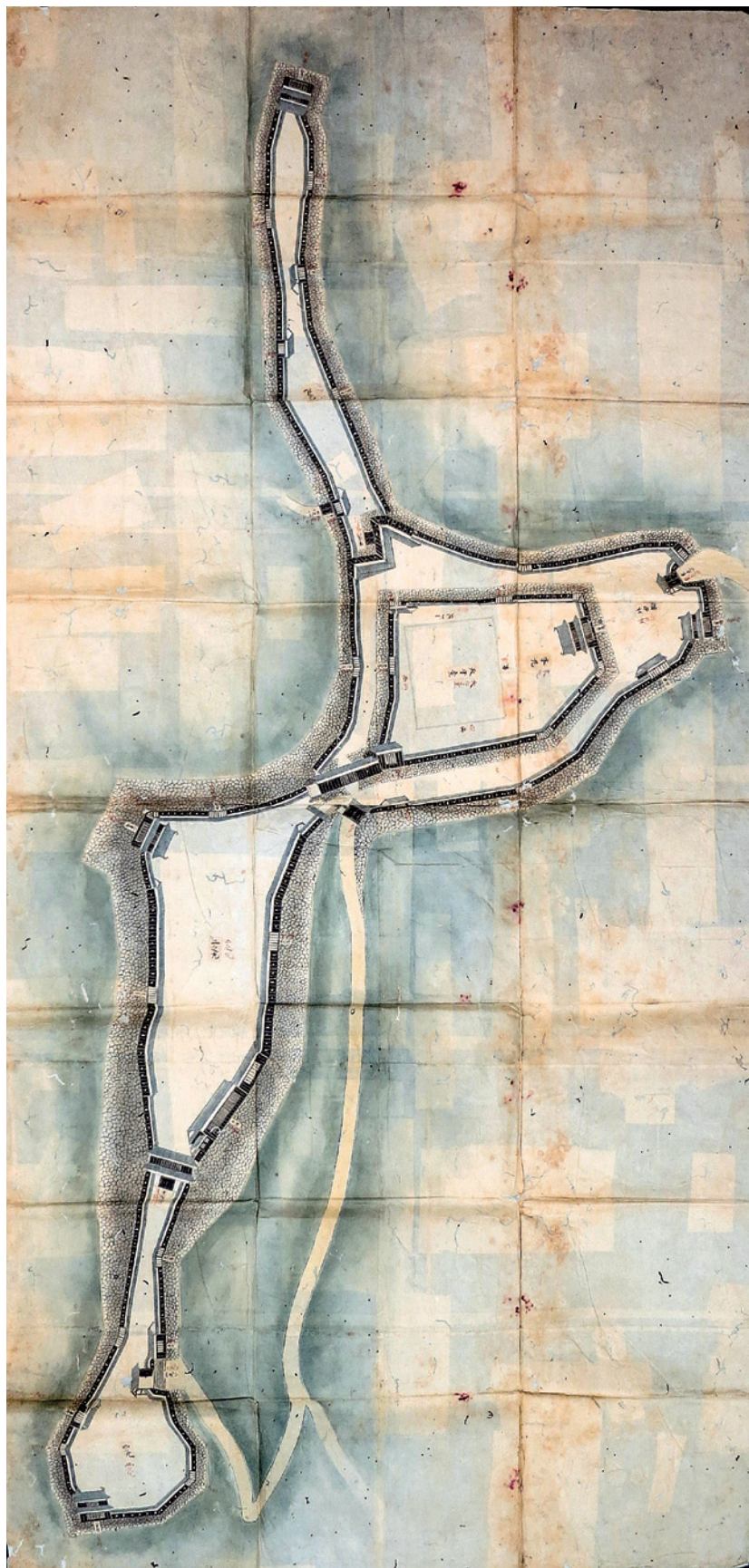
繪圖17 明治初期 豊後国佐伯城図 (富原文庫蔵) (1)



繪図17 明治初期 豊後国佐伯城図 (富原文庫蔵) (2)



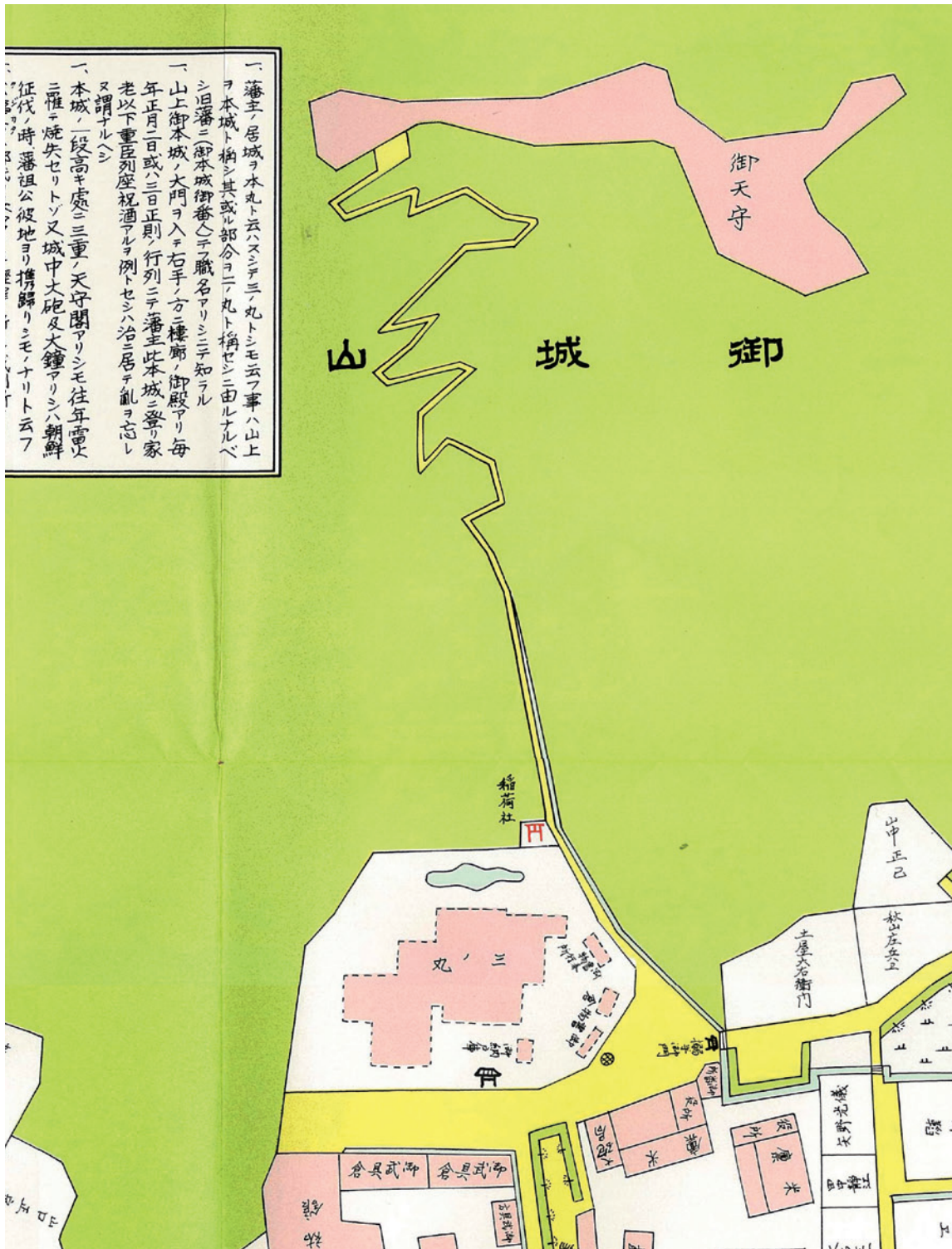
絵図18 明治初期か 御山城之図 (個人蔵)



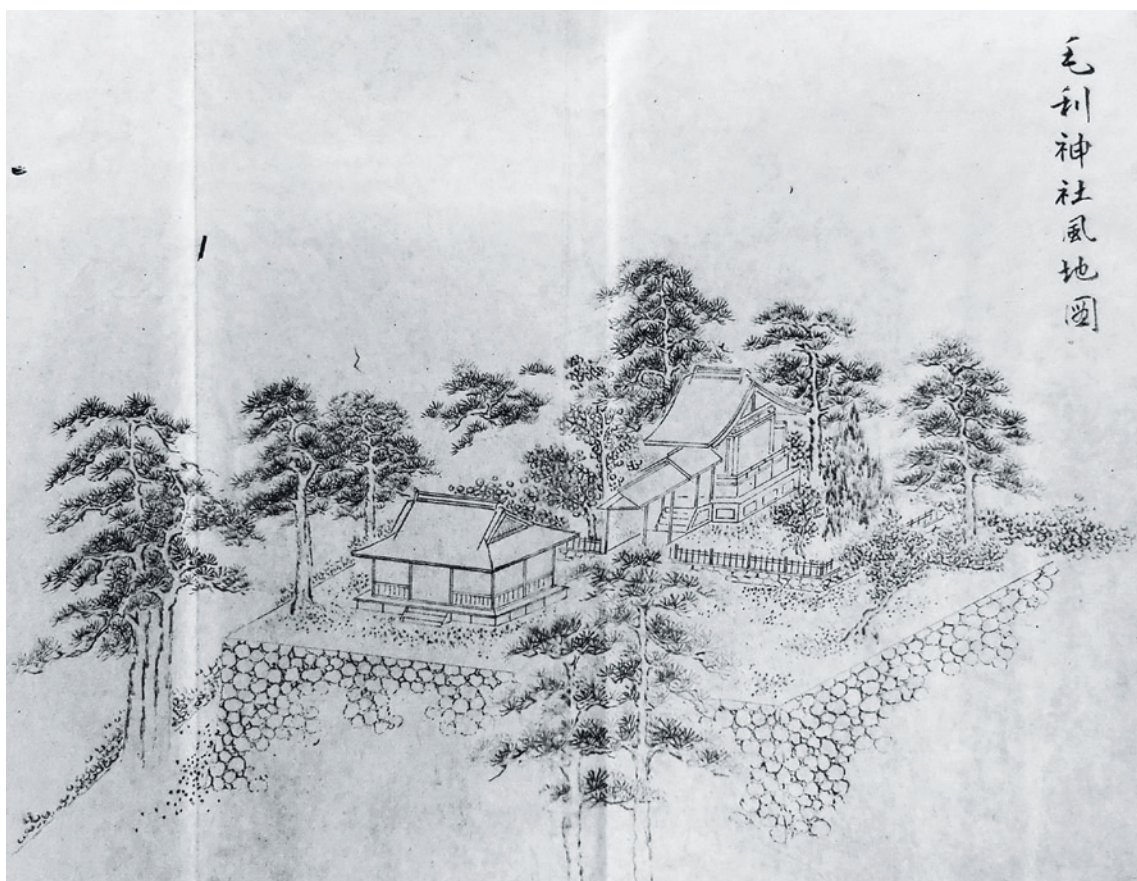
絵図19 明治初期か 鶴谷城之図 (佐伯市歴史資料館蔵) (1)



絵図19 明治初期か 鶴谷城之図 (佐伯市歴史資料館蔵) (2)



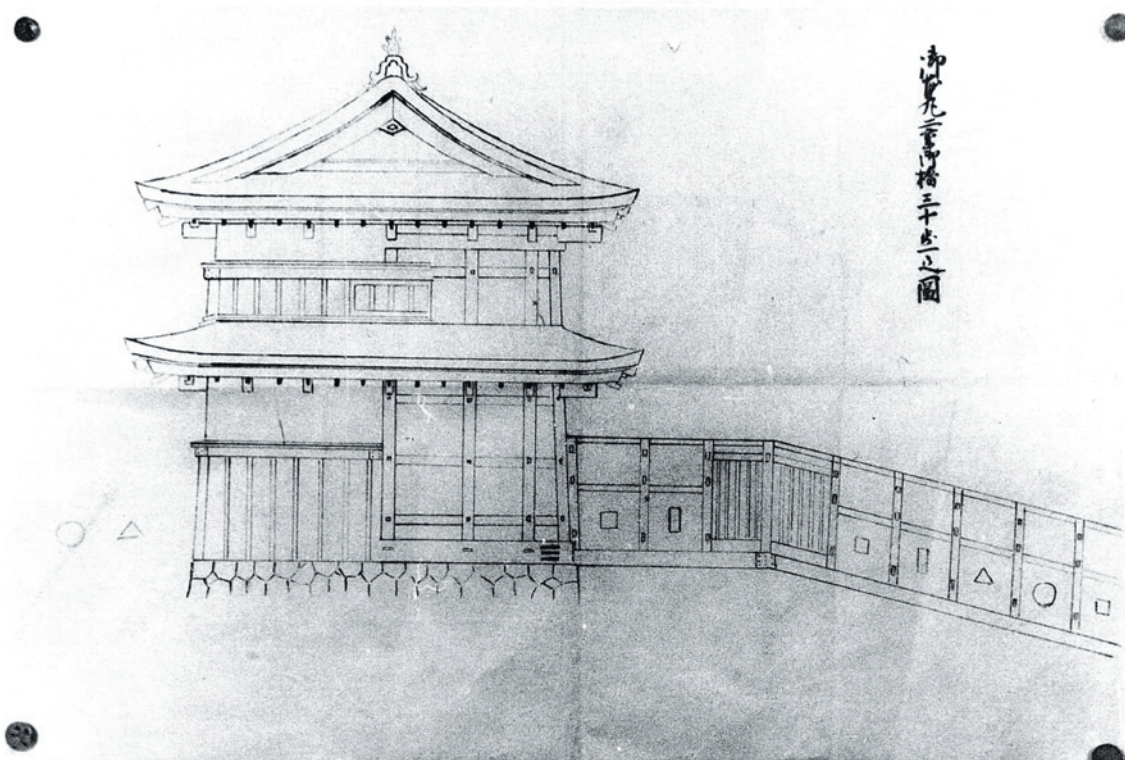
絵図20 大正4年(1915) 佐伯藩時代屋敷図(部分) (佐伯市歴史資料館蔵)



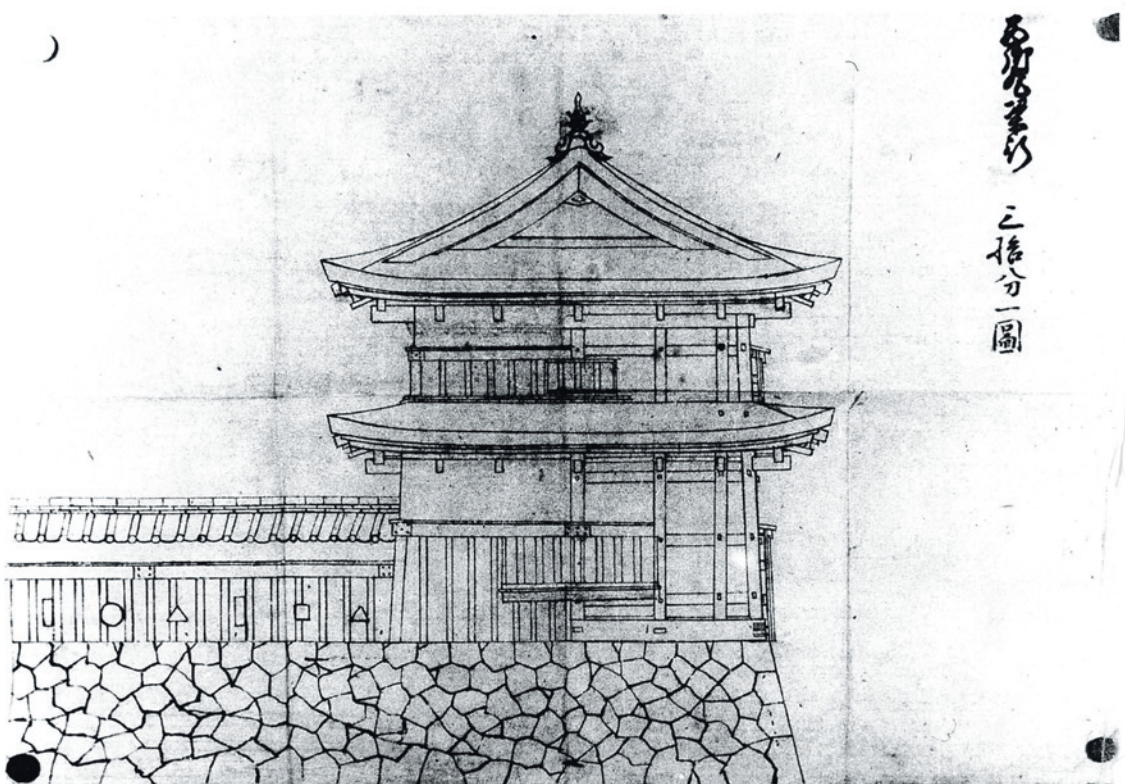
絵図21 昭和2年（1927）毛利神社風地圖（佐伯市教育委員会蔵）



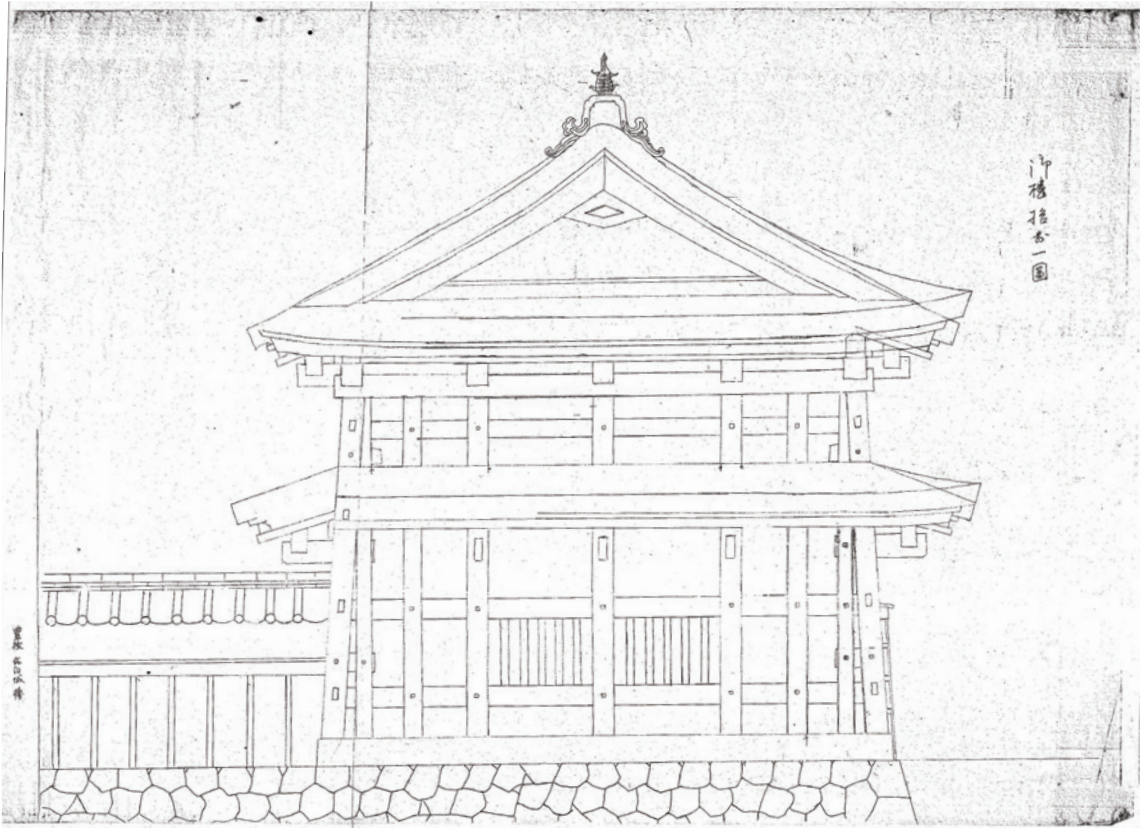
絵図22 昭和8年（1933）毛利神社風致圖（佐伯市教育委員会蔵）



繪圖23 年代不明 御本丸二重御櫓三十歩一之圖 (個人藏)



繪圖24 年代不明 西御丸梁行三拾分一之圖 (個人藏)



絵図25 年代不明 御櫓拾歩一図 (個人蔵) 小野英治氏トレース図提供

古 写 真

佐伯城跡関連古写真一覧（1）

| 番号 | タイトル・内容 | 撮影年 | | 所蔵 |
|-------|--|----------|-----------|----------|
| | | 和暦 | 西暦 | |
| 備 考 | | | | |
| 古写真1 | 三の丸と城山 | 明治40年代 | | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・大手門付近から城山を写す。 ・三の丸櫓門と、その背後に三の丸御殿の玄関と書院の屋根が見える。 | | | |
| 古写真2 | 三の丸櫓門 | 明治40年代 | | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・古写真1と同様、三の丸櫓門と背後の三の丸御殿玄関と書院の屋根が写る。 ・櫓門左の石垣には、平櫓台とみられる一段高い部分がある。これは現在の石垣No.602でも観察できる。 | | | |
| 古写真3 | 三の丸御殿 | 明治40年代 | | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・三の丸御殿の玄関と広間・使者之間・料理之間・二居間・書院などが残っている。 ・御殿の奥向きや稽古場は解体されており、写真奥には明治33年(1900)建築の佐伯尋常小学校舎がある。 | | | |
| 古写真4 | 三の丸御殿（書院・左側は玄関部分） | 明治40年代 | | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・三の丸御殿の書院を写す。左側には、玄関部分の側面が写る。 | | | |
| 古写真5 | 三の丸での祝賀会 | 大正5年頃か | | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・右奥に、三の丸北側を囲む石垣と白壁が写る。現在も残る石垣No.612か。 | | | |
| 古写真6 | 三の丸御殿（書院） | 大正～昭和初期 | | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・戸が障子戸から舞良戸に変わっている。 ・右端には、国から城山の払い下げを受けたことを記念して明治44年（1911）に建立された、「城山還原之碑」が写る。 | | | |
| 古写真7 | 毛利神社と階段 | 昭和4年～20年 | 1929～1945 | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・昭和4年（1929）に本丸に創建された毛利神社を写す。神社は昭和20年の空襲で大破したため、この間の撮影。 ・階段は神社創建後に追加されたもの。階段の上に移る建築物は、毛利神社の拝殿。 | | | |
| 古写真8 | 毛利神社 | 昭和4年～20年 | 1929～1945 | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・天守台石垣の上に建てられた毛利神社本殿（左）と、天守台の前に建てられた拝殿（右）。 ・本殿が置かれた石垣は、現在の石垣No.003にあたる。石積みには変化は見られない。 | | | |
| 古写真9 | 三の丸御殿 | 昭和44年 | 1969 | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・三の丸御殿は書院などが解体され、玄関と広間・使者之間部分のみが残る。 ・戸がガラス戸に変わっている。 | | | |
| 古写真10 | 櫓門から見た三の丸御殿 | 昭和44年 | 1969 | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・櫓門の下から三の丸御殿の玄関を写す。 ・御殿の玄関までは、石畳のスロープとなっている。 | | | |

佐伯城跡関連古写真一覧（2）

| 番号 | タイトル・内容 備考 | 撮影年 | | 所蔵 |
|-------|---|---------|------|-----------|
| | | 和暦 | 西暦 | |
| 古写真11 | 三の丸庭園の池 | 昭和40年代か | | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・三の丸御殿の背面にあたる、北西側斜面を利用した庭園の池。 ・写真手前には庭園の園路である石敷きがある。 | | | |
| 古写真12 | 三の丸庭園の池 | 昭和44年 | 1969 | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・春祭りでにぎわう三の丸。 ・池の水は、昭和46年（1971）の佐伯文化会館建設後には写真程の水量は無くなった。 | | | |
| 古写真13 | 三の丸櫓門 | 昭和44年 | 1969 | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・三の丸御殿の玄関付近から櫓門を写す。 ・櫓門から三の丸へは2m程の高低差があり、スロープ状の石畳となっている。 | | | |
| 古写真14 | 雌池 | 昭和40年代か | | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・雌池の護岸石垣を写す。 ・令和元年度（2019）に実施した、雌池の石垣復旧時に参考とした写真の一つ。 | | | |
| 古写真15 | 三の丸御殿の内部 | 昭和45年 | 1970 | 小野英治氏画像提供 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・広間から使者之間方向を写す。 | | | |
| 古写真16 | 三の丸御殿の内部 | 昭和45年 | 1970 | 小野英治氏画像提供 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・檜之間から玄関方向を写す。 ・玄関の先には三の丸櫓門が写る。 | | | |
| 古写真17 | 三の丸御殿の解体状況 | 昭和45年 | 1970 | 小野英治氏画像提供 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・佐伯文化会館建設のため、三の丸御殿を解体する時のもの。 | | | |
| 古写真18 | 三の丸御殿の解体状況 | 昭和45年 | 1970 | 小野英治氏画像提供 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・写真左側の壁の切り欠き部は、料理之間へと続いていた廊下との接続部。 | | | |
| 古写真19 | 三の丸御殿の解体状況 | 昭和45年 | 1970 | 小野英治氏画像提供 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・解体された部材は市内船頭町に運ばれ、集会所として利用されている。通称「住吉御殿」。 ・手前に写る「城山還原之碑」は、佐伯文化会館建設時に、三の丸の北西へ移設されて現在に至る。 | | | |
| 古写真20 | 三の丸櫓門の屋根修理状況 | 昭和50年 | 1975 | 佐伯市教育委員会 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・劣化が進んでいた、三の丸櫓門の屋根の修理を行った時のもの。 ・屋根の垂木・野地板の交換が行われた。 | | | |



写真1 明治40年代 三の丸と城山



写真2 明治40年代 三の丸櫓門

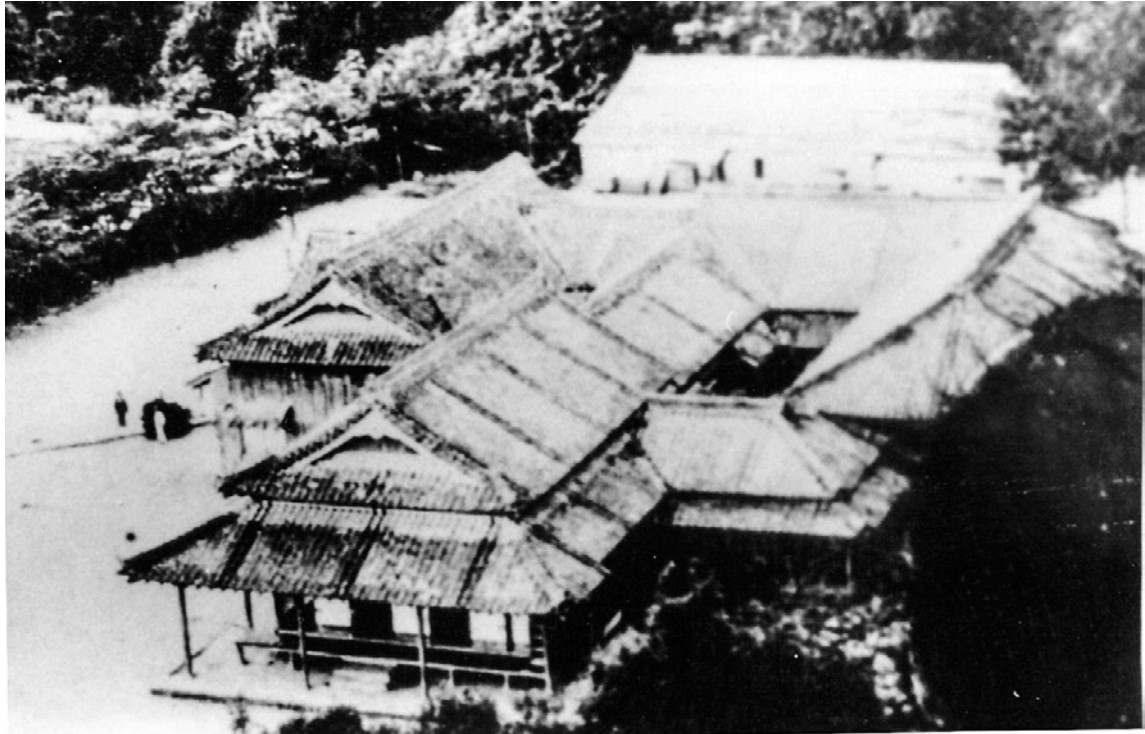


写真3 明治40年代 三の丸御殿



写真4 明治40年代 三の丸御殿（書院・左側は玄関部分）



写真5 大正5年頃か 三の丸での祝賀会



写真6 大正～昭和初期 三の丸御殿（書院）



写真7 昭和4～20年 毛利神社と階段



写真8 昭和4～20年 毛利神社



写真9 昭和44年 三の丸御殿



写真10 昭和44年 櫓門から見た三の丸御殿



写真11 昭和40年代か 三の丸庭園の池



写真12 昭和44年 三の丸庭園の池



写真13 昭和44年 三の丸櫓門



写真14 昭和40年代か 雌池



写真15 昭和45年 三の丸御殿の内部 小野英治氏画像提供



写真16 昭和45年 三の丸御殿の内部 小野英治氏画像提供



写真17 昭和45年 三の丸御殿の解体状況 小野英治氏画像提供



写真18 昭和45年 三の丸御殿の解体状況 小野英治氏画像提供



写真19 昭和45年 三の丸御殿の解体状況 小野英治氏画像提供



写真20 昭和50年 三の丸櫓門の屋根修理状況

文 献 史 料
記 事 一 覧

文献史料記事一覧（1）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|----|-------|------|--------|--|--------|---------------|--------------|
| 1 | 元和6年 | 1620 | 3月20日 | 天守の各段(下段、同下段、二ノ段、三ノ段、四段、五段、上段)に納められている道具の一覧について。 | 佐伯藩政史料 | 天守道具御改帳 | S-139 |
| 2 | 延宝5年 | 1677 | 7月朔日 | 去年、大風で倒れた城山の木を売却しようとしたところ、手形をなくしたので、手形を作り直すよう勘定方の久左衛門に申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-1 |
| 3 | 延宝4年 | 1676 | 12月22日 | 佐伯御用大瓦として、大坂で平瓦700枚・丸瓦300枚、合計1,000枚が船の上に積み上げられた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-1 |
| 4 | 延宝5年 | 1677 | 11月25日 | 城山の太杉ほか大木の立て直しのため、周りの雑木を伐採し、売り渡すよう指示した。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-3 |
| 5 | 延宝7年 | 1679 | 10月21日 | 城山で材木をとった後の枝や雑木について。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-3 |
| 6 | 延宝7年 | 1679 | 11月11日 | 城の周囲にかや屋根を葺く奉行を小頭の善右衛門に申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-3 |
| 7 | 天和元年 | 1681 | 8月11日 | 城山にある薪について、入札した上で相払う旨を船頭町の高札に建てた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-4 |
| 8 | 元禄2年 | 1689 | 3月19日 | 城山の下草刈りをした際の伐採木の入札は、足輕の五助に持ち参ること。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-5 |
| 9 | 元禄7年 | 1694 | 11月2日 | 中町の半兵衛らが山城で薪の伐採を行い、山廻りが見届けた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-7 |
| 10 | 元禄14年 | 1701 | 9月9日 | 城天守掃除人は奉公人・小人頭らが1日20人づつ5日間勤務し、御目付高瀬善太夫と佐久間儀右衛門の指図を受けること。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-8 |
| 11 | 元禄14年 | 1701 | 10月6日 | 城山の木を伐って荒らす者がいるので、山廻りを4人申し付けたところ、早速捕まえた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-8 |
| 12 | 元禄14年 | 1701 | 12月6日 | 町人や百姓が城山でシダをとることが多いので、これを禁じるかわりに、臼坪山の2か所から取ってよい。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-8 |
| 13 | 元禄16年 | 1703 | 9月2日 | 山城の番所に勤める足輕は昼夜番をすること。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-9 |
| 14 | 元禄16年 | 1703 | 9月19日 | 城の御殿の玄関番人・御殿の門番人・大手門の番人は今までどおり袴を着用するように。他の番人は袴着用を免じると申し渡した。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p23 |
| 15 | 宝永元年 | 1704 | 11月3日 | 今晚は玄猪なので、めでたい先例のとおり書院において給人・中小姓までに(藩主)手ずから餅をくださった。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p28 |
| 16 | 宝永元年 | 1704 | 12月 | 広間番・次の間の側勤めを交代で勤める者たちへ、夜食などやむを得ない用事が済み次第出勤するように申し渡した。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p30 |
| 17 | 宝永2年 | 1705 | 4月4日 | 天守台の掃除の「腰刈」について、佐藤徳兵衛が言うには、作業員は1日20人づつで、6日から作事方の下川弥作と申し合わせた上で勤めること。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-13 |
| 18 | 宝永2年 | 1705 | 4月8日 | 城のいば(射場カ)2か所の修理開始について。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-13 |
| 19 | 宝永2年 | 1705 | 5月5日 | 山城から黒門までの掃除が完了したと、谷右衛門から聞いた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-14 |
| 20 | 宝永2年 | 1705 | 5月15日 | 城の玄関に詰めている足輕以外は、今後袴は必要ない。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p38 |
| 21 | 宝永2年 | 1705 | 6月19日 | 城の上で雷が鳴った時は、家中の者たちはご機嫌伺いに登城すること。大雷の時は方角関係なく登城。地震の時は家老が登城した上で用人たちに知らせる。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p39 |
| 22 | 宝永2年 | 1705 | 11月3日 | 昨晚、黒門脇で猪の子供が犬に食い殺されたので、今朝目付らが見分の上で、入念に埋葬すること十左衛門らに申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-15 |
| 23 | 宝永2年 | 1705 | 12月15日 | 昨夜0時ごろ本町から出火し、内町は残らず焼失した。家数にして282軒。消火に当たった者や類焼した者全員に粥を与えた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三p263 |
| 24 | 宝永2年 | 1705 | 12月15日 | 今夜0時過ぎに本町の医師小沢自悦宅から出火し、朝5時過ぎまでに内町が焼失した。総家数284軒焼失。けが人はいない。なお自火に間違いはない。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p43 |
| 25 | 宝永3年 | 1706 | 正月2日 | 居間で隠居の者たちや給人の嫡子たちの挨拶を受け、西名・桑原・斉藤の3人へ盃を遣わした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三p275 |

文献史料記事一覧（2）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|----|-------|------|-------|--|--------|---------------|---------------|
| 26 | 宝永3年 | 1706 | 正月 | 居間で藩医の知神玄隆へ盃を遣わした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p274 |
| 27 | 宝永3年 | 1706 | 2月28日 | 書院で丹羽吉兵衛に初めて目通りを申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p279 |
| 28 | 宝永3年 | 1706 | 9月16日 | 天守までの道筋を掃除するよう、破損方の伝左衛門へ伝えた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-17 |
| 29 | 宝永4年 | 1707 | 4月3日 | 現在の城は壊れて塀・櫓もないので、修復したいと戸田能登守に申したところ、奉書を取っておけば普請は後になっても良いとのこと。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江府) | 『温故』六 p173 |
| 30 | 宝永4年 | 1707 | 4月4日 | 城の修復には、昔のとおり天守・櫓・塀を記入した絵図面を用意して願い出れば良いと秋元喬知(用人)の加古八左衛門が申した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江府) | 『温故』六 p174 |
| 31 | 宝永4年 | 1707 | 4月5日 | 櫓・塀だけでは奉書には及ばないが、石垣・土塁などもあれば、それは奉書を出すことになる、加古八左衛門の助言。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江府) | 『温故』六 p174 |
| 32 | 宝永4年 | 1707 | 5月1日 | 山城の周囲の掃除を一昨日の4月28日に申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-19 |
| 33 | 宝永4年 | 1707 | 5月13日 | 天守台の掃除は、小さな木は伐採し、石垣が隠れている所が増えているので大体の地形を出すこと。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-19 |
| 34 | 宝永4年 | 1707 | 5月14日 | 山城の芝刈りをした奉行の斎藤勘左衛門に伐採の代銀を支給した。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-19 |
| 35 | 宝永4年 | 1707 | 5月19日 | 以前のとおり城を修復することは、月番老中へ願う必要もなく、秋元へ伝えるだけでよいと加古八左衛門が申した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江府) | 『温故』六 p176 |
| 36 | 宝永4年 | 1707 | 5月26日 | 秋元担馬守から、居城の修復は自由である旨を沙汰され、かたじけなく思っている。念のため国元からの絵図面を差し上げる。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江府) | 『温故』六 p176 |
| 37 | 宝永4年 | 1707 | 6月4日 | 天守台やそのほかの櫓台の間数を差し出すように、幕府目付の大崎半蔵から仰せ付けられた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-19 |
| 38 | 宝永4年 | 1707 | 6月4日 | 木藤民兵衛が、天守台の石垣間数を調べたので、用人・郡代に申し伝えた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-19 |
| 39 | 宝永4年 | 1707 | 6月21日 | 城絵図を江戸へ差し出した。絵図は江戸で戸田(能登守)、秋元(但馬守)に差し出される。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-19 |
| 40 | 宝永4年 | 1707 | 6月22日 | 城絵図が完成したので、戸田能登守と秋元但馬守にお見せするため、岩本、源三郎、梶川が登城し、そのまま奉書を受け取った。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-19 |
| 41 | 宝永4年 | 1707 | 6月23日 | 城の破損について、櫓は次々に、塀や門は近年のうちに修復することを郡代が申した。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-19 |
| 42 | 宝永4年 | 1707 | 6月24日 | 先祖が築いた城が大いに傷んでおり、幕府へ修復を願い出ることにする。我らの代に改築するのは大変せなことで、来年には完成させたいと皆が申していることは嬉しいことである。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p297 |
| 43 | 宝永4年 | 1707 | 10月4日 | 12時半頃、非常に強い地震があり、地震がやむと高潮が押し寄せてきた。家中・町人には、城内でも遠慮なく、山にも登るよう申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p312 |
| 44 | 宝永4年 | 1707 | 10月8日 | 地震による被害状況を家老たちが提出した。城内はさほど破損はないが、武家屋敷・寺・両門はかなり破損した。そのほか領内の被害状況。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p314 |
| 45 | 宝永4年 | 1707 | 11月3日 | 普請場所、古賀半左衛門を含む7名の奉行たちを呼び、いよいよ精を出して仕上げようこと、直接伝えた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p320 |
| 46 | 宝永6年 | 1709 | 6月27日 | 秋元担馬守への使者・遠城寺源兵衛に対し、佐伯城普請の件を許可されたので、奉書を加古八左衛門からお渡しになった。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p235 |
| 47 | 宝永6年 | 1709 | 7月13日 | 5月28日に絵図にして願い出ている本丸・二の丸・出丸・曲輪などの普請許可の件を、老中秋元担馬守が遠城寺源兵衛を呼び渡された。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p360 |
| 48 | 宝永6年 | 1709 | 7月19日 | 城普請の願いが済んだ祝いとして、赤飯と吸い物で祝い、家老と医師が相伴した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p363 |
| 49 | 宝永6年 | 1709 | 7月21日 | 本丸普請では、高政公が建てた頃の姿について何事も詳しく調査し、確実な事柄を文書にして差し出すようにせよ。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p365 |
| 50 | 宝永6年 | 1709 | 7月21日 | 石垣の修復は、全体の石垣を見て塀の高さなどは元のようにせよ。戸倉外記の承知していることのほか、軍学者や人々の意見を書付にして提出させ、そのうえで申し付ける。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p366 |

文献史料記事一覧（3）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁史料番号 |
|----|-------|------|--------|---|-------|---------------|------------|
| 51 | 宝永6年 | 1709 | 7月21日 | 全ての普請の事は急に決めたり、進捗だけを考慮して軽率に意見を採用してはならない。誰が言ったことでも、よく調べて自分に報告し、支障にならないようにせよ。今回は特別の普請なので我侭不埒のないように。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p366 |
| 52 | 宝永6年 | 1709 | 7月21日 | 山上へ用事があって持参した火などは、おそろかにせず、火の元は念入りにせよと役人たちへ申し渡すように外記へ申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p367 |
| 53 | 宝永6年 | 1709 | 7月21日 | 戸倉外記をはじめ役人たちは、大工などを連れて城へ上り、本丸の間数を調査した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p367 |
| 54 | 宝永6年 | 1709 | 7月22日 | 今回の城普請は願いの通り認められたので、次々に申し付ける。在浦の者へ酒を与えたのは、作業員として精を出すようにとのことを、会所へ庄屋らを集めて申し渡した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p367 |
| 55 | 宝永6年 | 1709 | 7月22日 | 役人たちが登城し、間数などを調査した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p367 |
| 56 | 宝永6年 | 1709 | 7月22日 | 今日、10時過ぎに城山へ見分のため登山をした。本丸より南東の方角からすべて一覽した。12時ごろ帰った。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p368 |
| 57 | 宝永6年 | 1709 | 7月25日 | 午後4時ごろ城山へ登り、見分した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p368 |
| 58 | 宝永6年 | 1709 | 7月26日 | 城の修理工事の年末年始の休日及び2月中旬の完成について。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p368 |
| 59 | 宝永6年 | 1709 | 8月2日 | 午前8時頃、本丸外曲輪内にある大工小屋で総奉行以下が麻袴で手斧初めを執り行った。手斧初めの祝いとして赤飯を下された。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p369 |
| 60 | 宝永6年 | 1709 | 8月3日 | 木下主水が江戸で死去したが、城普請のことは特別なことであるので、今日のみ休止し、明日からはいつものように普請を申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p370 |
| 61 | 宝永6年 | 1709 | 8月4日 | 本丸を囲むすべての塀だけは練堀にしなければ、風雨が強く壊れてしまう。また西の出丸下段に2間半×20間の小屋を掛けさせた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p371 |
| 62 | 宝永6年 | 1709 | 8月13日 | 西の出丸のふもとに八幡宮を建立することを外記へ申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p372 |
| 63 | 宝永6年 | 1709 | 8月14日 | 城普請で領内の大工たちを使役しているため、町などは普請に困っているとのことで、他領の大工の雇用を願い出たので許した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p372 |
| 64 | 宝永6年 | 1709 | 8月18日 | 給人たちや中小姓たちで城山を一覽したい者たちは、当番であっても交代して、今日登るようこと申し付けた。徒歩以下は明日。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p372 |
| 65 | 宝永6年 | 1709 | 9月3日 | 10時ごろ、城山へ登り、塀と矢狭間を見分した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p374 |
| 66 | 宝永6年 | 1709 | 9月8日 | 先月18日に城普請許可の奉書への請書の提出が済んだ。これにより祝いをした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p376 |
| 67 | 宝永6年 | 1709 | 9月8日 | 城普請の地鎮祭に2夜3日の祈禱をするように、江戸の藪兵庫に申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p377 |
| 68 | 宝永6年 | 1709 | 9月9日 | 来る16日の8時ごろから10時ごろまで、名代の戸倉外記以下が出席して城山の地鎮祭を行うよう申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p377 |
| 69 | 宝永6年 | 1709 | 9月9日 | 城の地鎮祭は、江戸で藪兵庫に申し付け2夜3日の祈禱した品々の納物が送られてきたため、来る16日とする。16日は高政の命日なので、高政の時に用いた鎌・鋤・鍬を今回も用いる。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p378 |
| 70 | 宝永6年 | 1709 | 9月16日 | 今朝8時頃、山上の本丸において天気もよく、地鎮祭を首尾よく済ませた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p379 |
| 71 | 宝永6年 | 1709 | 10月3日 | 秋元喬知の用人・加古八左衛門が伝えた。佐伯城の普請が願通り許可され、塀の工事に取掛かったことは結構なことである。そのお礼のため江戸屋敷に参上したので料理を下された。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p251 |
| 72 | 宝永6年 | 1709 | 10月5日 | 普請の所奉行・長谷川園右衛門が先日北出丸の松を伐らせたところ、松が倒れて塀が壊れた。外記らは聞いていたのに処分もなかった。自分は噂話として知った。園右衛門には遠慮を申し付け、更迭する。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p381 |
| 73 | 宝永6年 | 1709 | 10月26日 | 今日、城山へ登って見分をした。皆精を出しているので、文書係や奉行が元締めを呼び、作業員たちに酒をいただくように申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p383 |
| 74 | 宝永6年 | 1709 | 11月6日 | 城の全ての塀の腰板と白土壁の全部、櫓台と石垣の口々の戸の分は終わったので、今年の作業は終わりにせよ。年明けに廊下橋と北出丸に取り掛かる。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p388 |
| 75 | 宝永6年 | 1709 | 11月20日 | 城普請は、今年は塀までを全て仕上げるように申し付けておいたところ、今日出来上がった。大工や作業員などを帰した。番人たちは見回りを念入りにせよ。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p389 |

文献史料記事一覧（４）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|-----|-------|------|--------|--|-------|---------------|---------------|
| 76 | 宝永6年 | 1709 | 11月21日 | 城の普請の初期の工事が完成した。11月23日に祝いをする。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p389 |
| 77 | 宝永6年 | 1709 | 11月22日 | 8時過ぎに城山へ登り、城中の塀がすべて完成したので見分をした。本丸天守台に着座して、外記以下へ熨斗を遣わした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p389 |
| 78 | 宝永6年 | 1709 | 11月23日 | このたび、最初の城普請を申し付けたところ、全ての塀が格好よく出来上がり、ひとしおめでたいことだ。外記以下に褒美を与えた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p390 |
| 79 | 宝永6年 | 1709 | 11月23日 | 祝いとして赤飯と吸物で行い、家老3人に相伴を申し付け、家臣にも吸物と酒を与えた。居間で囃子を演じさせた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p391 |
| 80 | 宝永6年 | 1709 | 11月23日 | 外記を初め役人たちは全員、普請中は苦勞であったため、来月14日まで休息を申し付けた。出勤は15日から申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p391 |
| 81 | 宝永6年 | 1709 | 11月23日 | 家中の山際の屋敷の分は、城山のすその周辺や山際で土を取らせることは、今後しないようにせよ。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p391 |
| 82 | 宝永6年 | 1709 | 12月15日 | 城の廊下橋・食い違いの塀は、来る正月11日から取り掛かり、2月中旬までにすべて出来上がるようにせよ。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p393 |
| 83 | 宝永6年 | 1709 | 12月15日 | 城のすべての塀の瓦は、来る3月に乗船した後に、すぐ取り掛かるよう申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p393 |
| 84 | 宝永6年 | 1709 | 12月15日 | 冠木門3か所(西の出丸1か所、本丸外曲輪2か所)の分の普請を申し付けよ。これは益田金兵衛へ申し渡した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p393 |
| 85 | 宝永6年 | 1709 | 12月15日 | 普請係の者で外記と勘左衛門は江戸へ供をするので、総奉行の金兵衛と六郎右衛門は一日交代で城山へ登って命令をせよ。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p393 |
| 86 | 宝永6年 | 1709 | 12月15日 | 瓦を置くことと冠木門の普請は、来る4月中旬までにすべて完了させ、15日間の休息を全員に申し付けた。できたことは、すぐに江戸へ報告せよ。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p393 |
| 87 | 宝永7年 | 1710 | 正月28日 | 大工の長左衛門は細工の功者である。櫓などの造り方を習わせるため、当年江戸に召し連れ、来年帰国するよう申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p401 |
| 88 | 宝永7年 | 1710 | 2月24日 | 養賢寺にある釣鐘は、昔本丸にあったもので、大破した後に置く所がなかったため、養賢寺に遣わした。普請が終われば元のように山城に置く。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p403 |
| 89 | 宝永7年 | 1710 | 6月7日 | 表と奥の錠口番人の菅四郎右衛門は不埒なことがあり、押込みの刑を申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p408 |
| 90 | 宝永7年 | 1710 | 8月12日 | 佐伯城下の侍屋敷・町屋その外詳しい絵図の作成を、この間仰せ付けられ、今日出来上がった。絵図は城の模型に添えて、江戸の下屋敷へ運んでおくように仰せ付けられた。 | 温故知新録 | 宝永七年江戸日記抜書 | 『温故』三 p32 |
| 91 | 宝永7年 | 1710 | 8月13日 | 前日の模型・絵図面共に、今日下屋敷へ運ばせた。 | 温故知新録 | 宝永七年江戸日記抜書 | 『温故』三 p32 |
| 92 | 宝永7年 | 1710 | 8月19日 | 佐伯城本丸と二の丸を連結する廊下橋1か所を掛けること並びに冠木門4か所を建てたことを、老中秋元喬知に届け出る。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江戸) | 『温故』三 p160 |
| 93 | 宝永8年 | 1711 | 正月3日 | 藩主不在であるが、今年のご隠居様(5代高久)がいるので、佐伯の両町と村浦の庄屋たちからの年頭挨拶を広間で申し上げた。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p92 |
| 94 | 宝永8年 | 1711 | 2月13日 | ご隠居様の居所の普請は今日が棟上げなので、奉行人・小頭並・足輕・大工・木挽の合わせて30人に祝いを下された。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p94 |
| 95 | 宝永8年 | 1711 | 4月19日 | ご隠居様の居所の普請ができたので、移徒(いし・転居)の祝いの祈とうを今日大日寺が登城して執り行った。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p95 |
| 96 | 正徳元年 | 1711 | 5月27日 | 時の太鼓を止め、山上の鐘楼に鐘を上げて撞かせようと考えたが、人手が4人ほどいるため、見合わせるよと命じられた。今までは櫓門の番人が叩いている。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p99 |
| 97 | 正徳元年 | 1711 | 6月20日 | 殿がお出掛けになる際、帰城が夜になれば、冠木門と櫓門へ台提灯を出すようにしてきたが、目立つためやめることとした。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p106 |
| 98 | 正徳元年 | 1711 | 6月22日 | 兵法場の普請を命じられたので、奉行を下川佐次兵衛へ申し付けたことを、十左衛門が申し伝えた。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p106 |
| 99 | 正徳元年 | 1711 | 7月12日 | 外記が家督の挨拶を申し上げるので、殿は居間へ着座した。終わってから外記は次の間へ退出した。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p108 |
| 100 | 正徳元年 | 1711 | 8月14日 | 小林九左衛門・同右衛門・黒木新五左衛門に永の暇を下された。会所で十左衛門から3人の立ち退きについて申し渡した。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p112 |

文献史料記事一覧（5）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁史料番号 |
|-----|-------|------|--------|--|-------|---------------|------------|
| 101 | 正徳元年 | 1711 | 11月6日 | 家中の者に城山へ登りたいとの意向があれば、意向次第にせよ。当分は城の書院を生活の場とし、その間は座敷の内を屏風で囲う。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江戸) | 『温故』三 p173 |
| 102 | 正徳2年 | 1712 | 正月2日 | 居間で隠居簀川式遊の挨拶を受けたが、歩けないので祝いの熨斗を殿が自ら渡した。外に2人の隠居の挨拶を受けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p435 |
| 103 | 正徳2年 | 1712 | 正月2日 | 書院へ出て、領内各地の番人や中小姓・徒士の者たちの挨拶を受けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p435 |
| 104 | 正徳2年 | 1712 | 正月28日 | 本丸・二の丸・西北の出丸・居所、その他の櫓7か所・土蔵1か所などの絵図と費用の概要がすべて出来て、一覽した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p437 |
| 105 | 正徳3年 | 1713 | 2月29日 | 三の丸石垣修復の願書を今日、幕府へ提出した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江戸) | 『温故』三 p212 |
| 106 | 正徳3年 | 1713 | 3月15日 | 先月29日に三の丸石垣を築き直すことを秋元但馬守へ願ひ出ていたところ、許可され、老中連名の奉書が渡された。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江戸) | 『温故』三 p212 |
| 107 | 正徳3年 | 1713 | 3月27日 | 三の丸の石垣は、柳井の脇から黒門の間の20間ほどに孕みが出ている。先月29日に秋元但馬守へ修復を願ひ出た。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p135 |
| 108 | 正徳3年 | 1713 | 5月18日 | 来る20日、櫓門下で給人で奉公に出ていない息子たちまでの、弓を射る腕前を一覽すると申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p447 |
| 109 | 正徳3年 | 1713 | 5月27日 | 三の丸の孕んだ石垣の築き直し工事に掛かると申し付けた。奉行は坂本瀬兵衛に申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p447 |
| 110 | 正徳3年 | 1713 | 5月28日 | 山上の曲輪のすべての塀の裏側石垣の内側に栗石を一通り連ねて敷き並べさせるように。やり方は国矢藤右衛門が了解している。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p142 |
| 111 | 正徳3年 | 1713 | 6月2日 | 三の丸の石垣の築き直しの普請を今日から開始するように申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p448 |
| 112 | 正徳3年 | 1713 | 7月2日 | 今日、本丸へ馬で登るように申し付け、西出丸の門まで行かせた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p449 |
| 113 | 正徳3年 | 1713 | 7月29日 | 山上の曲輪の普請を願ひ出て、櫓をすべて次々に築いていくわけだが、年数を掛けなければできない。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p145 |
| 114 | 正徳3年 | 1713 | 7月29日 | 櫓台は所々が崩れているだけに目立ち、無秩序に見えるので、まずは二の丸の二重櫓・平櫓と渡り櫓の3か所だけを築く。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p145 |
| 115 | 正徳3年 | 1713 | 7月29日 | その他の櫓台には塀を掛けておいて、時機が来たときに築くようにするのが適当と考える。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p145 |
| 116 | 正徳3年 | 1713 | 7月29日 | 3か所の櫓を築く費用は、先年の書付のとおりだと勘定人は考えているのか、費用の出所に心当たりはないのか書き付けを提出せよ。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p145 |
| 117 | 正徳3年 | 1713 | 7月29日 | 二の丸櫓・二の丸平櫓・渡り櫓を築くのに必要な費用の見積もりは合計銀14貫480匁で、これは金にして215両2分。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p146 |
| 118 | 正徳3年 | 1713 | 8月11日 | 三の丸の東南の間の孕んだ石垣1か所は、当春に願ひ出たとおりに築き直すように申し付け、全てが出来上がった。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p451 |
| 119 | 正徳3年 | 1713 | 8月17日 | 奉行の坂本から三の丸の石垣の築き直しは6月2日から昨日8月16日までに済ませて出来上がったとの報告があった。普請に掛った者へ料理を下された。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』三 p452 |
| 120 | 享保元年 | 1716 | 11月7日 | 山城にある黒龍の筒を、木立村で22町の距離で5発打たれ、国矢らが見分した。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p203 |
| 121 | 享保元年 | 1716 | 12月29日 | 歳暮の挨拶に家中の者たちが登城し、居間において家老たちが御礼を申し上げた。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p204 |
| 122 | 享保2年 | 1717 | 6月16日 | 昨夜12時頃、船頭町で出火し、今朝6時頃鎮火した。船頭町は5・6軒を残して全て焼失したが、城内や武家屋敷・内町には被害はなかった。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四 p200 |
| 123 | 享保2年 | 1717 | 7月15日 | 城内の時計は今まで1つだったが時刻の間違いが起るから、もう1つ申し付けるように沙汰されたため、大坂表へ申し送らせた。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p199 |
| 124 | 享保2年 | 1717 | 10月5日 | 朱印状の写しの頂戴が済み、次の間で取次以上と医師へ料理を、他の者へは広間、身分の低い者(町や浦に住む者も)は会所で酒などを下された。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p202 |
| 125 | 享保3年 | 1718 | 正月1日 | 広間で小役人たち一同の挨拶をお受けになった。それから書院で御流れを目見格以上の者へ下された。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p205 |

文献史料記事一覧（6）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁史料番号 |
|-----|-------|------|--------|---|--------|---------------|-----------|
| 126 | 享保3年 | 1718 | 正月11日 | 今日は講義初めなので、居間において明石条左衛門が熨斗目の袴を着用して「大学」の講釈を行った。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p205 |
| 127 | 享保4年 | 1719 | 5月16日 | 若殿(高通)が病気のため、弟の大八郎(高能)を嫡子にすることが認められたことを、国元の会所において給人へは高瀬藤兵衛から申し渡した。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p215 |
| 128 | 享保4年 | 1719 | 5月26日 | 役人たちの会所での態度がよろしくないのので、以前の決まりどおりに今後は対応することを申し渡した。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p216 |
| 129 | 享保4年 | 1719 | 11月9日 | 小林平太夫が、今まで目付は城の宿直を1日交替で勤めていたと申し伝えたが、1人のときは常に勤めるように申し伝えた。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p221 |
| 130 | 享保4年 | 1719 | 12月29日 | 歳暮の祝儀は居間において用人以下が出て、祝儀を申し上げた。殿様が書院の次の間に出座し、祝儀を申し上げた。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p226 |
| 131 | 享保6年 | 1721 | 6月28日 | 国元より山城石垣普請の報告。6月11日より着手、普請奉行は間作平と谷川源左衛門。6月7日に祈禱をし、事始めを行った。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江戸) | 『温故』四p141 |
| 132 | 享保6年 | 1721 | 7月10日 | 両町の心得のある者7人に山城の御殿の屋根修繕を申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-7 |
| 133 | 享保6年 | 1721 | 10月4日 | 城石垣修復の件を願い出るので、江戸で老中戸田山城守に内々に見てもらい、冠木門を大手、裏門を勝手と書き換えるように指示。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四p277 |
| 134 | 享保6年 | 1721 | 10月10日 | 城石垣修復願書の提出は、先月11日に月番老中井上河内守へ提出して受理された。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四p277 |
| 135 | 享保7年 | 1722 | 6月6日 | 本丸・二の丸の石垣修復のための祈禱を本丸で行った。6月11日より着手。また、その出席者には西名兵右衛門ら、修復奉行は間・谷川。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-8 |
| 136 | 享保7年 | 1722 | 7月23日 | 9日から雨が続き、10日14時過ぎまでに大洪水となった。10日未明から舟で城下の見分に出たところ、濁流に巻き込まれて家臣3名が死亡した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江戸) | 『温故』四p146 |
| 137 | 享保7年 | 1722 | 8月7日 | 摂津守様(高通)の御殿普請のための土取りの作業員について。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-8 |
| 138 | 享保7年 | 1722 | 8月20日 | 城の石垣修繕は、去る4日限りで出来上がり、終了した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江戸) | 『温故』四p154 |
| 139 | 享保7年 | 1722 | 9月22日 | 城の石垣普請が完了したので、間・谷川ら関係者に褒美をとらせた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-8 |
| 140 | 享保7年 | 1722 | 9月26日 | 先般、摂津守様の御殿普請のために両町から借りた空俵170俵のうち90俵を両町へ返却した。残る80俵は内町、船頭町に40俵ずつ返却する予定。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-8 |
| 141 | 享保7年 | 1722 | 10月6日 | 摂津守様の御殿普請の斧初めの儀式は、普請奉行中村与一兵衛、足軽小頭野村勇左衛門、足軽1名が行う。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-8 |
| 142 | 享保7年 | 1722 | 10月21日 | 大手櫓門の普請は、先月28日の晩限りにすべて出来上がり、格好などは申し分ない。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江戸) | 『温故』四p182 |
| 143 | 享保7年 | 1722 | 10月21日 | 大手櫓門の普請担当である小林九左衛門らに、以前申し付けておいたように褒美を遣わした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江戸) | 『温故』四p183 |
| 144 | 享保8年 | 1723 | 5月12日 | 櫓門の下で家中の者の鉄砲の的当て稽古の腕前を一覧した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四p297 |
| 145 | 享保8年 | 1723 | 11月21日 | 今日、城山・臼坪山で猪狩りを申し付け、2頭を打ち留めた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四p307 |
| 146 | 享保9年 | 1724 | 正月1日 | 年頭の挨拶は取次以上がして、次に書院の次の間で徒士の者たち一同の挨拶を受けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四p313 |
| 147 | 享保9年 | 1724 | 正月1日 | 御表において、家老以下から年始の挨拶を申し上げた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 148 | 享保9年 | 1724 | 正月4日 | 年始の挨拶のため城下の5か寺が登城。書院で養賢寺へ東一本の献上に対してお礼を述べ、大日寺、潮谷寺もお礼を述べた。善教寺は病気で登城しなかった。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 149 | 享保9年 | 1724 | 正月5日 | 泥谷村の脇田治右衛門が年始のため登城し、扇子を差し上げたので書院でお礼を申し上げた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 150 | 享保9年 | 1724 | 正月6日 | 櫓門下で家中の打ち初め。両殿様も櫓へおいでになった。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |

文献史料記事一覧（7）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|-----|-------|------|--------|---|--------|--------------|---------------|
| 151 | 享保9年 | 1724 | 正月12日 | 表向きの居間で、藩主・摂津守・側室と一緒に祝いをした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四 p315 |
| 152 | 享保9年 | 1724 | 正月18日 | 冠木門・裏門は以後18時頃から女の出入りを禁ずる。理由があるならば城番の側用人に断つた上で指図を受けること。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-5 |
| 153 | 享保9年 | 1724 | 3月22日 | 伊予国西条藩黒島から、孫吉ら石工4人が船で来たので、役人立会いのもと改めさせた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 154 | 享保9年 | 1724 | 4月6日 | 小林九左衛門が表の門の石垣の角石を見分するため浦方へ出た。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 155 | 享保9年 | 1724 | 閏4月1日 | 小林九左衛門が表の門の石垣の角石見分のため浦方へ出た。高妻加太夫と浦奉行理右衛門も同道した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 156 | 享保9年 | 1724 | 閏4月8日 | 小林九左衛門が聞いたところ、明日9時に角石にて船から大石を揚げろ。急なことで作業員の手配が間に合わず、130人を出すよう両町と塩屋村に申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 157 | 享保9年 | 1724 | 閏4月10日 | 昨日は大石を船から揚げるための作業員について、年寄や家内頭まで残らず酒などを持参して世話を焼いたと用人たちから聞いた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 158 | 享保9年 | 1724 | 閏4月12日 | 大手門の大石は、角石から冠木門(大手門)まで、両町に下野・久部・長瀬の者が加わって引き上げた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 159 | 享保9年 | 1724 | 閏4月15日 | 本日、江戸からの使が到着し、大手門は願いのとおり、門下の石垣や櫓の建て替えが許可されたので、家中の者はみな登城して喜んだ。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 160 | 享保9年 | 1724 | 閏4月15日 | 大手門修復願いに、先月24日に出向いたところ、連名の奉書のお渡しがあり、受け取られたと申し送ってきた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四 p341 |
| 161 | 享保9年 | 1724 | 閏4月17日 | 小林九左衛門に大手門普請の総奉行を申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四 p342 |
| 162 | 享保9年 | 1724 | 閏4月17日 | 大手門を今日から片付けるので、在浦庄屋、肝煎を呼び出し、会所でこの度の大手櫓門の普請の次第や趣旨を小林九左衛門から申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 163 | 享保9年 | 1724 | 閏4月17日 | (大手櫓門の普請のため)蒲江・入津・米水津の下浦組は漁の間に山から材木を伐り出すよう、会所で小林九左衛門から申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 164 | 享保9年 | 1724 | 閏4月17日 | 大手櫓門普請のため、持ち籠を差し出すよう小林から両町年寄に申し付け、内町から16、船頭町から10と棒5本、塩屋村から18を集めて普請方へ渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 165 | 享保9年 | 1724 | 閏4月20日 | 下野村ほか九か村と津久見村庄屋、肝煎から、大手門普請のための材木切り出しと田植えの優先順位について相談をうけ、願いのとおりに許可した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 166 | 享保9年 | 1724 | 閏4月21日 | 城の大手門が破損し、冠木門を櫓門にして石垣を築き立てる件をこのたび願い出た。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四 p339 |
| 167 | 享保9年 | 1724 | 閏4月28日 | 城下の範囲は、東は潮谷寺・大日寺あたりの堀まで、南は船頭町札場まで、北は榊形の養賢寺前の木戸までとする。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四 p344 |
| 168 | 享保9年 | 1724 | 5月2日 | 大手門普請は、今日手斧初めを申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四 p344 |
| 169 | 享保9年 | 1724 | 5月3日 | 大手門の普請のため、両町に外俵60表を差し出すよう申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 170 | 享保9年 | 1724 | 5月12日 | 追手(大手)の普請に関わる作業員へ振る舞う希望の者は、両町内の場合には年寄から郡代・町奉行に聞いたうえで、総奉行へ報告すること。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 171 | 享保9年 | 1724 | 5月14日 | 両町の年寄4人が、本日普請所へ詰めている作業員へ酒を振る舞う件について、総奉行小林九左衛門に相談し、自由にしてよいと申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 172 | 享保9年 | 1724 | 5月20日 | 中町の吉文字屋茂左衛門ほか4名が、普請所の作業員へ酒を振る舞いたいと言っていることを総奉行小林九左衛門に伝えたところ、許可された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 173 | 享保9年 | 1724 | 6月24日 | 大手門に用いる大きな木材は、中嶋口から引き揚げるので、今朝の両町からの作業員の手配が整い次第差し出すように申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 174 | 享保9年 | 1724 | 7月6日 | 明後日の8日に、普請をしている門の土台と鋸(おが)を上げるため、両町から作業員60人ほど加勢するよう申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 175 | 享保9年 | 1724 | 7月9日 | 大手櫓門の柱立(初めて柱を立てる祝いの儀式)を行った。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |

文献史料記事一覧（8）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|-----|-------|------|--------|---|--------|--------------|--------------|
| 176 | 享保9年 | 1724 | 7月11日 | 城村から瓦を取り寄せるため、両町から船を10艘差し出すよう申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 177 | 享保9年 | 1724 | 7月18日 | 大手門の普請に精を出したので、両町の年寄4人、在浦庄屋、肝煎、両町酒屋に会所で褒美を取らせた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 178 | 享保9年 | 1724 | 7月18日 | 大手櫓門の棟上げを祝った。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 179 | 享保9年 | 1724 | 7月22日 | 今日22日に大手門の普請所へ作業員10人を差し出すよう、両町へ申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 180 | 享保9年 | 1724 | 9月10日 | 大手普請のため臼坪から土取りをするので、両町から加勢の作業員30人程を2日間差し出すよう、両町へ申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 181 | 享保9年 | 1724 | 9月10日 | 塩屋村、両町から大手門普請の作業員として出てきた者たちに、普請の状況や計画などは妻子、他領の者へ決して語ってはならない旨申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 182 | 享保9年 | 1724 | 9月21日 | 大手の普請所のためのカキ灰について、両町紺屋から、今はカキ殻がないので、焼いておいたカキ灰・あら灰を差し出したいと申し出があった。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 183 | 享保9年 | 1724 | 9月26日 | 大手の普請所は近日中に片付けることを伝えたところ、奉行と大工たちへ酒を振る舞いたいと両町年寄と酒屋が申すので、そのようにすべきと申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 184 | 享保9年 | 1724 | 10月2日 | 大手の普請が完了したので、城において総奉行小林九左衛門以下の関係者に褒美を取らせた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 185 | 享保9年 | 1724 | 11月6日 | 大手櫓門が完了したので、今日橋佐古播磨守に祈祷を仰せ付けられ、小林九左衛門と目付の高妻嘉太夫が麻の袴で出席した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 186 | 享保9年 | 1724 | 11月6日 | 藩主が留守中に火事が起きた際、西名兵右衛門・小林九左衛門両人のうち1人は大手櫓門前に詰め、郡代中根曾右衛門は火事の現場へ行くことなど、火事に対しての覚書。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-5 |
| 187 | 享保9年 | 1724 | 11月6日 | 城下で火事が起きた場合、山城へ登り貝を吹いて合図を送ること。その勤めを関谷与次兵衛らに申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-5 |
| 188 | 享保10年 | 1725 | 正月2日 | 表と廊下で番人たちが、居間で家中の隠居・嫡子から年始の挨拶を申し上げた。本馬場で乗り初め。鏑・兵法・柔の事初め。諸役人は会所で御用初め。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 189 | 享保10年 | 1725 | 正月2日 | 御表の廊下で両町年寄・在浦庄屋から年始の挨拶を申し上げた。肝煎も同様。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 190 | 享保10年 | 1725 | 8月10日 | 城山の後通りの山すその刈り場では、20人扶持以上の給人に1年に2度ずつ柴を刈らせることの沙汰があった。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四 p371 |
| 191 | 享保10年 | 1725 | 11月26日 | 今日、鹿狩りを申し付け、城山と櫓野山で狩りを行った。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』四 p388 |
| 192 | 享保10年 | 1725 | 12月20日 | 来年に行われる山城普請について、各家中の担当割りか仰せ渡された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-10 |
| 193 | 享保11年 | 1726 | 正月5日 | 山城の普請小屋を大手門前に建てるため、作業員30人程を塩屋村と両町から7日、8日に差し出すよう小林九左衛門が申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |
| 194 | 享保11年 | 1726 | 正月6日 | 今年の普請で残っている箇所は、本丸外曲輪と二の丸、北の出丸の櫓の計3か所と二の丸の居宅、北の出丸の馬屋の5か所である。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p192 |
| 195 | 享保11年 | 1726 | 正月7日 | 山城の普請小屋を7日から使い始めるため、両町年寄河野茂右衛門が作業員を連れてきた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |
| 196 | 享保11年 | 1726 | 正月14日 | 櫓の普請のための材木の伐り出しの見分のため、黒沢山へ中根曾右衛門(左治馬)が出かけた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |
| 197 | 享保11年 | 1726 | 正月17日 | 小林九左衛門が、家中からの夫役の者207人を今日22日から晦日までの櫓の普請に取りかからせるため、書付を出した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p193 |
| 198 | 享保11年 | 1726 | 正月22日 | 小林九左衛門を高政公の廟堂に名代として行かせ、今度櫓4か所の普請を申し付けたことを報告した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p193 |
| 199 | 享保11年 | 1726 | 正月22日 | 今日から櫓の普請にかかるため、斧初めの祝儀で料理を取次以上ならびに普請奉行に下され、いずれも麻の袴で登城した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |
| 200 | 享保11年 | 1726 | 正月24日 | 今日は吉日なので、6時ごろ山上で櫓普請の手斧初めを行わせた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p194 |

文献史料記事一覧（9）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁史料番号 |
|-----|-------|------|-------|---|--------|--------------|-----------|
| 201 | 享保11年 | 1726 | 正月24日 | 手斧初めを行うとき、総奉行小林九左衛門と普請奉行の4名は麻袴で詰め、大工棟梁が手斧初めの儀式を首尾よく済ませた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p194 |
| 202 | 享保11年 | 1726 | 3月4日 | 明日5日に山城の平櫓の屋根を葺く作業員20人を両町へ申し付けるよう申し渡された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |
| 203 | 享保11年 | 1726 | 3月8日 | 二の丸櫓台から白坪の峰通りまでは直線で5町5反と丹右衛門が計測した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p203 |
| 204 | 享保11年 | 1726 | 3月9日 | 古川仁左衛門に城絵図を渡して、本年の普請の次第について、以下5項目のように申し付けた。外曲輪櫓・二の丸櫓・北の出丸櫓、この分についてはいよいよ取りかかる。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p204 |
| 205 | 享保11年 | 1726 | 3月9日 | 二の丸の土蔵・西の出丸の馬屋、これは今回のついでに申し付ける。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p204 |
| 206 | 享保11年 | 1726 | 3月9日 | 北の出丸の馬屋は北の出丸の櫓を普請するときに申し付ける。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p204 |
| 207 | 享保11年 | 1726 | 3月9日 | 二の丸の居宅は以上の普請がすべて済んだうえで、時機を見て申し付ける。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p204 |
| 208 | 享保11年 | 1726 | 3月9日 | すべての側面の塀333間余りは腰板を黒く塗るよう命じたが、腰板は取り、すべて白土壁にすることも検討する。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p205 |
| 209 | 享保11年 | 1726 | 4月12日 | 城山を天守と呼ぶ者がいるが、山全体は城山と呼び、分けていう際は本丸・二の丸・西・北の出丸・三の丸・大手・櫓・櫓門・冠木門又は塀・石垣と呼ぶこと。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p213 |
| 210 | 享保11年 | 1726 | 4月12日 | 天守台とはその場所だけを言うべきである。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p213 |
| 211 | 享保11年 | 1726 | 4月26日 | 本丸二重櫓から鉄砲場までの距離を調べたところ、11町12間であった。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p220 |
| 212 | 享保11年 | 1726 | 5月1日 | 小林九左衛門に重要な城普請の総奉行を命じたところ、櫓も数か所あったが、思いのほか早く出来上がったので、100石加増する。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p221 |
| 213 | 享保11年 | 1726 | 5月1日 | 来る3日の櫓棟上の祝儀に際し、料理人は午前4時頃に、給仕人は8時に出仕すること。服装は萌黄色は着用しないという達しが来た。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |
| 214 | 享保11年 | 1726 | 5月3日 | 今日は、吉日なので今朝5時過ぎに城の櫓の棟上げの規式を済ませた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p223 |
| 215 | 享保11年 | 1726 | 5月3日 | 我ら是有卦(幸運の年回り)に入ったので、祝いのため、表向きで能の略式演奏を申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p223 |
| 216 | 享保11年 | 1726 | 5月3日 | 有卦の祝いがすべて済んで、山上へ行き、一通り見物をした。平櫓において棟上げの供え物などを頂戴して祝った。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p224 |
| 217 | 享保11年 | 1726 | 5月3日 | 平櫓の棟上げの祝儀で家老たちが肴を差し出した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p224 |
| 218 | 享保11年 | 1726 | 5月3日 | 平櫓の棟上げの祝いに料理を平櫓で藩主と摂津守と一緒に祝い、盃事などをした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p224 |
| 219 | 享保11年 | 1726 | 5月3日 | 取次格以上の者などに平櫓の棟上げの祝いの料理を、二の丸の小屋掛けの中で祝わせた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p224 |
| 220 | 享保11年 | 1726 | 5月3日 | 側室へ平櫓の棟上げ祝いの料理を出させた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p224 |
| 221 | 享保11年 | 1726 | 5月3日 | 平櫓の棟上げにつき、大工棟梁へ100疋を、腰棟梁へは500文あるいは300文ずつを遣わした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p224 |
| 222 | 享保11年 | 1726 | 5月3日 | 山上の祝いを行って、山を下りてから、主だった者は前に出て、今日の祝いが済んだ歓びを述べた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p224 |
| 223 | 享保11年 | 1726 | 5月3日 | このたびの城普請が一通りすべて済んだならば、金兵衛と九左衛門は月番を決めて勤めるべきこと。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p225 |
| 224 | 享保11年 | 1726 | 5月3日 | 櫓の棟上げの祝儀で、藩主と摂津守が平櫓にて取次以上と普請奉行へ山城で料理を下され、目見え以上は三の丸で家老中へお祝いを述べた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |
| 225 | 享保11年 | 1726 | 5月3日 | 全ての棟上げの祝儀のため登山し、二の丸で取次以上へ料理を下された。目見え以上は登城しお礼を述べ、中小姓以上は摂津守、内証へお礼を述べた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |

文献史料記事一覧 (10)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁史料番号 |
|-----|-------|-----------|--------|--|--------|---------------|------------|
| 226 | 享保11年 | 1726 | 5月5日 | 櫓普請に精を出した坂本弥五右衛門・長谷川与左衛門は加増し、西名長右衛門は給金、今井太次右衛門は中小姓に昇進、下川丹右衛門へは銀二枚が下された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |
| 227 | 享保11年 | 1726 | 6月8日 | 小林九左衛門から、明日9日に本丸櫓の屋根土居を葺くため、両町から作業員を多数差し出すようこと申し付けがあり、年寄へ申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |
| 228 | 享保11年 | 1726 | 6月27日 | 藩主毛利高慶より初代藩主・高政の佐伯入部と築城時の佐伯城について。また高慶の佐伯城修復についての申渡し。 | 温故知新録 | 毛利高寛公申渡覚 | 『温故』一 p301 |
| 229 | 享保11年 | 1726 | 7月11日 | 岸田桃要に平櫓の絵を申し付けたところ、精を出しよくできたので、今後は6人扶持を遣わす。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p246 |
| 230 | 享保11年 | 1726 | 7月12日 | 城普請役掛りの者・徒士の者・船頭・小頭、その他端々の者たちまでへ、今日褒美を遣わさせた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p246 |
| 231 | 享保11年 | 1726 | 7月12日 | 城普請成就の祝儀として、家老たちをはじめ普請奉行たちから肴を1種ずつを差し出した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p246 |
| 232 | 享保11年 | 1726 | 7月12日 | 今日会所において、惣庄屋・町年寄・村浦の庄屋たちすべてへ今度の城普請の成就の祝いに料理を頂かせた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p246 |
| 233 | 享保11年 | 1726 | 7月21日 | 城普請が成就したので、今日完成の見分に山上へ行った。一通り見分し平櫓で吸物などを出させた。取次以上の者も同様。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p248 |
| 234 | 享保11年 | 1726 | 7月21日 | 今年春からの普請中は格別に骨を折り大儀に思う。そこで我ら(高慶ら)が乗船以後15日の間は休息をせよ。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p248 |
| 235 | 享保11年 | 1726 | 7月21日 | 城普請のため、町村浦からずいぶん作業員を出している。藩主の留守中に人々を使わないようにせよ。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p249 |
| 236 | 享保11年 | 1726 | 7月22日 | 太田勘兵衛(森藩家臣カ)が今度の城普請成就の悦びにやってくる。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p251 |
| 237 | 享保11年 | 1726 | 8月9日 | このたび山城の櫓の普請が完成したので、江戸詰め平岩平左衛門に銀2枚と塩鯛5本を下され、7月12日にこれを祝った。その他の者にも褒美が下された。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p301 |
| 238 | 享保11年 | 1726 | | この度の櫓普請については庄屋、肝煎、百姓までよく精を出して働いたことを(殿様も)聞き、格別のことと思っておられる。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |
| 239 | 享保11年 | 1726 | | 今後仰せ付けられる城普請については、役人の指図や聞いたことなどを、よそ者に一切語ってはならないと、作業員となる百姓に言い聞かせること。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |
| 240 | 享保12年 | 1727 | 6月23日 | 御台所様が御涼み所へ上がる際に見かけた家中の者は、平伏したり笠を取ったりせず、お構いなく行き来してよい。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |
| 241 | 享保12年 | 1727 | 6月25日 | 代官から、殿様は度々御涼み所へ上がるので、殿様や御台所様が御涼み所へ上がる際に見かけた者は、構わず行き来してよいが、地方で見かけた際は心得違いをして礼を欠かないようこと申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-12 |
| 242 | 享保12年 | 1727 | 6月26日 | 今度尾ノ上に茶屋を造るよう申し付けた。藩主・側室も思いのままに行くので、家中の者・町人も遠慮することはない。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p268 |
| 243 | 享保12年 | 1727 | 7月15日 | このたび城の普請が完成したため、江戸の岩本平左衛門らへ使者の遠城寺甚左衛門によって銀を下された。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p316 |
| 244 | 享保12年 | C246:C253 | 7月26日 | 搦手門の普請のため作業員50人を両町から差し出すよう、町年寄へ申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-13 |
| 245 | 享保12年 | 1727 | 11月28日 | 来年正月12日からの城普請について、本丸外曲輪・二の丸・北出丸の計3か所の櫓と二の丸の居宅・北出丸の馬屋・塀の腰板の取り外しを小林に申し付けている。享保10年以後の普請は届出不要だと古川が伝えてきている。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p277 |
| 246 | 享保12年 | 1727 | 11月28日 | 来年の普請奉行・實川貞右衛門・斎藤勘助・浅井平次左衛門は小林の差函を受けるよう申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p278 |
| 247 | 享保13年 | 1728 | 正月12日 | 二の丸北側の二重櫓などを普請することを、高政公廟堂へ小林典膳を名代として報告させた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p287 |
| 248 | 享保13年 | 1728 | 正月12日 | 今朝は吉日なので、手斧初めをさせた。この祝いは赤飯・吸物・酒を藩主と摂津守で祝った。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p287 |
| 249 | 享保13年 | 1728 | 3月15日 | 二の丸櫓・北出丸櫓の壁の上塗り、漆喰付けが終わり、櫓の分3か所ともに本日限りで残らず終了した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p296 |
| 250 | 享保13年 | 1728 | 6月21日 | 二の丸居宅を屋形(館)と下々の者が言うことは自由、御殿と言うことは必要ない旨を、皆へ申し付けよ。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p307 |

文献史料記事一覧 (11)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁史料番号 |
|-----|-------|------|-------|---|--------|---------------|------------|
| 251 | 享保13年 | 1728 | 6月21日 | 小林典膳に城普請の総奉行を申し付けたところ精を出し、成就し差図も正しく、大変喜ばしいことなので50石加増する。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p309 |
| 252 | 享保13年 | 1728 | 6月21日 | 今度の城普請も成就した。岩本平左衛門へ祝儀に銀10枚を遣わす。側用人の3人は籍を出したので加増する。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p310 |
| 253 | 享保13年 | 1728 | 6月21日 | 河野奎兵衛は以前に不屈きなことがあったが、城普請が成就した祝いなので、以前のとおりに給米を遣わす。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p311 |
| 254 | 享保13年 | 1728 | 6月21日 | このたび国元の普請が完成したので、殿様から若殿様へ肴などを祝いとして進上なされた。若殿様からも肴などを進上なされた。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八 p315 |
| 255 | 享保13年 | 1728 | 6月25日 | 享保11年から今年7月末までに完成した城普請は次の通り。本丸天守台脇二重櫓・同所外曲輪二重櫓・二の丸二重櫓・同所渡櫓・同所平櫓・同所居宅・西及び北出丸二重櫓2か所・同所馬屋2か所・惣堀腰板取り修復。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p314 |
| 256 | 享保13年 | 1728 | 7月朔日 | 今回の城普請成就の祝儀に、江戸の奥向き者へ貸し付けた金銭があれば、今までの分は遣わすから、申し付けよ。今後のものではない。間違わないように。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p317 |
| 257 | 享保13年 | 1728 | 7月6日 | 来る22日に山上の城中すべて完成の見分をするので、家老たちは、いつもどおり供をすること。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p318 |
| 258 | 享保13年 | 1728 | 7月20日 | 山上の番人として、西出丸櫓と西出丸門脇の番所に小頭を詰めさせる。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p322 |
| 259 | 享保13年 | 1728 | 7月20日 | 番所は4人交代で詰めを申し付ける。岡崎郡右衛門、長谷川与左衛門、大島半蔵、浅井平次右衛門での、小林典膳の差図を受けよ。1人は昼夜詰め、食事は弁当。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p322 |
| 260 | 享保13年 | 1728 | 7月20日 | 本丸の内外・二の丸居館並びに西・北出丸の隅々まで、気を付けることを第一とせよ。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p322 |
| 261 | 享保13年 | 1728 | 7月20日 | 留守になってからの次の間・広間番を古川仁左衛門ら28人に順不同に申し付ける。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p323 |
| 262 | 享保13年 | 1728 | 7月20日 | 今度の城普請はすべて成就した。今後、修復のため足軽18人を召し抱え、1組20人の組編成とする。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p324 |
| 263 | 享保13年 | 1728 | 7月20日 | 年ごとに城の修復は多くなるので、これまでの棟梁2人に職人の大工18人を加え、修復のため城代付きに申し付ける。18人を足軽6組に3人ずつ配分する。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p326 |
| 264 | 享保13年 | 1728 | 7月21日 | 今日は吉日なので、若宮八幡の遷宮のため、8時ごろ城を出て、神社に参拝し、10時ごろ城に帰った。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p327 |
| 265 | 享保13年 | 1728 | 7月21日 | 社参への供は益田金兵衛以下7名。城に帰って以後遷宮の祝いに能の略式演奏を申し付けた。済んで料理を祝う。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p328 |
| 266 | 享保14年 | 1729 | 正月15日 | 具足開きの祝いを居間において殿と若殿は共具足の祝いをした。済んで、新しい居間において床机の掛初めがあった。 | 温故知新録 | 享保・元文・寛保・延享日記 | 『温故』九 p35 |
| 267 | 享保14年 | 1729 | 正月27日 | 本丸天守台・外曲輪・二の丸・西出丸・北出丸・櫓門・堀・居宅・馬屋など、昨年中にすべて完成したので、二の丸の居宅で祝った。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p333 |
| 268 | 享保14年 | 1729 | 2月9日 | 城山の羊歯(シダ)は自由に伐って良いが、不作法をしないことはもちろん、4人につき1人を付き添わせ、たばこは禁止し、火の用心は入念にすること。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | 06-430 |
| 269 | 享保14年 | 1729 | 2月29日 | 大手櫓門前の川が度々洪水を起こしたのは、砂で大分埋まったことが原因なので、村々から作業員を出し3月中に掘り上げる。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | 06-430 |
| 270 | 享保14年 | 1729 | 3月16日 | 去年完成した城の練堀の地下が乾かぬうちに上塗りをしたため、すべて剥がれた。塗り直させるので、両町から心得のある者を差し出すこと。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-15 |
| 271 | 享保14年 | 1729 | 4月25日 | 小林典膳から、山に消火のための水を揚げるために両町から作業員5人を差し出すように申し付けがあった。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-15 |
| 272 | 享保14年 | 1729 | 4月26日 | 明朝、山城へ藩主の所持品を上げるため、作業員1人を申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-15 |
| 273 | 享保14年 | 1729 | 4月27日 | 小林典膳へ、城普請もすべて成就し大慶である、よって祝いとして刀を一腰遣わすことを申し伝えた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p334 |
| 274 | 享保14年 | 1729 | 4月27日 | 中根左治馬・古賀清太夫に加増・役料を申し付けた。箕川貞右衛門、谷川源左衛門、高妻嘉太夫に褒美を取らせた。二の丸で申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p334 |
| 275 | 享保14年 | 1729 | 5月3日 | 中辻儀右衛門に忍術の火の術を居間の庭で5種致させ一覽した。残りは渡場で行わせ、尾ノ上の茶屋から一覽した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五 p339 |

文献史料記事一覧 (12)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|-----|-------|------|--------|---|--------|---------------|--------------|
| 276 | 享保14年 | 1729 | 5月19日 | 日照りが続いたため、大手門前で両町の雨乞い踊りをするよう仰せ付けられ、18時から夜2時頃に雨が降り出すまで踊りを続けた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-15 |
| 277 | 享保14年 | 1729 | 6月5日 | 佐伯の城普請がすべて完成したため、4月27日に二の丸でお祝いがあった。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p332 |
| 278 | 享保14年 | 1729 | 6月5日 | 国元の城普請がすべて完成したので、江戸でも取次以上と岩本甚助ならびに医師たちと奥女中へも祝いの料理を下された。 | 温故知新録 | 享保・元文・寛保・延享日記 | 『温故』九p37 |
| 279 | 享保14年 | 1729 | 10月22日 | 亥の子の祝いなので、大八郎・撰津守・虎太郎は藩主と一緒に祝い、松次郎だけは書院での祝いの後、居間で1人餅を遣わす。理由は帳面の奥に書いてある。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p369 |
| 280 | 享保14年 | 1729 | 10月23日 | 在城のときは今後正月3日に二の丸で雑煮などで祝うように。これを定めと心得て、皆に申し付けよ。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』五p369 |
| 281 | 享保15年 | 1730 | 正月3日 | 今日、二の丸へ行き雑煮・吸物などで撰津守と一緒に祝った。松次郎・典膳などに相伴を申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江府) | 『温故』六p181 |
| 282 | 享保15年 | 1730 | 正月3日 | 二の丸で雑煮、吸物などをいただき、撰津守と祝いの儀式をした。出席者と調度品、座席順の図。床の間には有信筆の三幅対(信玄・美濃守・勘助)。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-103 |
| 283 | 享保15年 | 1730 | 2月20日 | かねて仰せ付けられていた大手櫓門前の汐入の堀を浚渫する件は、28日から来月1日までに村の百姓たちで掘り上げるよう仰せ付けられた。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-7 |
| 284 | 享保15年 | 1730 | 4月19日 | 庭の石を直すので、両町から作業員5人を差し出し、黒門(三の丸北虎口の門)下に明日6時に集まるように申し付けがあった。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-16 |
| 285 | 享保15年 | 1730 | 5月5日 | 用人の中根左治馬から、船頭町高札場に浦方から青石2つが明日6日に来るので、朝のうちに城の玄関まで上げさせるよう両町年寄に仰せ付けた。 | 佐伯藩政史料 | 町方郡方御用日記 | D-IV-16 |
| 286 | 享保16年 | 1731 | 正月3日 | 今日、本城へ小林典膳が登り、番人・城代付・大工・足軽らも参上し、雑煮・吸物・酒を下された。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-108 |
| 287 | 享保16年 | 1731 | 正月15日 | 本城を囲むため、浦方庄屋は正月の料理を下される際に、一人につき真石一つずつを持参し、西出丸の下の捨曲輪で城代附の関谷ほかにも引き渡すこと。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-8 |
| 288 | 享保16年 | 1731 | 2月14日 | 本城が出火・雷火があった時のため、両町の年寄と酒屋に、大水籠(一石:1800)7個と小水籠59個を用意し、人員を3~9月は計46人、10~2月は計87人を準備しておくよう申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-17 |
| 289 | 享保16年 | 1731 | 4月4日 | 両町の酒屋が、先日申し付けられた火消し用の水籠に防水処置をする渋柿の給付を願ってきたので、渋1斗5升を与えた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-17 |
| 290 | 享保16年 | 1731 | 5月22日 | 先日、両町の酒屋へ申し付けた大水籠7個、小水籠57個ができたと書付により報告があった。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-17 |
| 291 | 享保16年 | 1731 | 8月19日 | 側室がいる場所の普請ができ、今日引越すので祝いとして、肴1折を用人によって遣わした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』六p257 |
| 292 | 享保16年 | 1731 | 10月15日 | 本城の昨日当番だった給人・小頭たちへ三の丸の次の間で玄猪の祝いを遣わした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』六p272 |
| 293 | 享保17年 | 1732 | 2月28日 | (殿様の)留守中、三の丸での当直は、西名兵右衛門・中根左治馬・長溝七右衛門・長谷川与左衛門・益田岡太夫が交代で勤める。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-9 |
| 294 | 享保17年 | 1732 | 8月2日 | 益田金兵衛を寺にやるにあたり、城内のごとであるから城の裏門を出て久成寺まで遣わした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』六p344 |
| 295 | 享保19年 | 1734 | 正月3日 | 今日二の丸へ行き、雑煮・吸物を祝い、松次郎並びに家老たち・医者たちに相伴を申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p3 |
| 296 | 享保19年 | 1734 | 正月3日 | 本日、例年のとおり二の丸へお出でになり雑煮、吸物などで祝った。松次郎様ほかの出席者と二の丸御床の調度品について。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-116 |
| 297 | 享保19年 | 1734 | 正月22日 | 藩主は今年60歳なので、本日年賀の祝いをし、大明神などに名代を遣わした。居間に床飾りをし。自分の賀歌を置き、寅太郎・側室・家老などが祈禱の札や年賀の祝儀を送ってきた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p11 |
| 298 | 享保19年 | 1734 | 正月22日 | 家老や家臣たちが祝儀を送ってきたので書院の次の間の敷居際に並べ、披露した。また居間で江戸から送られた肴を披露した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p11 |
| 299 | 享保19年 | 1734 | 正月22日 | 表居間で我らと寅太郎は小謡を3番、子孫繁昌・長生家・捏々を祝った。寅太郎は幼年なので、料理は居宅で祝わせた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p12 |
| 300 | 享保19年 | 1734 | 正月22日 | 寅太郎・側室、次に源十郎・安次郎へ居所で料理を祝わせた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p13 |

文献史料記事一覧 (13)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|-----|-------|------|--------|--|--------|---------------|--------------|
| 301 | 享保19年 | 1734 | 正月22日 | 源十郎は奥居間に出て、我らから奥斗と吸物・壺を遣わした。それが済み源十郎から料理を出し祝った。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p16 |
| 302 | 享保19年 | 1734 | 正月22日 | 高慶が表居間に着座するとすぐに、大和守から大明神・若宮八幡での祈とう札を送ってきた。松次郎からも祈とう札を送ってきた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p10 |
| 303 | 享保19年 | 1734 | 2月10日 | 会所は賞罰を執行する所なので、諸役人たちは日々心の内を改め、行儀正しく勤めよ。酒を飲むことは慎むべき。勤務態度が良くない。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p25 |
| 304 | 享保19年 | 1734 | 2月23日 | 城郭の普請について、櫓・門・堀・石垣・堀・橋だけは、どの藩でも願いがあれば幕府から奉書を取る。幕府へ申し上げるのはこの分だけである。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p34 |
| 305 | 享保19年 | 1734 | 2月23日 | 3、4尺くらいや1、2間くらいのことは、様子を見て目立たないように直させて済むことである。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p34 |
| 306 | 享保19年 | 1734 | 2月23日 | 三の丸のほか少々傷んだり壁の上塗りが損なわれた場所は、役人が物品の購入もせず可能な分は、修繕すべきだと伝えた。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-10 |
| 307 | 享保19年 | 1734 | 2月23日 | 一昨年、奥と居間を修復した際は、すべての柱を根継ぎした。茶の間・末の間の修理が残っているので、大工に見分させて根継ぎを申し付けるべきか。その費用の見積りをこちらへ送れ。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-10 |
| 308 | 享保19年 | 1734 | 2月23日 | 奥の茶の間のいろりは、灰石(凝灰岩)を用いていたが次第に悪くなったので、取り替えるよう五左衛門と与兵衛が申すので、取り替えるべきか。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-10 |
| 309 | 享保19年 | 1734 | 2月23日 | 重要な破損で本年中に修復が仰せ付けられず、できなかった場所についてははっかり吟味し、必要なもの見積もりを添えて江戸へ伺うように。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-10 |
| 310 | 享保20年 | 1735 | 2月8日 | 佐伯城修復願いの下絵図を、今月の用番老中の松平左近将監へ提出した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』六p46 |
| 311 | 享保20年 | 1735 | 2月8日 | 佐伯城修復願いの下書きを提出したが、絵図を提出せよとの指示があり、同15日に願書と絵図の両方を提出し、受理された。 | 温故知新録 | 享保・元文・寛保・延享日記 | 『温故』九p92 |
| 312 | 享保20年 | 1735 | 2月8日 | その箇所は本丸の外曲輪の北東の間で、堀が10間4尺、同じ場所の堀の下の石垣が、高さ1間・横10間4尺にわたって崩れている。 | 温故知新録 | 享保・元文・寛保・延享日記 | 『温故』九p92 |
| 313 | 享保20年 | 1735 | 2月8日 | 同じ場所の石垣の下の山が、高さ12間3尺・横10間4尺にわたって崩れている。 | 温故知新録 | 享保・元文・寛保・延享日記 | 『温故』九p93 |
| 314 | 享保20年 | 1735 | 2月15日 | 城の修繕の絵図と書付を正式に提出せよとの指図があったので提出した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江府) | 『温故』六p46 |
| 315 | 享保20年 | 1735 | 2月19日 | 佐伯の城の修復の件は、願いのとおりに奉書によって沙汰された。挨拶のため、松平左近将監方へ伺った。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p387 |
| 316 | 享保20年 | 1735 | 2月29日 | 去る15日に願い上げた城の修復は願いのとおりに申し付けるとの奉書を渡された。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江府) | 『温故』六p48 |
| 317 | 享保20年 | 1735 | 3月23日 | 昨年7月27日の風雨洪水で崩れた、本丸外曲輪北の堀、石垣と石垣下の修復は、浦方からは石を取り寄せ、在方へは山城へ運び上げるよう申し付ける。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-21 |
| 318 | 享保20年 | 1735 | 閏3月1日 | 御用石を上浦の嶋で選定したものを松ヶ鼻において石の数を確認し、惣庄屋吉野茂右衛門へ報告することを、茂右衛門から浦庄屋たちへ伝えるよう申し伝えた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-21 |
| 319 | 享保20年 | 1735 | 閏3月5日 | 安芸国江波の石垣築は石垣を築くのが非常に巧みなので、4人を雇い、給料の相談が決まれば早々に佐伯まで来るよう伝えること。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-21 |
| 320 | 享保20年 | 1735 | 閏3月8日 | 必要な御用石は535個と見立てたので、中浦の船人に不公平のないように割り当てるよう、吉野茂右衛門を呼び出して申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-21 |
| 321 | 享保20年 | 1735 | 閏3月10日 | 先般吉野茂右衛門へ申し渡した上浦の御用石90個は、松ヶ鼻へ残らず到着し、茂右衛門が受け取ったと番頭へ申し伝えた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-21 |
| 322 | 享保20年 | 1735 | 閏3月16日 | 山城の石垣普請に不足している御用石1,500個のうち1,000個は浦方で割石にして今月中に山へ上げること。残り500個は在方に割付ける。大庄屋らは吟味して運ぶこと。来月は農繁期になるので今月中に精を出すこと。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-21 |
| 323 | 享保20年 | 1735 | 閏3月19日 | 以前に見立ておいた石垣の石材535個は、中浦から松ヶ鼻へ残らず到着したと吉野茂右衛門が御用番へ申し伝えた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-21 |
| 324 | 享保20年 | 1735 | 4月6日 | 城修復の奉書には堀は記載しない規則だが、佐伯城の修復絵図には描かれていたのに、奉書でも記載することにしたと江戸本丸日記に記された。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江府) | 『温故』六p51 |
| 325 | 享保20年 | 1735 | 4月6日 | 本丸日記の内容は次のとおりであると、長野善太夫が内々に聞かせて下さった。 | 温故知新録 | 享保・元文・寛保・延享日記 | 『温故』九p96 |

文献史料記事一覧 (14)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁史料番号 |
|-----|-------|------|-------|--|--------|---------------|-----------|
| 326 | 享保20年 | 1735 | 4月6日 | 毛利周防守方から豊後国佐伯城修復願いを絵図にして提出した中に、堀のことで1項目立てていた。 | 温故知新録 | 享保・元文・寛保・延享日記 | 『温故』九p96 |
| 327 | 享保20年 | 1735 | 4月6日 | 奉書の中には堀は記載しない規則だが、願い主からの絵図に堀と出ていたので奉書に記載するようにと、松平左近将監から言われた。 | 温故知新録 | 享保・元文・寛保・延享日記 | 『温故』九p96 |
| 328 | 享保20年 | 1735 | 4月6日 | 規則で決まっていることなので、今後は奉書の中には堀とは記載しないように心得るべきことである。 | 温故知新録 | 享保・元文・寛保・延享日記 | 『温故』九p96 |
| 329 | 享保20年 | 1735 | 4月13日 | 安芸国江波から石垣職人4人が本日到着した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-21 |
| 330 | 享保20年 | 1735 | 4月29日 | 三の丸の腰廻りが例年どおり塩屋村に仰せ付けられた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-21 |
| 331 | 享保20年 | 1735 | 4月30日 | 下野・塩屋村から作業員を出して、中野・塩屋村の境までは下野村が、養賢寺から中野・塩屋村の境までは塩屋村が、腰廻り掃除を入念にするよう、両村へ代官から申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-21 |
| 332 | 享保20年 | 1735 | 5月26日 | 居間で寅太郎並びに松次郎・源十郎・安次郎が着城の喜びに参った。監物をはじめ物頭以上の者、医者たちが喜びを申しした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p39 |
| 333 | 享保20年 | 1735 | 6月3日 | 在着の祝儀を居間で寅太郎と一緒に料理で祝い盃をした。次の間で小林九左衛門たちへ料理を祝わせた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p40 |
| 334 | 享保20年 | 1735 | 6月12日 | 殿様は、5月26日に国元の城に到着なさったとの用状が江戸に着いた。家中の者たちは表向きへ出て喜びを申し上げた。 | 温故知新録 | 元禄・宝永・正徳・享保日記 | 『温故』八p389 |
| 335 | 享保20年 | 1735 | 6月13日 | 内膳(松次郎)が出席したので、居間で手ずから熨斗を遣わし、吸物など祝い盃を遣わした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p48 |
| 336 | 享保20年 | 1735 | 6月15日 | 本丸外曲輪の石垣修復のため、石を切り出す作業員へ扶持麦を下されることを、会所で書付により在浦へ申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-21 |
| 337 | 享保20年 | 1735 | 6月15日 | 本丸外曲輪が崩れたか所の修復に必要な石数を、我々は3,000個と見積もり用意したが、江波から雇い入れた石垣築は6,000個は必要だと申しした。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-11 |
| 338 | 享保20年 | 1735 | 6月15日 | 本丸外曲輪の石垣修復に必要なと見積もった石を用意したが、不足分を在浦へ割り当てる。ただし田畑に草取りの手間がかかる時期なので、別に麦を給付する。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-11 |
| 339 | 享保20年 | 1735 | 6月26日 | 居間で中村彦左衛門・斎藤勘助の役目と加増を申し付けた。挨拶を受けて、手ずから折紙を渡し、二人から肴が献上された。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p50 |
| 340 | 享保20年 | 1735 | 7月17日 | 大手門下の芝を張った土手の端の壁が、風雨でたびたび崩れるので、端を石垣とすべきだろうか、との伺いが出された。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-11 |
| 341 | 享保20年 | 1735 | 7月30日 | 本丸外曲輪の石垣修復は、29日までに残らず済ませた。来月2日から練堀に取り掛かる。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p55 |
| 342 | 享保20年 | 1735 | 7月30日 | 先日申し付けた大手櫓門、下の道の両脇を石垣にするよう申し付けたところ、取り掛かった。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p55 |
| 343 | 享保20年 | 1735 | 7月30日 | 練堀は今まで高さ8尺5寸のところ、7尺に申し付けると、更に丈夫になるだろうと役人たちが書付によって申し出、その通りした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p55 |
| 344 | 享保20年 | 1735 | 7月31日 | 本丸外曲輪の山が崩れた箇所石垣修復と修繕、堀の下の石垣は29日に残らず完成し、ことのほか丈夫に仕上がった。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-11 |
| 345 | 享保20年 | 1735 | 7月31日 | 石垣が完成したので、来月2日から練堀の修復に取り掛かる。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-11 |
| 346 | 享保20年 | 1735 | 7月31日 | 今日から大手櫓門下の土手両脇の石垣普請に取り掛かる。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-11 |
| 347 | 享保20年 | 1735 | 7月31日 | 本丸外曲輪の練堀は高さ8尺5寸だったが、今回の修復で7尺とし、石垣から6寸ほど内側に設けると丈夫になり、足場にもなる。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-11 |
| 348 | 享保20年 | 1735 | 7月31日 | これまでの堀は、練堀長さ14間4尺、高さ8尺5寸、土台厚さ3尺2寸、上塗り厚さ2尺。高さを7尺とした場合、厚さは同じでよいだろうか。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-11 |
| 349 | 享保20年 | 1735 | 7月31日 | 大手櫓門下の土手の両脇の石垣は、奉行山口小太右衛門へ命じてよいだろうか。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-11 |
| 350 | 享保20年 | 1735 | 8月2日 | 大手門番、搦手門番は、庭の木の枝や花、草花を城内から外へ持ち出すことについて、側用人の許可証がなければ通してはならない。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-11 |

文献史料記事一覧 (15)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁史料番号 |
|-----|-------|------|--------|--|--------|----------------------|-----------|
| 351 | 享保20年 | 1735 | 8月19日 | 本丸外曲輪の山崩れの箇所石垣修復が完了したので、芸州江波の石垣築き4人を帰した。修復が丈夫にできたので、褒美を取らせた。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-11 |
| 352 | 享保20年 | 1735 | 9月24日 | 今度の本丸外曲輪の山崩れの修復などに使った人数と石数は、作業員17,839人内、757人家中の役夫、総石数は合計6,310。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p62 |
| 353 | 享保20年 | 1735 | 10月5日 | 先ごろ、記した本丸石垣修復は残らずできた。用掛、目付らには料理を、徒士・小頭・足輕などには吸物と酒を頂かせた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p63 |
| 354 | 享保20年 | 1735 | 10月19日 | 今日城山・白坪山の猪狩りをさせたが、猪は出ず、狩りが済んだ午後2時ごろに帰城した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p68 |
| 355 | 享保21年 | 1736 | 正月3日 | 例年のとおり、山城へ上がり、二の丸の屋形を取次以上の者と吸物、酒で祝いをした。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-22 |
| 356 | 享保年間か | | | 初代藩主高政から4代高重代までの佐伯城の築造や城下町建設などの事績と分家の創出、家臣たちの登用・処分などについて記録・問書などによってまとめたもの。(6代高慶代の編さんか) | 温故知新録 | 佐伯拝領後高政公等事跡并召出家臣履歴等覽 | 『温故』一p321 |
| 357 | 元文元年 | 1736 | 9月11日 | 11日21時頃、本町の浅沢左衛門宅から出火し、内町は残らず焼失して翌日2時過ぎに鎮火した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(江府) | 『温故』六p69 |
| 358 | 元文2年 | 1737 | 2月6日 | 角石から船頭町札場までの川筋の石垣は、洪水の度に不安定となってきたので修復すべきか。その場合、江波石垣築きに請け負わせるべきか同う。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-13 |
| 359 | 元文2年 | 1737 | 2月7日 | 先般同った角石から下の船蔵までの川筋土手の石垣について、修復させるための江波石垣築きの賃金を吟味し、丈夫に仕上げることを奉行に申し上げた。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-13 |
| 360 | 元文3年 | 1738 | 正月3日 | 例年のとおり、取次以上が(藩主の)お供をして山城へ上がり、二の丸の屋形にて吸物と酒でお祝いをした。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-24 |
| 361 | 元文4年 | 1738 | 正月元日 | 卯の上刻、家中の面々が登城し、書院で寅太郎様、内膳様へ年始の挨拶を申し上げた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-25 |
| 362 | 元文4年 | 1739 | 正月6日 | 櫓門下で鉄炮の打ち初めをして、寅太郎様、内膳様も打ち初めをなされた。取次以上は打ち初めを仰せ付けられた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-25 |
| 363 | 元文4年 | 1739 | 2月2日 | このところ城山に入り込む者がいるが、子供でも以ての外のことである。下々の者に慎むよう言い聞かせるよう、諸役人に申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-25 |
| 364 | 元文5年 | 1740 | 正月3日 | 二の丸での祝いの儀式は、天候が悪いため延期した。 | 佐伯藩政史料 | 在所日記 | D-VII-12 |
| 365 | 元文5年 | 1740 | 11月17日 | 城山の落木を家中の下々まで下さることについて仰せ付けられ、今日から19日までの3日間の措置であると申し渡された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-26 |
| 366 | 元文6年 | 1741 | 正月3日 | 藩主の名代として源十郎様が本城に出られ、雑煮、吸物などでお祝いをなされた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-139 |
| 367 | 元文6年 | 1741 | 正月3日 | 名代として源十郎が二の丸へ参上した。 | 佐伯藩政史料 | 在所日記 | D-VII-15 |
| 368 | 元文6年 | 1741 | 3月5日 | 例年通り花見を、書院で源十郎と一緒に、黒木右膳らが相伴し、次の間で郡代以上に料理を頂かせた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p247 |
| 369 | 寛保元年 | 1741 | 4月3日 | 江戸の医者・植木隆郁を佐伯城へ呼び寄せ、しっかり容態を見せた。薬を服用した。次の間で吸物などを出させた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p251 |
| 370 | 寛保元年 | 1741 | 8月5日 | 7月21日の佐伯の風雨洪水について、城内の被害などを届けるよう江戸へ手紙を出した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p255 |
| 371 | 元文6年 | 1741 | 8月24日 | 来る27日に、御城の書院の小間で繰り芝居をご覧になると命じられた。その際同席者と服装についての答申 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-27 |
| 372 | 寛保元年 | 1741 | 8月27日 | 戸穴村の大宮八幡祭礼のため来ていた繰り芝居を呼び寄せ、書院で一覽した。取次以上、中小姓以上の役人たちに見物を申し付けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p255 |
| 373 | 寛保元年 | 1741 | 10月8日 | 玄猪なので祝儀の餅を長溝休助たちへ居間で遣わし、書院では源十郎が出席した。目見格の者は広間で取次が披露した。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p256 |
| 374 | 元文6年 | 1741 | 正月元日 | 奥の間で右膳をはじめ、中老たちの挨拶を受け、盃を遣わした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p240 |
| 375 | 元文6年 | 1741 | 正月元日 | 書院で高慶の名代で源十郎が出席し、書院で家中の者から挨拶を受け、徒士以下の者が広間に並び一同に正月の挨拶をした。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七p240 |

文献史料記事一覧 (16)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|-----|-------|------|--------|---|--------|--------------|---------------|
| 376 | 元文6年 | 1741 | 正月元日 | 居間で名代の源十郎が給人の嫡子の挨拶を受けた。 | 温故知新録 | 高慶公御手日記写(佐伯) | 『温故』七 p240 |
| 377 | 寛保2年 | 1742 | 正月3日 | 源十郎が山城に上がり、取次以上も登城してお喜びを申し上げた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-VI-28 |
| 378 | 寛保2年 | 1742 | 11月16日 | 櫓門は今までのとおり18時頃から22時頃までは、潜り門を開け、城内から物を運ぶときは当番の目付の指図を受けること。台所前の門は18時頃に閉め、6時頃に開けること。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-18 |
| 379 | 寛保2年 | 1742 | 12月2日 | 城内の各所へ渡す油と炭の量について。本城、三の丸、御奥それぞれの建物、部屋の名称と行灯の数、種類について。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-18 |
| 380 | 寛保3年 | 1743 | 正月3日 | 殿様が病のため、名代として源十郎様が本城へ登られた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-III-142 |
| 381 | 寛保3年 | 1743 | 正月3日 | 源十郎が役人たちと二の丸へ参上した。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-VII-22 |
| 382 | 寛保3年 | 1743 | 7月11日 | 山城の屋根の青銅瓦が紛失した件について、奉行所に訴え吟味したところ、盗んだ者と買った者が白状したので牢に入れた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-VI-29 |
| 383 | 寛保3年 | 1743 | 7月11日 | 上野村から蔵を務めていた善吉が、仁助に頼まれて銅瓦1枚を中町利八へ売ったことを白状した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-VI-29 |
| 384 | 寛保3年 | 1743 | 7月11日 | 本城の渡櫓屋根のほか谷部に葺いた銅瓦13枚と、三の丸玄関屋根の谷部に葺いた銅瓦1枚の紛失(盗難)について、犯人の処罰。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-19 |
| 385 | 寛保3年 | 1743 | 7月11日 | 銅瓦を買い取った町人5人は不屈き者なので牢に入れるべきだが、まず弥三兵衛らへ預け、追って処罰することとした。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-19 |
| 386 | 寛保3年 | 1743 | 7月11日 | 盗人のうち、仁助は西名兵右衛門の小頭、山崎伝次右衛門と同僚なので、伝次右衛門が差配するよう、兵右衛門へ申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-19 |
| 387 | 寛保3年 | 1743 | 7月12日 | 船頭町惣右衛門・内町理八・七郎兵衛・市郎兵衛・孫八は盗品の瓦を買い取ったため親や兄に預けていたが、この度入牢を申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-VI-29 |
| 388 | 寛保3年 | 1743 | 7月19日 | 銅瓦の窃盗と売買にかかわった犯人に罰として戸メを科したが、外見も見苦しく、若宮八幡の祭礼などにも差し支えるため、過料を申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-19 |
| 389 | 寛保3年 | 1743 | 7月19日 | 盗品の瓦を買い取り、親類に預けられていた内町七郎兵衛・同市郎兵衛・同孫八・同理八に対し、過料銀20枚を支払うよう言い渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-VI-29 |
| 390 | 寛保3年 | 1743 | 12月21日 | 銅瓦を盗んだ、御役小人彦六・孫八、塩屋村喜七、内町仁助の4人は入牢させていたところ、大赦により牢を出て領外への追放とした。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-VI-29 |
| 391 | 延享元年 | 1744 | 5月2日 | 宗門奉行の権右衛門によると、来る12日に御城内において祈祷を行うので、白坪大明神と若宮八幡の神主に申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-1 |
| 392 | 延享元年 | 1744 | 5月2日 | 御作事奉行の孫市左衛門が、この度の馬屋の屋根修復に必要な資材と数量をまとめた。かき灰、ふのり、油、古苧綱など。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-1 |
| 393 | 延享元年 | 1744 | 5月2日 | 御作事奉行の孫市左衛門が申すには、城内の御用屋敷の修理にはたね(菜種油)が1斗1升5合、代銀7匁4分と8疋が必要である。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-1 |
| 394 | 延享元年 | 1744 | 5月2日 | 城内の庭にあった梅を、作事奉行と徒士目付らが立ち会って取らせた。合計993個で、うち898個は大梅、95個は中梅であった。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-1 |
| 395 | 延享元年 | 1744 | 7月2日 | 作事奉行の話によると、米蔵の修理に大工5人、木挽2人が必要であり、さらに本城の修復のため梯子、奥の修復のため切子灯籠を2つ遣わした。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-2 |
| 396 | 延享元年 | 1744 | 7月6日 | 作事奉行が、三の丸搦手門の屋根、城内屋敷、御用屋敷、米蔵の修理に必要な資材と作業員を勘定書へ申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-2 |
| 397 | 延享元年 | 1744 | 7月21日 | 作事奉行が、米蔵の屋根修理に使う竹は山奉行へ、梯子は作事奉行へ申し渡し、丸物(柱カ)は城山で(木を)伐るよう申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-2 |
| 398 | 延享元年 | 1744 | 8月6日 | 作事奉行の平助が申すには、昨晚三の丸黒門脇の井戸付近の石垣が崩れた。米蔵の修理に差し障りがあるので、早々に修復するよう申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-2 |
| 399 | 延享元年 | 1744 | 8月11日 | 昨10日の暴風雨により、本城・三の丸・役所、家中や両町が破損したと役人たちが書付を差し出した。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-2 |
| 400 | 延享元年 | 1744 | 8月12日 | 駕塚市左衛門の話によると、佐野寿右衛門と坊主の久根田喜斎の家が一日の暴風によって大破したので、それぞれに資材や仮設の住居を提供した。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-2 |

文献史料記事一覧 (17)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|-----|-------|------|--------|---|--------|----------|--------------|
| 401 | 延享元年 | 1744 | 8月16日 | 源十郎の部屋の障子等25枚の張り替えに必要な紙12束ほどを、役人が受け取ったとの書付があった。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-2 |
| 402 | 延享元年 | 1744 | 8月17日 | 破損した二の丸の屋形と土蔵は当分の間は修復しない。片づけて使える部材は、三の丸の修復に使用する。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-2 |
| 403 | 延享元年 | 1744 | 8月19日 | 二の丸の屋形や土蔵を本日片付けるので、長谷川丹下が見分のため登城した。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-2 |
| 404 | 延享元年 | 1744 | 8月26日 | 勘定頭の作之丞によると、修復に必要な資材について書付があった。かや、なよ竹、から竹、縄、折枝、檜、なかつち、わらび縄など。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文19-2 |
| 405 | 延享元年 | 1744 | 10月6日 | 作事奉行の平助によると、三の丸書院向かいの塀の修理に必要な資材、作業員がどれくらい必要か、書付の提出があった。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文20-1 |
| 406 | 延享元年 | 1744 | 10月 | 今回の風雨洪水の被害を、公儀へ届け出た旨の書状が江戸から到着。城は全ての二重櫓が破損し、二の丸平櫓、本丸外曲輪南の石垣も損壊した。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-20 |
| 407 | 延享元年 | 1744 | 11月11日 | 城山の倒れた木を、8月の暴風雨により家が壊れた家中の者に提供する。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文20-1 |
| 408 | 延享元年 | 1744 | 11月21日 | 三の丸の塀や園(庭園カ)の復旧に必要な材木等の見積り。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文20-1 |
| 409 | 延享元年 | 1744 | 12月6日 | 山奉行から塩屋村の庄屋へ城山・萩山の御立林にて木材と冥加銀を与えられた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文20-1 |
| 410 | 延享2年 | 1745 | 正月21日 | 8月10日の風雨で折れた木材を、明後日23日から下されることについての注意を、山奉行をはじめ諸役人に申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文20-2 |
| 411 | 延享2年 | 1745 | 12月6日 | 会所にて、山城が大破しているので、来春から修復するつもりであることを申し渡し、見積りを求めた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-31 |
| 412 | 延享2年 | 1745 | 12月か | 城修復のための費用と姫様の婚礼のため費用の確保のため、城山の檜、雑木を伐採して売却することなどについて。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-21 |
| 413 | 延享3年 | 1746 | 正月3日 | 源十郎をはじめ、家老、郡代、目付が本城へ上がった。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-32 |
| 414 | 延享3年 | 1746 | 5月17日 | 今度の山城修復のため、給人までは知行高に応じて夫役を差し出すべきこと、合わせて格別の修復なので、用意ができ次第差し出すことを会所で申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-32 |
| 415 | 延享3年 | 1746 | 5月17日 | 今年春からの城普請に際し、今月21日から行う土取りの奉行を家中の5人に仰せ付けられ、1か月に6回ずつ交代で行うことが申し付けられた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-32 |
| 416 | 延享3年 | 1746 | 5月20日 | 本城の修復が今後仰せ付けられるにあたり、当分の土取りは家中で行うので、奉行5人の家で1か月に6度ずつ行うよう仰せ付けられた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-32 |
| 417 | 延享3年 | 1746 | 5月22日 | 本城の土取り初めのため、奉行は残らず登城し、作事奉行、小頭も出席した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-32 |
| 418 | 延享4年 | 1747 | 正月3日 | 今日、定めにより山城へ上ろうとしたところ、雨天のため延期した。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文20-4 |
| 419 | 延享4年 | 1747 | 正月3日 | 雨天のため本城への登山は中止した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 420 | 延享4年 | 1747 | 正月11日 | 今月3日の山城に上がりが、雨天のため延期したので、本日家老や大工棟梁が(山頂に)詰めた。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | 岩文20-4 |
| 421 | 延享4年 | 1747 | 3月1日 | 今月12日から本城修復に取り掛かるので、このことを家中一同に家老から言い渡された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 422 | 延享4年 | 1747 | 3月1日 | 12日から本城修復に取り掛かるので、城で書付によってそれぞれに申し伝えた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 423 | 延享4年 | 1747 | 3月12日 | 本城の普請が始まったので、(佐久間)織右衛門が登城した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 424 | 延享4年 | 1747 | 3月19日 | 本城に用いる金属製の鱧を府内の駄原に発注したので、船頭町年寄弥三兵衛父子に鱧の木型、絵図、注文書を渡し、近々出向くよう申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 425 | 延享4年 | 1747 | 3月22日 | 山城の斧初めを行い、全員麻の袴で出席した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |

文献史料記事一覧 (18)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|-----|-------|------|-------|--|--------|----------|--------------|
| 426 | 延享4年 | 1747 | 3月27日 | 塩飽屋弥惣兵衛が、府内駄原の金屋理右衛門に唐金青銅の鯨を発注して来た。往來にかかった費用や鯨の値段、絵図、木型、注文書も家老中へ差し出した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 427 | 延享4年 | 1747 | 4月28日 | 鯨の値段を確認し、弥惣兵衛に注文のとおり入念に仕立てよう申し付けさせたところ、府内へ出向き直接伝えたいと申し出てきた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 428 | 延享4年 | 1747 | 4月30日 | 鯨を注文する絵図には釘穴をあけるよう仰せ付けられた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 429 | 延享4年 | 1747 | 5月3日 | 城の櫓に用いる鯨の発注について、船頭町塩飽屋弥三兵衛が府内の金屋理右衛門方へ出向き依頼したところ、今月20日頃には一対完成するとのこと。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 430 | 延享4年 | 1747 | 5月3日 | 本城の鯨の発注について、船頭町塩飽屋弥三兵衛方から府内駄原金屋理右衛門方へ絵図を渡して、間違いの無いように伝えることを申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 431 | 延享4年 | 1747 | 5月9日 | 本城の鯨について、利右衛門へ今月4日に釘穴をあけた絵図を渡したところ、絵図通りにするよう心得、入念に仕立てると申したとのこと。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 432 | 延享4年 | 1747 | 5月11日 | 船頭町塩飽屋弥三兵衛方から府内駄原金屋理右衛門方へ、御用のため飛脚を度々遣わしたので、必要な代銀を書き付けて差し出すよう伝えた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 433 | 延享4年 | 1747 | 5月11日 | 両町年寄から、この度の修復は大規模なので町からも作業員の加勢をしたい旨を家老に申したところ、奇特なことなので、追って仰せつけると申し伝えた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 434 | 延享4年 | 1747 | 5月25日 | 本城の修復のための雁木(梯子)が不足するので、町人所有ののぼり竹を借用する件で、員数と寸法を書き付け、後に同様の竹を返却することを両町へ申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 435 | 延享4年 | 1747 | 5月29日 | 金屋理右衛門方から塩飽屋弥惣兵衛方へ飛脚が来て、注文を受けた鯨が出来たので、人を遣わしてほしいと申したので、そうするよう申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 436 | 延享4年 | 1747 | 6月2日 | 本城修復のための材木を取り寄せたので、両町から船と作業員を出し、山城へ持ち上げさせるよう申し渡した。桶、椎の数量と作業員数について。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 437 | 延享4年 | 1747 | 6月3日 | 塩飽屋弥三兵衛が金屋理右衛門方へ遣わした者が、鯨一対を持ち帰った。ことのほか良い出来なので、弥三兵衛へ褒美を取らせることを申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 438 | 延享4年 | 1747 | 6月6日 | 両町から先月中に差し出した作業員は合計33人。18人は内町からで、うち小船1艘1人役。15人は船頭町からで、うち小船4艘4人役。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 439 | 延享4年 | 1747 | 6月6日 | 先日仰せ付けられた、桶材木と椎丸太を両町から山城の上まで持ち上げる作業員について、御用番へ差し出した。材木数量と作業員数について。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 440 | 延享4年 | 1747 | 6月6日 | 本城の北出丸の修復のため、これまでは佐久間織右衛門と箕川主水に当直を仰せ付けていたが、今日から西名兵右衛門を加えて三人に仰せ付けられた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 441 | 延享4年 | 1747 | 6月16日 | 本城に諸役人を呼び、儉約を心がけること、今年は大漁なので年貢を油断なく取り立てること、そのほか本城の修復をすることを家老中から申し渡された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 442 | 延享4年 | 1747 | 6月21日 | 本城の修復のためみな精を出しているので、褒美が下されることを仰せ渡された。また支配方の者にも褒美が下されることも仰せ渡された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 443 | 延享4年 | 1747 | 6月24日 | 北の方の鯨一対が完成し、駄原から馬で届いたと弥三兵衛から申し出があった。勘解由へ伝えたところ、さらに2対注文したいと相談があり、申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 444 | 延享4年 | 1747 | 6月24日 | 弥三兵衛から鯨の代金等として76文銭250目と銭4×文を駄原の金屋理右衛門へ渡すよう、御用番へ申し出があった。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 445 | 延享4年 | 1747 | 6月25日 | 本城に使う材木は大坂本山で取るよう仰せ付けられ、伐り出すため役人が本城へ召出され、家老から直に申し渡された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 446 | 延享4年 | 1747 | 7月8日 | ちゃん塗りに使用するため、桐の実6升を明日9日午後4時頃までに差し出すよう両町の年寄たちへ申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 447 | 延享4年 | 1747 | 7月9日 | 塩飽屋弥惣兵衛が申すには、府内駄原鑄物師利右衛門は、追加された小形の鯨2対は、以前の値段で造れるとのこと、2対を発注するよう申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 448 | 延享4年 | 1747 | 7月13日 | 府内駄原金屋理右衛門方から船頭町塩飽屋弥惣兵衛方へ、本城で必要な鯨が残らず出来たと申ししてきたので、御用番の戸倉織部へ伝えた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 449 | 延享4年 | 1747 | 7月14日 | 城の修復は、盂蘭盆のため休みとした。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 450 | 延享4年 | 1747 | 9月15日 | 本城のちゃん塗りのため出していた内町の与右衛門は、病気になる自宅にこもっていたが、少し回復したので明日から出勤する予定である。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |

文献史料記事一覧 (19)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|-----|-------|------|--------|---|--------|-------------|--------------|
| 451 | 延享4年 | 1747 | 9月28日 | 再来年の藩主(高丘)の初入部のため、来年から取り掛かる三の丸の修復の詳細について。また米蔵も大破のため、来年から修復を担当する奉行について。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-22 |
| 452 | 延享4年 | 1747 | 11月9日 | 本城の古木や材木は本日1日(山頂から)下したので、在浦から作業員を1,000人程差し出し、古材木を残らず片付けた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 453 | 延享4年 | 1747 | 11月9日 | 本城の修復は6日に完了し、7・8日は古瓦を片付けた。今日は古材木を残らず片付け、両町在浦から作業員1,020人の加勢があったので、米3合ずつを与えた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 454 | 延享4年 | 1747 | 11月10日 | 本城の修復が完了し、古材木まで残らず片付けられたので、我々兩人(佐久間織右衛門、寶川主水)は今日から役所へ出勤する。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 455 | 延享4年 | 1747 | 11月11日 | 会所勤務が終わって本城へ登山した。家老が見分し、3か所の世話役、諸役人、小頭などが参り、その後三の丸へ登城して家中の者から修復成就の喜びを申し上げた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 456 | 延享4年 | 1747 | 11月26日 | 本城に使用した瓦を焼かせた瓦師の切畑村七兵衛が、古市村と上岡村境に小屋場と窯場を設けたいと願い出たので、吟味の上願い通り申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-22 |
| 457 | 延享4年 | 1747 | 12月11日 | 古市村宮野下の上畑6畝16歩・田畝26歩は、先般御用瓦の焼き場として年貢を免除したので、そのまま免除とするよう申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-33 |
| 458 | 延享4年 | 1747 | | 山城の櫓やすべての壁がひどく破損したので、これまでの道具を工面して、小型に立て直すよう仰せ付けられた。 | 温故知新録 | 羽野家所持毛利氏先祖書 | 『温故』二 p413 |
| 459 | 延享5年 | 1748 | 正月3日 | 山城に上が ^り 、家老、郡代、目付からお祝いを申し上げた。作事奉行と大工棟梁は(山城へ)詰めた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-34 |
| 460 | 延享5年 | 1748 | 2月22日 | 去年の城修復で精を出した、家中・家老・世話焼きの面々に対し褒美を取らせた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-34 |
| 461 | 延享5年 | 1748 | 2月28日 | 城修理に携わった、在浦の作業員に樽と肴が下された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-34 |
| 462 | 延享5年 | 1748 | 2月28日 | 城修復のお祝いとして、両町年寄・目付へ酒3斗、鯛5本を両町へ下し、しゃちほこ調達の世話をした弥(惣)兵衛には金百疋を与えた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-34 |
| 463 | 寛延2年 | 1749 | 正月3日 | 取次以上が(藩主の)お供をして山城へ上が ^り 、その後三の丸で吸物、酒で祝いをした。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-35 |
| 464 | 寛延2年 | 1749 | 正月3日 | 山城に上が ^り 、源十郎様をはじめ家老、郡代、目付からお祝いを申し上げた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-35 |
| 465 | 寛延2年 | 1749 | 7月6日 | 山城の本丸にて棟上式を無事に終えた。殿様も山へ上が ^り 、櫓や塀が格好良く出来上がっているのが、満足された様子だった。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-35 |
| 466 | 寛延2年 | 1749 | 7月6日 | 殿様が山へ上がったときお供した者は、数日は山城へ詰めること。見分が終わった後、三の丸へ下り、上棟と殿様帰国の祝いとして、お供をした者共と共に酒・赤飯・吸物がふるまわれた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-35 |
| 467 | 寛延3年 | 1750 | 正月3日 | 例年のとおり、取次以上が供をして山城に上が ^り 、三の丸で祝いの儀式をして吸物と酒を頂戴した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-37 |
| 468 | 寛延3年 | 1750 | 正月3日 | 本城へは、書院から輿に乗ってお上が ^り になった。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-146 |
| 469 | 寛延3年 | 1750 | 正月3日 | 本城を残らず見分し、西の丸、二の丸、本丸外曲輪。北の丸の櫓の見分が済み、平櫓に着座し、熨斗で祝いを下山した。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-146 |
| 470 | 寛延3年 | 1750 | 正月3日 | 城に帰り、三の丸の居間で浪江様とともに雑煮、吸物、酒で祝いをした。取次以上、目付、作事奉行、棟梁へも吸物と酒を下され、祝いをした。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-146 |
| 471 | 寛延4年 | 1751 | 正月3日 | 波江様が山城へ上が ^り 、家老、用人、郡代、目付も上がった。作事奉行と大工棟梁は先に来て詰めていた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-38 |
| 472 | 寛延4年 | 1751 | 正月3日 | 櫓をすべて見分し、平櫓で熨斗を出し、茶を召し上がった。用人、郡代、家老からお祝いを申し上げた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-38 |
| 473 | 宝暦2年 | 1752 | 正月3日 | 本城へ上が ^り 、三の丸で取次以上、目付、作事方へ吸物と酒を下された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-39 |
| 474 | 宝暦2年 | 1752 | 正月3日 | 本城の西の丸、二の丸、本丸外曲輪と北の丸の櫓を見分し、平櫓に着座して、熨斗で祝った。 | 佐伯藩政史料 | 御用日記 | D-III-150 |
| 475 | 宝暦3年 | 1753 | 正月3日 | 本城へ登城し、家老、用人、郡代、作事奉行、大工棟梁も登城して同席した。浪江様も登城し、櫓を全て見分したのち平櫓で熨斗を出して祝った。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-40 |

文献史料記事一覧 (20)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|-----|-------|------|-------|---|--------|----------|--------------|
| 476 | 宝暦4年 | 1754 | 正月3日 | 本城へ上がり、取次以上、目付、作事方が詰めた。帰城し、三の丸で祝いの吸物、酒を下された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-41 |
| 477 | 宝暦5年 | 1755 | 正月3日 | 例年どおり家老・用人・郡代・目付・作事奉行・大工棟梁が城山へ登る予定だったが、大雪のため延期した。浪江様も登城しなかった。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-42 |
| 478 | 宝暦5年 | 1755 | 正月7日 | 本城へ家老・用人・郡代・目付が登った。作事奉行・大工棟梁は先に登って詰めていた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-42 |
| 479 | 宝暦6年 | 1756 | 正月3日 | 正月3日に取次以上が新年のあいさつを申し上げる際に振るまわれる吸物・酒は、当年より取りやめとする。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-43 |
| 480 | 宝暦10年 | 1760 | 正月3日 | 本城へ上がり、取次以上が参上して祝いを申し上げた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-46 |
| 481 | 宝暦11年 | 1761 | 正月3日 | 藩主高丘は前年死去したが、例年のとおり、本城へ家老、番頭、用人、郡代、目付、作事奉行が登城した。櫓をすべて見分し、平櫓で熨斗を出し、家老へお祝いを申し上げた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-47 |
| 482 | 宝暦13年 | 1763 | 3月29日 | 長瀬村の破損した川除土手45間の修復を、惠葉(江波)に請け負わせる。銀にして3貫27匁余りかかる見込みだが、資材などを吟味して少しでも引き下げる。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-37 |
| 483 | 宝暦13年 | 1763 | 3月29日 | 長瀬村の川除土手修復について、以下の通り見積もった。石1,418艘、石起作業員1,418人、石垣築222人、石溝作業員1,418人、石垣築手伝い666人。作業員計2,084人で、銀にして3貫27匁9分。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-37 |
| 484 | 宝暦13年 | 1763 | 4月2日 | 長瀬村の川除土手修復を備前石工(恵波)に請け負わせたところ、銀2貫940目となった。その他作業の仕様や期限、検査を定めた請負証文。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-37 |
| 485 | 宝暦13年 | 1763 | 4月2日 | 長瀬村の川除土手の普請に用いる石材の置き場を、東風隠谷下ノ鼻、屋敷谷下ノ鼻、三九郎谷下ノ鼻、小谷ノ鼻、大船繫上ノ鼻、長祖ノ鼻、茶屋ヶ鼻、嶋ヶ淵ノ鼻に定めた。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-37 |
| 486 | 宝暦13年 | 1763 | 6月6日 | 先日の洪水で破損した土手の修復は、以前に請け負わせた備前石垣築きの武左衛門が、65匁4分で可能だと申した。秋の出水まで期間もなく、我々がするよりも安く丈夫に仕上がるので、そのように申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-37 |
| 487 | 宝暦13年 | 1763 | 9月12日 | 先の洪水で破損した長瀬村の川除石垣19間について、土手の小口に築く石垣を備前の武左衛門に吟味させ、銀1貫300目で請け負わせた。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-37 |
| 488 | 宝暦14年 | 1764 | 正月27日 | 今日10日18時過ぎころ、船頭町の鍛冶屋から出火、風が強く船頭町は残らず焼失した。翌11日5時頃に鎮火した。 | 温故知新録 | 宝暦日記 | 『温故』十一 p312 |
| 489 | 明和4年 | 1767 | 4月2日 | 大手門の内馬場御用地は往来の差し障りになるため、場所替えを命じられるべきか。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p56 |
| 490 | 明和4年 | 1767 | 4月28日 | 戸倉六郎兵衛ら交代の者が出府してきた。国元の城内の馬場が悪く、同人の屋敷内の一部と取り替えるよう命じられた。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p58 |
| 491 | 明和4年 | 1767 | 5月21日 | 藩財政の諸改革のため、一緒にしていた表と奥の台所を別々にした方が都合が良いと相談し、殿に報告しておいた。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p60 |
| 492 | 明和4年 | 1767 | 6月6日 | この1、2年平給人たちが広間の取次の補佐役を務めるようになったが、用事が進まない為、以前のおおりの補佐役は指名する。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p61 |
| 493 | 明和6年 | 1769 | 7月28日 | 本日15時半に強い地震があったので、家老・番頭・拙者共(黒木常右衛門・并河奎のうち)・目付が会所へ出座した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-55 |
| 494 | 明和6年 | 1769 | 7月28日 | 午後2時半頃に津波が来たと噂があったので、会所へ出座したところ、噂は両町の男女が城内に集まり、騒いだことが原因だった。津波が来るまではみだりに城内に入らないよう、町年寄に申し付けた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-55 |
| 495 | 明和6年 | 1769 | 8月2日 | 先日の地震で城の石垣が壊れていないか見分するために、家老中・番頭・拙者共(黒木常右衛門・并河奎)・目付が登城した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-55 |
| 496 | 明和6年 | 1769 | 9月10日 | 7月28日15時過ぎに強い地震があり、津波が来ると風聞がおこった。長嶋・松ヶ鼻・榊形に人を詰めさせ、波が来れば異風筒で合図するよう申し付けた。火の始末に注意し、変事に対応する者を会所に集めた。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p104 |
| 497 | 明和6年 | 1769 | 9月10日 | 7月28日15時過ぎの地震の後、津波が来るという風聞により、徳十郎様は三の丸へ登城し、夜中様子を見ていたが、異常はなかった。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p105 |
| 498 | 明和6年 | 1769 | 9月10日 | 28日の夜から翌朝まで強い風雨だったため、山城とその他の破損か所の書付を調査した上で改めて申し送る。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p105 |
| 499 | 明和7年 | 1770 | 正月8日 | 天候不順や地震・落雷・大風雨が重なって生じた昨年の被害報告が届いた。本丸石垣の崩れ、西出丸櫓下石垣の崩れと土台の沈下、三の丸櫓門脇の石垣の崩れのほか、田畑や屋敷・土手・人馬の被害。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-56 |
| 500 | 明和7年 | 1770 | 正月17日 | 12月29日3時頃に内町の中嶋町から出火し、暴風のため消化できず、中嶋町・古市町・中町・本町・鉄砲町を焼失した。9時過ぎに鎮火した。との知らせが届いた。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p114 |

文献史料記事一覧 (21)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|-----|-------|------|--------|---|--------|----------|----------------|
| 501 | 明和7年 | 1770 | 2月24日 | 昨年の地震破損した本城の三の丸の修復願いの下書きの絵図を、幕府の祐筆の服部善太夫に見ていただいた。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p118 |
| 502 | 明和7年 | 1770 | 3月6日 | 佐伯城が地震により破損した所の修復願いを申し上げるため、絵図を差し出したところ、月番老中がお受け取りになられた。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p119 |
| 503 | 明和7年 | 1770 | 3月7日 | 昨日差し出された佐伯城修復は願いどおり命じられた旨を、伺いの絵図面に付け札をして指図があった。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p119 |
| 504 | 明和7年 | 1770 | 3月9日 | 国元の本城修復の願書と絵図面を差し出したところ、月番老中板倉佐渡守が首尾よく受け取られたので帰ってきた。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p122 |
| 505 | 明和7年 | 1770 | 3月14日 | 去る9日にお願ひ申し上げた国元の本城と三の丸の修復が願いのとおり沙汰された。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p123 |
| 506 | 明和7年 | 1770 | 閏6月3日 | 城の石垣の修理の許可が出た。数年前に備前から佐伯に移り住んだ、次三郎という者が巧者だとのことなので、吟味のうえ採用した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-56 |
| 507 | 明和8年 | 1771 | 正月3日 | 例年の通り、家老中・番頭・用人・郡代・目付が山城へ上がらぬ櫓を残らず見分したあと、平櫓にて新年の祝いを述べた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-57 |
| 508 | 明和8年 | 1771 | 7月8日 | 番頭の井河奎から、三の丸修復のため、奉行として御用人の長谷川園右衛門と当役拙者(佐久間仲・斎藤衛士)に仰せつけられたことを聞いた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-57 |
| 509 | 明和8年 | 1771 | 9月22日 | 家中のうち中小性以上が登城し、来年藩主が帰国するので城の修復は手軽に行うよう、家老から申し渡された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-57 |
| 510 | 明和9年 | 1772 | 正月3日 | 正月3日に山城へ上がる予定だったが、昨日の雨により道が悪くなっているため延期する。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-58 |
| 511 | 明和9年 | 1772 | 正月25日 | 来年殿が初国入りをされるので、三の丸を今年の春から急いで修復を命じられ、奉行を長谷川園右衛門らに命じられた。 | 温故知新録 | 明和日記 | 『温故』十二 p178 |
| 512 | 明和9年 | 1772 | 正月29日 | 三の丸の修復方奉行に用人の長谷川園右衛門と拙者(黒木齋富・井河奎)が仰せつけられた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-58 |
| 513 | 明和9年 | 1772 | 2月朔日 | 三の丸の修復が今日から始まった。仲(佐久間)が修復場所へ詰め、初日は兩人(仲・斎藤衛士)とも午前7時頃に登城した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-58 |
| 514 | 明和9年 | 1772 | 7月8日 | 三の丸修復で、時節柄竹木を伐るのは良くないので、当分は大工を減らし、奉行3人のうち、1人ずつ半日交代で詰めること。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-58 |
| 515 | 明和9年 | 1772 | 8月7日 | 城の修復を見分するために、番頭・郡代・目付・作事奉行が城を出た後に登城した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-58 |
| 516 | 明和9年 | 1772 | 11月2日 | 三の丸の修復奉行の長谷川園右衛門が、江戸へ行くための早船がなかったので、今は場所へ拙者共(黒木常右衛門・井河奎)が交代で詰めている。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-58 |
| 517 | 安永2年 | 1773 | 閏3月10日 | 三の丸修復が完了した。番頭・目付が見分し、拙者(黒木常右衛門)ら・作事奉行吉田・山田と修理に関わった者、大工頭梁倉助・長左衛門が同席した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-58 |
| 518 | 安永2年 | 1773 | 7月1日 | 三の丸修復の祝儀として、奉行をはじめ修復にあたった者たちに褒美が下された。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-59 |
| 519 | 安永2年 | 1773 | 4月17日 | 三の丸の修復が残らず出来たこと、さらに大坂の川御座船の修復がよく出来たことを言ってきた。 | 温故知新録 | 安永日記 | 『温故』十三 p24 |
| 520 | 安永2年 | 1773 | 8月12日 | 殿は書院へ着座し、小林九左衛門はじめ取次以上が太刀・目録によって挨拶を申し上げ、盃が下された。 | 温故知新録 | 安永日記 | 『温故』十三 p42 |
| 521 | 安永2年 | 1773 | 8月28日 | 長谷川・佐久間・斎藤は三の丸の修復奉行として精を出して勤めたため、殿様から褒美を下された。 | 温故知新録 | 安永日記 | 『温故』十三 p44 |
| 522 | 安永2年 | 1773 | 8月28日 | 下川七郎右衛門・穴見只七を呼び出し、本城やその他の修復に精を出して勤めたので金300足ずつを下されることを申し渡した。 | 温故知新録 | 安永日記 | 『温故』十三 p44 |
| 523 | 安永2年 | 1773 | 9月2日 | 殿様が山城へ初めて上がり、城中を残らず見分した。ご祝儀として詰めていた取次に酒と吸物が振舞われたので、直にお礼を申し上げた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-59 |
| 524 | 安永3年 | 1774 | 正月3日 | 殿様が本城へ上がるので、取次以上が先に上がり詰めた。その後下へ降りて、取次以上が揃って新年のお喜びを申し上げた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-60 |
| 525 | 天明6年 | 1786 | 11月13日 | 鍵の間での行灯について、歩行(徒士)・足軽ではわからないので広間へ燭台を差し出す際は、広間の行灯は鍵の間の敷居をまたいで置くこと。 | 温故知新録 | 天明日記 | 未刊行 |

文献史料記事一覧 (22)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|-----|-------|------|--------|---|--------|----------|--------------|
| 526 | 天明8年 | 1788 | 10月9日 | 養賢寺がこの度出府したのでご機嫌伺のため罷り出たが、殿様は体調が悪く、若殿様が書院に出座された。役人・取次も出席し、座敷において料理が下された、 | 温故知新録 | 天明日記 | 未刊行 |
| 527 | 寛政8年 | 1796 | 12月13日 | 城の修復場所にて、番頭達が見分に来たのに、屋出番の安藤齋右衛門が来なかった。理由は朝出番の石井隆左衛門が不快より齋右衛門に頼んで引き延ばさせたためである。兩人には不埒につき、逼塞を命じた。 | 温故知新録 | 寛政日記 | 未刊行 |
| 528 | 寛政10年 | 1798 | 正月29日 | 14時過ぎに田中の関谷善左衛門居宅より出火し、北東の風が強く各地に飛び火し、多くの役所や西町の町屋など238軒が焼失した。船蔵も焼失したが、船は被災から免れた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-84 |
| 529 | 寛政10年 | 1798 | 2月29日 | 先月29日に関谷善左衛門屋敷で出火し、北東の風が強く大火になった。城内の被害はないが、家中屋敷や町屋の多くが焼失した。 | 温故知新録 | 寛政日記 | 未刊行 |
| 530 | 享和2年 | 1802 | 7月21日 | 来年の藩主入部のため、明日から三の丸修復・御召船新造・馬屋建て替えを行う。普請奉行に赤沢・土屋、作事奉行に川野・田原、勘定方に関・大崎・山内を任命した。 | 温故知新録 | 享和日記 | 未刊行 |
| 531 | 享和3年 | 1803 | 正月10日 | 普請奉行の赤沢忠兵衛・土屋六右衛門から、明日11日から普請を開始すると家老へ報告があった。 | 温故知新録 | 享和日記 | 未刊行 |
| 532 | 享和4年 | 1804 | 正月10日 | 作事奉行に三の丸と馬屋の普請を命じていたところ、その他にも持ち場が多く、今は田原が引退して川野一人となって業務に差し支えるので、あらかじめ完成した三の丸・馬屋普請については役を解く。 | 温故知新録 | 享和日記 | 未刊行 |
| 533 | 享和3年 | 1803 | 9月15日 | 赤沢忠兵衛・土屋六右衛門は、去年からの三の丸普請で不正があったため解任し、赤沢は取次役に土屋は隠居という処分を下した。 | 温故知新録 | 享和日記 | 未刊行 |
| 534 | 文化元年 | 1804 | 2月11日 | 山城の天守に置かれていた鉄炮は、これまで覆い屋で雨から守っていたが、ある時期からは覆い屋が無いと家老から聞いたので、武器奉行と作事方へ申し渡した。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-IV-89 |
| 535 | 文化元年 | 1804 | 7月17日 | 6月23日に本城西虎口の門脇の堀・二の丸櫓脇の堀や家中の土蔵に落雷があり、曲輪内を見分した結果、被害はなかった。雷災がこれ以上起きないように、大日寺不動で祈禱を行った。 | 温故知新録 | 文化日記 | 未刊行 |
| 536 | 文化元年 | 1804 | 8月30日 | 8月25日から降り出した雨により、昨夜20時半に角石より下土手筋が決壊し水が城下に入った。市中の者共は山の手へ避難した。船蔵も浸水し船に被害はなかったが、城下本城や三の丸に大きな被害が出た。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-70 |
| 537 | 文化元年 | 1804 | 9月1日 | 一昨日の大雨による被害は、山城にあった多くの櫓群や城門の屋根瓦と番所や堀・金蔵の壁・三の丸御殿の屋根や庭園の樹木、黒門近くの石垣などである。 | 佐伯藩政史料 | 御仕置帳 | D-V-70 |
| 538 | 文化元年 | 1804 | 12月3日 | 経費節減のため行事を省略している期間中は、大手門は年始の飾りつけを行い、搦手・櫓下・玄関前・本城は七五三縄(しめ縄)で飾り付けること。 | 温故知新録 | 文化日記 | 未刊行 |
| 539 | 文化2年 | 1805 | 5月1日 | 会所の建て替えにあたり、以後は建物を三府御役所と呼ぶこと。4月1日からの役所の座席順を絵図の通り仰せ付け、精を出すよう申し伝えた。 | 温故知新録 | 文化日記 | 未刊行 |
| 540 | 文化2年 | 1805 | 5月3日 | 端午の節句で、これまで佐伯城内外の要所に指していた菖蒲について、検約のため今後は大手門・搦手門・櫓門・表・奥・居間・緑側軒・山城西門・会所門とする。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-90 |
| 541 | 文化5年 | 1808 | 3月21日 | 2月25日に臼坪大明神社内にある稲荷宮が城内へ遷座した、との書状が佐伯より届いた。 | 温故知新録 | 文化日記 | 未刊行 |
| 542 | 文化6年 | 1809 | 12月29日 | 佐伯において今月3日18時頃に城下町家より出火し、足軽小屋や町屋が焼失した。翌日6時頃に鎮火し、城内は被害がないとのこと。 | 温故知新録 | 文化日記 | 未刊行 |
| 543 | 文化8年 | 1811 | 5月20日 | 藩主の系譜についてお尋ねがあり、今回は系譜の写しも提出することとされたが、元和3年6月25日に二の丸が焼失したため旧記は焼失し、明暦・享保も屋敷が類焼して古記録を失っていることを説明した。 | 温故知新録 | 文化日記 | 未刊行 |
| 544 | 文政6年 | 1823 | 正月3日 | 例年の通り、家老・番頭・用人・当役・目付・作事奉行が城山へ登り櫓を残らず見分した上、平櫓で家老中と共に新年の祝いをした。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-105 |
| 545 | 天保4年 | 1833 | 正月3日 | 例年のとおり、本城へ家老以下の役人と作事奉行が登山して櫓を見分し、平櫓で熨斗を出し、出席者から家老へお祝いを申し上げた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-115 |
| 546 | 天保9年 | 1838 | 正月3日 | 殿様が書院から輿に乗って登山する前に、家老・番頭・用人・取次以上・医師・作事奉行が先に上った。櫓を見分したのち、平櫓にて新年の祝いを述べ、下山した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-120 |
| 547 | 天保13年 | 1842 | 正月3日 | 殿様が書院から御輿で城山に上った。その前に家老・中老・用人・当役(郡代町奉行)・目付・取次以上・医師・作事奉行が登った。櫓を見分した後、平櫓で新年の祝いをしたのち下山した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-124 |
| 548 | 弘化2年 | 1845 | 正月3日 | 道が悪いので、山城へ登るのは延期する。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-126 |
| 549 | 弘化2年 | 1845 | 正月8日 | 家老中をはじめ役人と作事奉行が登り、櫓の見分を終え、平櫓で新年の祝辞を申し上げた後、下城した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-126 |
| 550 | 嘉永元年 | 1848 | 正月3日 | 例年の通り、正月3日に本城へ登り、取次以上の目付・医師たちが例年の場所にて挨拶を行い、櫓を残らず見分したのち下山した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用日記 | D-IV-127 |

文献史料記事一覧 (23)

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 大意・概要 | 史料分類 | 史料名 | 巻号・頁 史料番号 |
|-----|-------|------|------|--|--------|------------------------|--------------|
| 551 | 嘉永2年 | 1849 | 正月3日 | 例年の通り、家老中をはじめ役人・作事奉行が登山した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-IV-127 |
| 552 | 嘉永4年 | 1851 | 正月3日 | 例年の通り、城山へ登られ、新年の祝をした後下山した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-IV-130 |
| 553 | 嘉永5年 | 1852 | 正月3日 | 例年の通り、城山へ登られ、新年の祝をした後下山した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-IV-131 |
| 554 | 安政元年 | 1854 | 正月3日 | 例年の通り、正月3日に城山へ登られた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-IV-132 |
| 555 | 安政2年 | 1855 | 正月3日 | 例年の通り、正月3日に家老たちをはじめ、役人や作事奉行が登山した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-IV-133 |
| 556 | 安政2年 | 1855 | | 発生した安政の大地震で、城内の被害の様子をまとめたもの | 佐伯藩政史料 | 大地震の節破 損荒々惣寄セ 目録 | 雑-17-10 |
| 557 | 安政6年 | 1859 | 正月3日 | 諸役人が本城へ登山した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-IV-135 |
| 558 | 元治2年 | 1865 | 正月3日 | 雨天のため登山を延期した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-IV-136 |
| 559 | 慶応2年 | 1866 | 正月3日 | 天候不順のため登山を延期した。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-IV-137 |
| 560 | 慶応2年 | 1866 | 正月9日 | 乗物を使つての登山は、雨天により延期となった。中小姓以上の給人、惣領一統の支度については嘉永5年正月に規定されていたが、文久3年4月22日の規定改定には、綿服を着るよう定められた。 | 佐伯藩政史料 | 郡方町方御用 日記 | D-IV-137 |

※巻号・頁・資料番号については以下のとおりである。

・温故知新録の記事は、翻刻事業により刊行済みの『佐伯藩史料 温故知新録』のシリーズ番号と掲載頁を省略して記載し、報告書執筆時点で未刊行の記事は未刊行と記載した。

例)『佐伯藩史料 温故知新録』第3集 p297 → 『温故』三 p297

・佐伯藩政史料の記事は、佐伯市教育委員会が付した資料番号を記載した。

佐伯新聞
記事一覽

佐伯新聞記事一覧（1）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 記事見出し | 号・面 |
|----|-------|------|--------|--------------------------|---------|
| 1 | 大正2年 | 1913 | 11月16日 | お伽新聞 郷土小史 鶴谷城 | 35号5面 |
| 2 | 大正2年 | 1913 | 12月21日 | 東西南北 城山の杉 | 40号3面 |
| 3 | 大正3年 | 1914 | 1月1日 | 旧三の丸 | 41号2面 |
| 4 | 大正3年 | 1914 | 2月15日 | 公会堂管理及使用規定 | 47号2面 |
| 5 | 大正3年 | 1914 | 2月15日 | 公会堂貸借契約 | 47号2面 |
| 6 | 大正3年 | 1914 | 4月5日 | 校風の樹立 | 53号1面 |
| 7 | 大正3年 | 1914 | 4月26日 | お伽新聞 城山の緑 | 56号6面 |
| 8 | 大正3年 | 1914 | 8月9日 | 今昔物語 佐伯学校 上 | 71号1面 |
| 9 | 大正4年 | 1915 | 1月10日 | 今昔物語 西南戦争 上 | 92号1面 |
| 10 | 大正4年 | 1915 | 1月10日 | 佐伯校水浴場 | 92号5面 |
| 11 | 大正4年 | 1915 | 3月10日 | 今昔物語 佐伯の大水 下 | 100号1面 |
| 12 | 大正4年 | 1915 | 3月14日 | 佐中の卒業生 送別会と謝恩会 | 101号5面 |
| 13 | 大正4年 | 1915 | 4月11日 | 今昔物語 安政の大地震 一 | 105号1面 |
| 14 | 大正4年 | 1915 | 4月11日 | 昭憲皇太后遙拜式 | 105号2面 |
| 15 | 大正4年 | 1915 | 4月25日 | 佐伯町の発展策について(三) | 107号3面 |
| 16 | 大正4年 | 1915 | 5月30日 | 今昔物語 松関の吟詠 | 112号1面 |
| 17 | 大正4年 | 1915 | 5月30日 | 怪しき僧侶 遂に城山にて捕獲す | 112号7面 |
| 18 | 大正4年 | 1915 | 6月20日 | 今昔物語 大力自慢 | 115号1面 |
| 19 | 大正4年 | 1915 | 7月18日 | 読者倶楽部 | 119号6面 |
| 20 | 大正4年 | 1915 | 8月1日 | 涼しい木陰 | 121号4面 |
| 21 | 大正4年 | 1915 | 9月5日 | 露営の記 城山山頂にて | 126号4面 |
| 22 | 大正4年 | 1915 | 9月5日 | 城山の怪声 正体発見者へ懸賞 勇士探検の為め登山 | 126号5面 |
| 23 | 大正4年 | 1915 | 10月10日 | 好個の記念 | 131号1面 |
| 24 | 大正4年 | 1915 | 10月17日 | 城山路の修築 軍人会の記念作業 | 132号5面 |
| 25 | 大正4年 | 1915 | 10月24日 | 今昔物語 城山の話 | 133号1面 |
| 26 | 大正4年 | 1915 | 10月24日 | 城山の飛行機見物 | 133号2面 |
| 27 | 大正4年 | 1915 | 10月24日 | 城山の道普請 | 133号3面 |
| 28 | 大正4年 | 1915 | 10月24日 | 城山公園工事 雅趣に富む遊覧地 | 133号7面 |
| 29 | 大正4年 | 1915 | 11月28日 | 此次は何か | 137号1面 |
| 30 | 大正4年 | 1915 | 11月28日 | 美しき作業 城山公園の大掃除 | 137号5面 |
| 31 | 大正4年 | 1915 | 11月28日 | お伽新聞 世間ばなし | 137号8面 |
| 32 | 大正4年 | 1915 | 12月12日 | 公園を愛護せよ | 139号1面 |
| 33 | 大正5年 | 1916 | 1月1日 | 東西南北 登山と水泳 | 142号11面 |
| 34 | 大正5年 | 1916 | 2月13日 | 佐伯より | 148号5面 |
| 35 | 大正5年 | 1916 | 2月20日 | 読者倶楽部 | 149号6面 |

佐伯新聞記事一覧（2）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 記事見出し | 号・面 |
|----|-------|------|--------|------------------------------|--------|
| 36 | 大正5年 | 1916 | 4月16日 | 城山だんご 城山に茶屋が出来る | 156号5面 |
| 37 | 大正5年 | 1916 | 4月23日 | 明神様のお祭 三の丸は相応しい | 157号5面 |
| 38 | 大正6年 | 1917 | 3月25日 | 城山為めにゆらぐ 歓呼熱叫の声 | 204号5面 |
| 39 | 大正6年 | 1917 | 6月10日 | 海軍々楽隊上陸 喇叭隊、無線電信隊 | 215号5面 |
| 40 | 大正6年 | 1917 | 6月24日 | 日豊線工事近況 城山隧道開鑿困難 番匠鉄橋工事は九月以後 | 217号5面 |
| 41 | 大正6年 | 1917 | 9月9日 | 草鞋脚絆で握り飯を持って 鶴城趾に集まる青年四千 | 228号5面 |
| 42 | 大正6年 | 1917 | 10月28日 | 公園を完成せよ | 235号1面 |
| 43 | 大正7年 | 1918 | 1月27日 | 城山公園新道計画 | 248号2面 |
| 44 | 大正7年 | 1918 | 3月17日 | 東京大阪合併の大相撲一行 | 255号3面 |
| 45 | 大正7年 | 1918 | 4月14日 | 佐伯町誌抄(17)古址名勝 一 鶴ヶ城跡 | 258号4面 |
| 46 | 大正7年 | 1918 | 4月28日 | 西南戦記 堅田遺聞 9 | 260号1面 |
| 47 | 大正7年 | 1918 | 4月28日 | 読者倶楽部 | 260号6面 |
| 48 | 大正7年 | 1918 | 5月12日 | 城山の頂上に 宮地嶽さんを | 262号5面 |
| 49 | 大正7年 | 1918 | 5月12日 | 読者倶楽部 | 262号6面 |
| 50 | 大正7年 | 1918 | 5月19日 | 浅慮を排す | 263号1面 |
| 51 | 大正7年 | 1918 | 5月19日 | 宮地嶽講社問題に就て | 263号1面 |
| 52 | 大正7年 | 1918 | 5月26日 | 以ての外の僻事なり(上) 鶴谷外史 | 264号1面 |
| 53 | 大正7年 | 1918 | 5月26日 | 宮地嶽講社問題 | 264号1面 |
| 54 | 大正7年 | 1918 | 6月2日 | 公開状 以ての外の僻事なり(下) 鶴谷外史 | 265号1面 |
| 55 | 大正7年 | 1918 | 6月2日 | 宮地嶽講社問題 町会側の弁明 委員会の顛末 | 265号1面 |
| 56 | 大正7年 | 1918 | 6月2日 | 宮地嶽講社問題 町会側の弁明 町会の決議に非ず | 265号1面 |
| 57 | 大正7年 | 1918 | 6月2日 | 城山にて 独歩を憶ふ | 265号3面 |
| 58 | 大正7年 | 1918 | 6月9日 | 宮地嶽案処分 | 266号1面 |
| 59 | 大正7年 | 1918 | 6月9日 | 宮地嶽問題に就て | 266号1面 |
| 60 | 大正7年 | 1918 | 6月9日 | 神社を鶴城山頭に(上) | 266号4面 |
| 61 | 大正7年 | 1918 | 6月9日 | 読者倶楽部 | 266号6面 |
| 62 | 大正7年 | 1918 | 6月16日 | 神社を鶴城山頭に(下) | 267号4面 |
| 63 | 大正7年 | 1918 | 6月23日 | 池船橋畔 | 268号1面 |
| 64 | 大正7年 | 1918 | 8月25日 | ヒトノウワサ | 277号3面 |
| 65 | 大正7年 | 1918 | 11月3日 | 万歳の声天地に満つ 佐伯の菊花節 祝奉の第一声は城山にて | 287号3面 |
| 66 | 大正7年 | 1918 | 11月3日 | 読者倶楽部 | 287号4面 |
| 67 | 大正7年 | 1918 | 11月24日 | 神社に就て | 290号1面 |
| 68 | 大正7年 | 1918 | 12月1日 | 神社に就て(二) | 291号1面 |
| 69 | 大正9年 | 1920 | 9月26日 | 軍医団原地講話 | 387号2面 |
| 70 | 大正10年 | 1921 | 5月1日 | 愚見の一、二 | 418号1面 |

佐伯新聞記事一覧（3）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 記事見出し | 号・面 |
|-----|-------|------|--------|--------------------------|--------|
| 71 | 大正10年 | 1921 | 5月29日 | 寸馬豆人 | 422号2面 |
| 72 | 大正10年 | 1921 | 8月21日 | 佐伯町で計画中の公会堂と住宅 | 434号3面 |
| 73 | 大正10年 | 1921 | 8月28日 | 公会堂建設諮問案 | 435号3面 |
| 74 | 大正10年 | 1921 | 9月18日 | 日林社事務所 | 438号2面 |
| 75 | 大正10年 | 1921 | 12月4日 | 偶感五題 | 449号1面 |
| 76 | 大正11年 | 1922 | 2月5日 | 読者倶楽部 | 458号4面 |
| 77 | 大正11年 | 1922 | 2月12日 | 読者倶楽部 | 459号4面 |
| 78 | 大正11年 | 1922 | 2月19日 | 佐伯軍人会の城山新道路案 | 460号3面 |
| 79 | 大正11年 | 1922 | 4月30日 | 読者倶楽部 | 470号4面 |
| 80 | 大正11年 | 1922 | 6月18日 | 富久教諭の発見 自生何首烏 三の丸の石垣で採集 | 477号3面 |
| 81 | 大正11年 | 1922 | 12月24日 | 城山の眺望は 天下に稀だと 鈴木大林区署長激賞す | 504号3面 |
| 82 | 大正12年 | 1923 | 2月11日 | 茶目君大挙して 城山の孔雀狩 片岡氏秘蔵の愛禽 | 511号3面 |
| 83 | 大正13年 | 1924 | 2月3日 | 城山道路開鑿 | 561号2面 |
| 84 | 大正13年 | 1924 | 2月10日 | 寸馬豆人 | 562号2面 |
| 85 | 大正13年 | 1924 | 3月16日 | 城山に開鑿する 記念登山道 工兵隊の来援をも請ふ | 567号3面 |
| 86 | 大正13年 | 1924 | 3月23日 | 城山登山道 最後の踏査 九尺幅で全長七八町 | 568号3面 |
| 87 | 大正13年 | 1924 | 5月11日 | 城山道路の工事計画替 工兵隊の来援不可能 | 575号3面 |
| 88 | 大正13年 | 1924 | 5月18日 | 城山新道路 愈々起工 佐伯軍人青年の社会奉仕 | 576号3面 |
| 89 | 大正13年 | 1924 | 5月25日 | 御慶事記念 城山新道路 四百五十間全通す | 577号3面 |
| 90 | 大正13年 | 1924 | 6月1日 | 吾等の共有 城山保護の責任 | 578号1面 |
| 91 | 大正13年 | 1924 | 6月1日 | 慶典記念事業 | 578号2面 |
| 92 | 大正13年 | 1924 | 6月1日 | 工事着々進行の 城山公園 新装正に成らんとす | 578号3面 |
| 93 | 大正13年 | 1924 | 6月8日 | 城山官有(地カ)私下 | 579号2面 |
| 94 | 大正13年 | 1924 | 6月8日 | お節句の城山登山者 約七百名以上に及ぶ | 579号3面 |
| 95 | 大正13年 | 1924 | 6月8日 | 女学生の城山掃除 | 579号3面 |
| 96 | 大正13年 | 1924 | 6月15日 | 登城山公園 | 580号1面 |
| 97 | 大正13年 | 1924 | 6月15日 | 官地使用出願 | 580号2面 |
| 98 | 大正13年 | 1924 | 6月15日 | 投網を打って雌池で鯰魚(さんせうを) | 580号3面 |
| 99 | 大正13年 | 1924 | 6月15日 | 城山茶店に泥棒 | 580号3面 |
| 100 | 大正13年 | 1924 | 6月22日 | 城山公園で 祝賀宴遊会 護憲派の内閣成立祝ひ | 581号3面 |
| 101 | 大正13年 | 1924 | 7月13日 | 城山の道直し 白瀉道開通 佐伯消防鶴岡軍人出動 | 584号3面 |
| 102 | 大正13年 | 1924 | 7月20日 | 城山道竣工式 | 585号2面 |
| 103 | 大正13年 | 1924 | 7月27日 | 城山道竣工式 海軍々楽隊の演奏もある | 586号3面 |
| 104 | 大正13年 | 1924 | 7月27日 | 伏見宮殿下 城山と小半に御微行 | 586号3面 |
| 105 | 大正13年 | 1924 | 8月3日 | 公園道竣工式 | 587号1面 |

佐伯新聞記事一覧（４）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 記事見出し | 号・面 |
|-----|-------|------|--------|--------------------------|--------|
| 106 | 大正13年 | 1924 | 8月3日 | 城山公園の道路竣工式 工費七百五十円十四銭 | 587号3面 |
| 107 | 大正14年 | 1925 | 3月15日 | 城山裏の小火 大山火事の翌日で騒ぐ | 617号3面 |
| 108 | 大正14年 | 1925 | 3月22日 | 毛利家財閥の今年度の事業 公園植樹や優等生表彰等 | 618号3面 |
| 109 | 大正14年 | 1925 | 4月5日 | 桜と楓の苗木 城山公園に植えられた | 620号2面 |
| 110 | 大正14年 | 1925 | 4月5日 | 咲きも残らず 散りも始めぬ桜(のカ)昨今 | 620号3面 |
| 111 | 大正14年 | 1925 | 6月14日 | 城山茶店荒し | 630号3面 |
| 112 | 大正14年 | 1925 | 11月15日 | 城山記念道路 | 652号1面 |
| 113 | 大正14年 | 1925 | 11月15日 | 奉公道路苗木 | 652号2面 |
| 114 | 大正14年 | 1925 | 12月6日 | 城山新橋竣工 | 655号2面 |
| 115 | 大正15年 | 1926 | 1月10日 | 三の丸大弓場 | 659号2面 |
| 116 | 大正15年 | 1926 | 3月28日 | 鶴谷女学校 三の丸に移転 時期は来月二十日ごろ | 670号3面 |
| 117 | 大正15年 | 1926 | 5月30日 | 三の丸射撃場 | 679号2面 |
| 118 | 大正15年 | 1926 | 9月12日 | 閑話 | 694号3面 |
| 119 | 大正15年 | 1926 | 10月24日 | まよかった 城山の昼火事 火因は子供の焚火？ | 700号3面 |
| 120 | 昭和2年 | 1927 | 1月30日 | 閑話 | 713号3面 |
| 121 | 昭和2年 | 1927 | 4月10日 | 銅像を見合せ毛利神社建立 改めて具体案を協議 | 723号3面 |
| 122 | 昭和2年 | 1927 | 6月19日 | 鶴谷女学校舎 三の丸下に増築 現校舎と併用する筈 | 733号3面 |
| 123 | 昭和2年 | 1927 | 7月17日 | 鶴谷女校増築 | 737号2面 |
| 124 | 昭和2年 | 1927 | 8月14日 | 養賢寺の流灌頂 大日寺の川施餓鬼 | 741号3面 |
| 125 | 昭和2年 | 1927 | 9月4日 | 毛利神社建設 | 744号2面 |
| 126 | 昭和2年 | 1927 | 10月9日 | 鶴谷女学校 最初のバザー 落成式と共に明年一月頃 | 749号3面 |
| 127 | 昭和2年 | 1927 | 11月27日 | 毛利神社一件 | 756号2面 |
| 128 | 昭和3年 | 1928 | 1月8日 | 城山で義士会 | 761号3面 |
| 129 | 昭和3年 | 1928 | 6月10日 | 三の丸の午砲 | 783号2面 |
| 130 | 昭和3年 | 1928 | 6月24日 | 毛利社地鎮祭 | 785号2面 |
| 131 | 昭和3年 | 1928 | 8月26日 | 社殿造営準備 | 794号2面 |
| 132 | 昭和3年 | 1928 | 9月16日 | 城山官地払下 | 797号2面 |
| 133 | 昭和3年 | 1928 | 9月16日 | 神殿基礎工事 | 797号2面 |
| 134 | 昭和3年 | 1928 | 10月28日 | 寛龍公を祀る城山毛利神社 内務大臣より建設許可 | 803号3面 |
| 135 | 昭和3年 | 1928 | 11月4日 | 毛利社鎮座式 | 804号2面 |
| 136 | 昭和4年 | 1929 | 2月3日 | 城山公園の道路手入れ 青年総動員でやる | 816号3面 |
| 137 | 昭和4年 | 1929 | 2月17日 | 城山々道改修 | 818号2面 |
| 138 | 昭和4年 | 1929 | 3月4日 | 毛利神社進工 | 820号2面 |
| 139 | 昭和4年 | 1929 | 3月31日 | 城山に吉野桜 | 824号2面 |
| 140 | 昭和4年 | 1929 | 3月31日 | 藩祖高政公へ贈位の策命 六日毛利社鎮座祭 | 824号3面 |

佐伯新聞記事一覧（5）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 記事見出し | 号・面 |
|-----|-------|------|--------|-------------------------|--------|
| 141 | 昭和4年 | 1929 | 4月7日 | 毛利子歓迎会 | 825号2面 |
| 142 | 昭和4年 | 1929 | 4月7日 | 挨拶とご奉祭文 | 825号2面 |
| 143 | 昭和4年 | 1929 | 4月7日 | 高政公墓前に策命使参向 壮厳盛大に奉告祭執行 | 825号3面 |
| 144 | 昭和4年 | 1929 | 4月7日 | 天主台上に神靈鎮座 晴れやかな毛利祭典 | 825号3面 |
| 145 | 昭和4年 | 1929 | 4月21日 | 城山西の山火事 | 827号2面 |
| 146 | 昭和4年 | 1929 | 11月10日 | 毛利社落成式 | 856号2面 |
| 147 | 昭和4年 | 1929 | 11月17日 | 毛利社落成式 | 857号2面 |
| 148 | 昭和4年 | 1929 | 11月24日 | 旨令奉戴の青年記念式 払暁城山々嶽にて | 858号3面 |
| 149 | 昭和5年 | 1930 | 3月30日 | 城山道の作業 青年団の春の行事 | 875号3面 |
| 150 | 昭和5年 | 1930 | 5月24日 | 城山で天気予報 | 883号3面 |
| 151 | 昭和5年 | 1930 | 6月1日 | 内務部長巡視 | 884号2面 |
| 152 | 昭和5年 | 1930 | 6月1日 | 男枕と蓆一枚 | 884号3面 |
| 153 | 昭和5年 | 1930 | 9月21日 | 城山境界争ひ 毛利家対河庄氏 | 900号3面 |
| 154 | 昭和5年 | 1930 | 10月12日 | 毛利社臨時祭 | 903号2面 |
| 155 | 昭和5年 | 1930 | 11月9日 | 城山々上で店員慰安会 表彰された七君 | 907号3面 |
| 156 | 昭和5年 | 1930 | 11月16日 | 毛利社秋季祭 | 908号2面 |
| 157 | 昭和6年 | 1931 | 3月29日 | 奇特な老人 城山に楓を植込む | 926号3面 |
| 158 | 昭和6年 | 1931 | 3月29日 | 城山参道修理 | 926号3面 |
| 159 | 昭和6年 | 1931 | 4月12日 | 毛利神社春祭 | 928号3面 |
| 160 | 昭和6年 | 1931 | 4月15日 | 佐伯の春を彩る 五所社春祭 けふ三の丸へ御神幸 | 号外号1面 |
| 161 | 昭和6年 | 1931 | 4月19日 | 五所明神社 春季大祭 全町祭気分で賑ふ | 929号3面 |
| 162 | 昭和6年 | 1931 | 7月19日 | 勤王志士の碑 城山麓に建設? 建設委員会開かる | 942号3面 |
| 163 | 昭和6年 | 1931 | 9月13日 | 毛利社秋季祭 | 950号2面 |
| 164 | 昭和6年 | 1931 | 9月20日 | 空隊報告祭 十六日毛利神社 | 951号2面 |
| 165 | 昭和6年 | 1931 | 10月4日 | 新佐伯を夢見て(6) | 953号3面 |
| 166 | 昭和6年 | 1931 | 11月8日 | 毛利神社秋祭 | 958号2面 |
| 167 | 昭和6年 | 1931 | 11月15日 | 毛利社秋季祭 | 959号2面 |
| 168 | 昭和6年 | 1931 | 11月22日 | 町青年団の城山参道修理 夜は弁論大会 | 960号3面 |
| 169 | 昭和6年 | 1931 | 11月22日 | 山頂秋晴れて 神楽に賑ふ 城山毛利神社例祭 | 960号3面 |
| 170 | 昭和6年 | 1931 | 11月29日 | 読者倶楽部 | 961号4面 |
| 171 | 昭和7年 | 1932 | 1月1日 | 伸び行く佐伯町のプロフィール | 965号7面 |
| 172 | 昭和7年 | 1932 | 3月13日 | 大佐伯の都市計画に就て(4) | 975号2面 |
| 173 | 昭和7年 | 1932 | 3月13日 | 毛利神社境内拡張 | 975号3面 |
| 174 | 昭和7年 | 1932 | 3月27日 | 城山に桜樹 きのふ二百本を植ゆ | 977号3面 |
| 175 | 昭和7年 | 1932 | 3月27日 | 青年団城山道改修 | 977号3面 |

佐伯新聞記事一覧（6）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 記事見出し | 号・面 |
|-----|-------|------|--------|--------------------------|---------|
| 176 | 昭和7年 | 1932 | 4月3日 | 毛利神社例祭 | 978号2面 |
| 177 | 昭和7年 | 1932 | 4月3日 | けふ青年の城山道路掃除 及び対川原木競技会 | 978号3面 |
| 178 | 昭和7年 | 1932 | 4月10日 | 毛利社春季祭 | 979号2面 |
| 179 | 昭和7年 | 1932 | 4月10日 | 桜花見ごろ 三の丸は夜桜の妍 | 979号3面 |
| 180 | 昭和7年 | 1932 | 5月29日 | 寸馬豆人 | 986号2面 |
| 181 | 昭和7年 | 1932 | 8月7日 | 配水池は 杉谷の裏山 岡村水道主任技師語る | 996号3面 |
| 182 | 昭和7年 | 1932 | 9月18日 | 毛利社神幸祭 | 1002号2面 |
| 183 | 昭和7年 | 1932 | 9月25日 | 吾等の佐伯と都市計画(9) | 1003号1面 |
| 184 | 昭和7年 | 1932 | 9月25日 | 毛利神社 初会の御演出 来月中旬三日間 | 1003号3面 |
| 185 | 昭和7年 | 1932 | 10月2日 | 城山に登りて思ふ | 1004号1面 |
| 186 | 昭和7年 | 1932 | 10月9日 | よもやま | 1005号3面 |
| 187 | 昭和7年 | 1932 | 10月16日 | 日和を待つ 毛利社大祭 昨十五日執行さる | 1006号3面 |
| 188 | 昭和7年 | 1932 | 10月30日 | 吾等の佐伯と都市計画(14) | 1008号1面 |
| 189 | 昭和7年 | 1932 | 10月30日 | 水道工事着手 | 1008号2面 |
| 190 | 昭和7年 | 1932 | 11月6日 | 吾等の佐伯と都市計画(15) | 1009号1面 |
| 191 | 昭和7年 | 1932 | 11月13日 | 吾等の佐伯と都市計画(16) | 1010号1面 |
| 192 | 昭和7年 | 1932 | 11月20日 | 毛利神社例祭 | 1011号2面 |
| 193 | 昭和7年 | 1932 | 11月27日 | 吾等の佐伯と都市計画(18) | 1012号1面 |
| 194 | 昭和7年 | 1932 | 12月4日 | 城山の配水池 竣工は来春二月 | 1013号2面 |
| 195 | 昭和8年 | 1933 | 4月2日 | 佐青総動員 城山登山道の手入れ | 1029号3面 |
| 196 | 昭和8年 | 1933 | 4月2日 | 毛利神社春祭 | 1029号3面 |
| 197 | 昭和8年 | 1933 | 4月23日 | 配水池の工事 コンクリ打ち始まる | 1032号3面 |
| 198 | 昭和8年 | 1933 | 10月15日 | 行列賑々しく けふ神幸祭 三日間賑ふ毛利神社祭 | 1057号3面 |
| 199 | 昭和8年 | 1933 | 10月15日 | 登山道の手入れ | 1057号3面 |
| 200 | 昭和8年 | 1933 | 10月22日 | 毛利神社大祭 中の日には相撲、剣道 | 1058号3面 |
| 201 | 昭和8年 | 1933 | 11月5日 | 仮装犯人捜査 城山で佐伯署の演習 | 1060号3面 |
| 202 | 昭和9年 | 1934 | 1月1日 | 再び佐伯市民に懇ふ(承前) 特に新町会議員諸賢へ | 1068号7面 |
| 203 | 昭和9年 | 1934 | 4月22日 | 城山に遙拝所 | 1084号3面 |
| 204 | 昭和9年 | 1934 | 7月22日 | 城山公園板橋架替へ | 1097号3面 |
| 205 | 昭和9年 | 1934 | 10月7日 | 南豊協会秋場所 二十一日三の丸で | 1108号3面 |
| 206 | 昭和9年 | 1934 | 10月14日 | 毛利社臨時祭 あす神幸祭 催し物はない | 1109号3面 |
| 207 | 昭和9年 | 1934 | 10月21日 | けふ角力大会 三の丸で協会秋場所 | 1110号3面 |
| 208 | 昭和9年 | 1934 | 10月21日 | 毛利神社大祭 | 1110号3面 |
| 209 | 昭和9年 | 1934 | 11月18日 | 毛利神社例祭 | 1114号3面 |
| 210 | 昭和9年 | 1934 | 11月18日 | 令旨奉戴記念式 | 1114号3面 |

佐伯新聞記事一覧（7）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 記事見出し | 号・面 |
|-----|-------|------|--------|--------------------------|---------|
| 211 | 昭和10年 | 1935 | 6月23日 | けふ独歩忌 城山山頂に建碑の議 | 1145号3面 |
| 212 | 昭和10年 | 1935 | 10月6日 | 毛利社臨時祭 力を入れる船頭町区 岩戸神楽も奉納 | 1160号3面 |
| 213 | 昭和10年 | 1935 | 10月13日 | 毛利神社秋祭 岩戸神楽・奉納相撲 | 1161号3面 |
| 214 | 昭和10年 | 1935 | 10月13日 | 城山参道修繕 | 1161号3面 |
| 215 | 昭和10年 | 1935 | 10月20日 | 毛利神社祭 恙なく了る 子爵夫妻も参列して | 1162号3面 |
| 216 | 昭和10年 | 1935 | 11月24日 | 青年学校査閲 | 1167号3面 |
| 217 | 昭和11年 | 1936 | 1月1日 | 鶴谷城の現状想像図のできるまで | 1172号5面 |
| 218 | 昭和11年 | 1936 | 1月12日 | 城山の植物研究と豊後南部分布図作製 | 1173号1面 |
| 219 | 昭和11年 | 1936 | 1月26日 | 配水地に躑躅 | 1175号2面 |
| 220 | 昭和11年 | 1936 | 2月23日 | 婚礼冗費節約 三の丸別殿を建立 神前結婚を奨励 | 1179号3面 |
| 221 | 昭和11年 | 1936 | 3月8日 | おもひ出のふる里よ—2— | 1181号1面 |
| 222 | 昭和11年 | 1936 | 3月15日 | おもひ出のふる里よ—3— | 1182号1面 |
| 223 | 昭和11年 | 1936 | 4月5日 | 三の丸球場 | 1185号3面 |
| 224 | 昭和11年 | 1936 | 4月19日 | 写真説明 | 1187号3面 |
| 225 | 昭和11年 | 1936 | 5月17日 | 毛利社大祭を夏祭に改めよ | 1191号1面 |
| 226 | 昭和11年 | 1936 | 5月17日 | 独歩碑を建つ | 1191号2面 |
| 227 | 昭和11年 | 1936 | 5月17日 | 海協記念行事 | 1191号3面 |
| 228 | 昭和11年 | 1936 | 6月7日 | 独歩碑製作中 灰石材でささやかに | 1194号3面 |
| 229 | 昭和11年 | 1936 | 6月21日 | 独歩の碑 二十三日城山で座談会 | 1196号3面 |
| 230 | 昭和11年 | 1936 | 6月28日 | 独歩忌座談会 城山の記念碑前で | 1197号3面 |
| 231 | 昭和11年 | 1936 | 10月18日 | 毛利社臨時祭 きのふ終る | 1213号3面 |
| 232 | 昭和11年 | 1936 | 11月1日 | 南豊大相撲 来る七日三の丸で | 1215号3面 |
| 233 | 昭和11年 | 1936 | 11月8日 | 明治節遥拜式 | 1216号2面 |
| 234 | 昭和11年 | 1936 | 11月8日 | 城山雑木伐採 西谷方面一帯 | 1216号3面 |
| 235 | 昭和11年 | 1936 | 11月8日 | 南豊相撲けふ秋場所 朝八時から三の丸で | 1216号3面 |
| 236 | 昭和11年 | 1936 | 11月29日 | 旧跡の破壊と郷党の関心 | 1219号1面 |
| 237 | 昭和12年 | 1937 | 2月14日 | 鶴谷女学校 城明渡の悩み 新校舎増築の計画 | 1229号2面 |
| 238 | 昭和12年 | 1937 | 2月21日 | 三の丸一帯の公園化計画 実施期は未予定 | 1230号3面 |
| 239 | 昭和12年 | 1937 | 4月4日 | 東西南北 毛利神社例祭 | 1236号2面 |
| 240 | 昭和12年 | 1937 | 4月4日 | 東西南北 城山道路掃除 | 1236号2面 |
| 241 | 昭和12年 | 1941 | 5月2日 | 配水池域のつつじ満開 ここ当分一般に開放 | 1240号3面 |
| 242 | 昭和12年 | 1937 | 8月15日 | 三の丸明渡は年末にならう 鶴谷女校増築工事 | 1255号3面 |
| 243 | 昭和12年 | 1937 | 10月10日 | 青年総出で祭典執行 毛利神社の秋季大祭 | 1263号3面 |
| 244 | 昭和12年 | 1937 | 10月17日 | 毛利神社祭典 | 1264号2面 |
| 245 | 昭和12年 | 1937 | 11月14日 | 鶴女校新校舎 近く三の丸引あげ | 1268号3面 |

佐伯新聞記事一覧（8）

| 番号 | 年(和暦) | 西暦 | 月日 | 記事見出し | 号・面 |
|-----|-------|------|--------|------------------------|---------|
| 246 | 昭和12年 | 1937 | 11月14日 | 毛利神社例祭 | 1268号3面 |
| 247 | 昭和12年 | 1937 | 11月21日 | 毛利社例祭に筑波侯来町 喜代子夫人も久々で | 1269号2面 |
| 248 | 昭和13年 | 1938 | 1月1日 | 新年 | 1274号1面 |
| 249 | 昭和13年 | 1938 | 3月6日 | 軍友集まれ 十日三の丸で総会 | 1283号2面 |
| 250 | 昭和13年 | 1938 | 3月13日 | 陸軍記念日に老兵士の集ひ 佐伯軍友会の行事 | 1284号3面 |
| 251 | 昭和13年 | 1938 | 4月3日 | 毛利神社例祭 | 1287号2面 |
| 252 | 昭和13年 | 1938 | 4月3日 | 東西南北 城山道路掃除 | 1287号2面 |
| 253 | 昭和13年 | 1938 | 4月3日 | 東西南北 佐伯署員登山 | 1287号2面 |
| 254 | 昭和13年 | 1938 | 7月10日 | 東西南北 三の丸松大枝 | 1301号2面 |
| 255 | 昭和13年 | 1938 | 8月21日 | 副会長辞任や新事業計画で 佐伯婦人会漸く多事 | 1307号2面 |
| 256 | 昭和13年 | 1938 | 9月11日 | 独語(四) 毛利社祭典 | 1310号1面 |
| 257 | 昭和13年 | 1938 | 10月23日 | 気ぜわしい毛利社秋祭 青年団総出で奉仕 | 1316号2面 |
| 258 | 昭和13年 | 1938 | 11月27日 | 歌と人と私(9) | 1321号1面 |
| 259 | 昭和13年 | 1938 | 12月4日 | 諸会合に三の丸供用 但し若干の席料を徴す | 1322号3面 |
| 260 | 昭和13年 | 1938 | 12月18日 | 友を偲びて | 1324号1面 |

佐伯市文化財調査報告書 第12集
佐伯城跡総合調査報告書
資料編

2022年3月31日

発行 佐伯市教育委員会
〒876-0831 大分県佐伯市大手町1丁目2番25号
(佐伯市歴史資料館内)
TEL 0972-22-4234 FAX 0972-22-0701

印刷 株式会社 佐伯コミュニケーションズ 佐伯営業所
〒876-0823 大分県佐伯市女島9032
TEL 0972-23-0170 FAX 0972-23-0171

